

市民の声を施策に反映
まちづくりネットモニター
を実施しました



ターゲット 16.6

令和2年8月26日
(ネットモニターに関すること)
郡山市政策開発部広聴広報課
担当：上田 利実
TEL：924-2061
※ 調査内容については担当まで。

SDGs ターゲット 16.6 「全ての人々に説明責任のある包摂的な制度を構築する」

2020年度まちづくりネットモニター（第1、2、4回調査）の調査結果をお知らせします。

○調査概要（詳細は別紙のとおりです。）

・第1回(5月15日(金)～24日(日))

| | |
|--------|---|
| テーマ | SDGs（エスディーゼズ）の関心度について |
| 目的 | 認知度・関心度を把握するとともに、今後の取り組みの参考とするため |
| 考察 | 認知度は前回調査(2019年)と比べ大幅に上昇(26.4%増)しており、周知・PRの効果が現れていると考えられる。一方で関心がない人も一定数いることから、これまでの周知に加え、関心がない人への興味を喚起する効果的な周知・PRが必要である。 |
| 回答者数/率 | 335名(男性 159名 女性 176名) 93.1% |
| 担当 | 政策開発部政策開発課 猪股 秀行 TEL：924-2021 |

・第2回(6月3日(水)～12日(金))

| | |
|--------|---|
| テーマ | 日本遺産 |
| 目的 | 日本遺産認定から4年が経過し、市民の皆さまが感じていることや、日本遺産の今後の活用について、意見を把握するため |
| 考察 | 日本遺産に関する認知度とともに、関心度や活動意欲も前年よりも高くなった。今後、様々な立場の方が活躍できる場を設け、日本遺産の機運を高めていきたい。 |
| 回答者数/率 | 329名(男性 155名 女性 174名) 91.4% |
| 担当 | 文化スポーツ部国際政策課 岩浪 正人 TEL：924-3711 |

・第4回(7月1日(水)～10日(金))

| | |
|--------|---|
| テーマ | 郡山市国民健康保険保健事業（健康づくり）について |
| 目的 | 計画に掲げた目的・目標の達成状況の進捗確認や中間評価の参考とするため |
| 考察 | 健康状態の管理・把握は、大多数の方が健診を定期的に受診していたり、主治医や専門家の支援や助言を受けているという意見が多く、健康に関心が高い傾向が見られる。 |
| 回答者数/率 | 327名(男性 153名 女性 174名) 90.8% |
| 担当 | 市民部国民健康保険課 中村 賢治 TEL：924-2582 |



ウェブサイト
に
アクセス
できます。

https://www.city.koriyama.lg.jp/shiseijoho/koho_kocho/netmonitor/index.html

<まちづくりネットモニター>

郡山市では、市民の皆さまの意見等をお聞きする取り組みとして、様々な機会や方法等により実施しており、その一つとして、市民モニターの方々にご協力をいただきインターネットを活用した市政アンケートを実施しています。

(モニター数：360名(男性 172名、女性 188名))

今回は、2020年度第1、2、4回目の調査となります。

2020年度まちづくりネットモニター第1回調査結果
テーマ「SDGs（エスディーゼズ）の関心度について」



SDGsとは、深刻化する地球上の問題を、2030年までにより良くするために、国連で貧困、教育、気候変動など17のゴールと169のより具体的な目標(ターゲット)に集約した世界共通の目標です。郡山市は県内唯一の「SDGs未来都市」として、様々な分野の人・情報・研究成果などが行き交う「知の結節点」としての強みを生かし、こおりやま広域圏に住むすべての方が「自分ごと」として将来世代のために行動できるように取り組んでいます。

SDGsについて皆さんの認知度・関心度を把握するとともに、今後の取り組みの参考とするため、昨年度に引き続きアンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

(政策開発課)

【調査概要】

- 調査期間 令和2年5月15日(金)～5月24日(日) 10日間
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を返信
- モニター数 360名 (男性 172名 女性 188名)
- 回答者数 335名 (男性 159名 女性 176名)
- 回答率 93.1%



郡山市ウェブサイト
SDGs未来都市こおりやま

【分析】

《回答者内訳》

| 年代 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 男性 | 7 | 6 | 16 | 31 | 32 | 17 | 42 | 8 | 159 |
| 女性 | 11 | 10 | 42 | 55 | 40 | 15 | 2 | 1 | 176 |
| 合計 | 18 | 16 | 58 | 86 | 72 | 32 | 44 | 9 | 335 |

《SDGsの認知度》

37.9%が知っている、27.8%が聞いたことはある、34.3%が全く知らないと回答。
前回調査(2019年)と比較し、認知度(知っている)は26.4ポイント高まっている。

《SDGsの関心度》

46.9%が非常に関心がある又は関心がある、32.9%があまり関心がない又は全く関心がない、20.3%が分からないと回答。

前回調査(2019年)と比較し、関心度(非常に関心がある、関心があるの合計)は11.2ポイント高まっている。

《SDGsを知らない人への周知に効果的な媒体》

38.2%がテレビ、17.0%が市の広報、15.5%がソーシャルメディア、11.6%が新聞、10.1%がウェブサイトと回答

《特に大切だと思う目標》(1人3つまで選択)

「③すべての人に健康と福祉を」が最多回答(50.7%)

【考察】

・SDGsの認知度は前回調査(2019年)と比べ大幅に上昇しており、周知・PRの効果が現れていると考えられる。一方で関心がない人も一定数いることから、これまでの周知に加え、関心がない人への興味を喚起する効果的な周知・PRを行っていく必要がある。

・年代別で認知度が高いのは10代。学校の授業や図書館などでSDGsを学ぶ機会があることが要因だと考えられる。一方で30代、40代では認知度が低い。働き盛りで子育て世代の30～40代をターゲットにしたアプローチをより一層強化しさらなる認知度向上を図る必要がある。具体的には、こおりやまSDGsアワードを通じて、企業等と連携して認知度向上を図っていく必要がある。

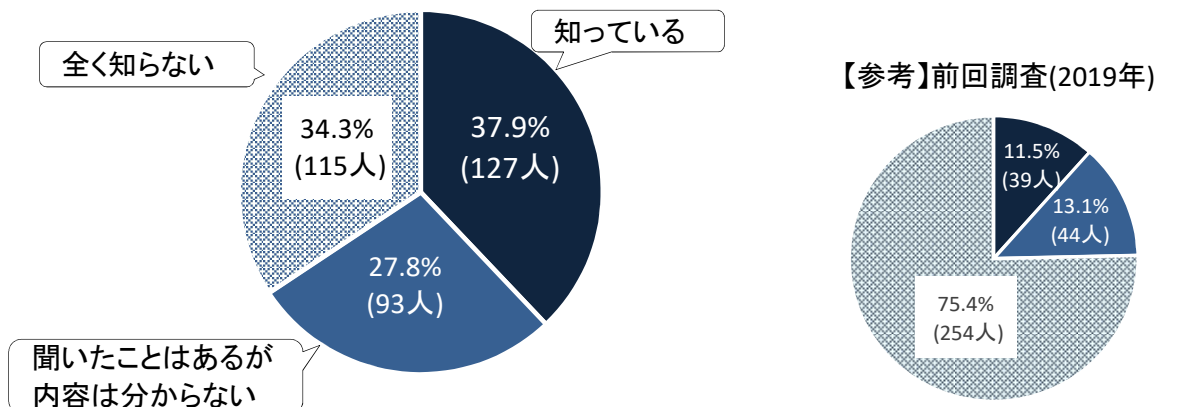
・SDGsは「分かりにくい」「イメージできない」といった意見が多くみられたことから、SDGsをシンプルに身近に具体的に感じるられるよう、YouTubeを活用した配信、広報こおりやまを活用した更なる周知・取り組みが必要である。

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります

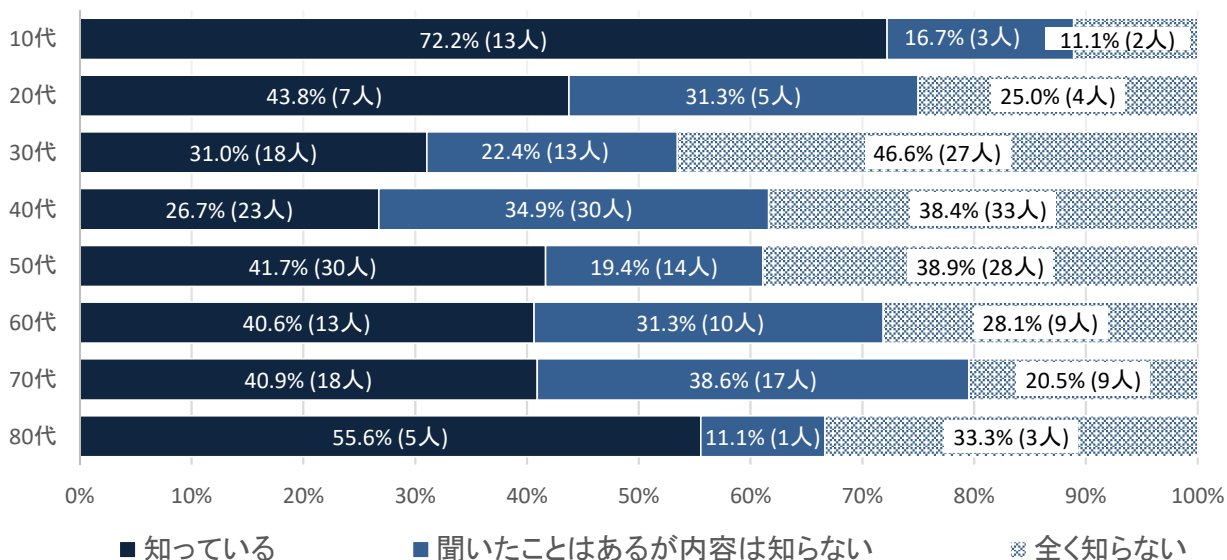
第1章 SDGsの認知度について

問1 SDGs（エスディーゼーズ）をご存知ですか？（1つ選択）

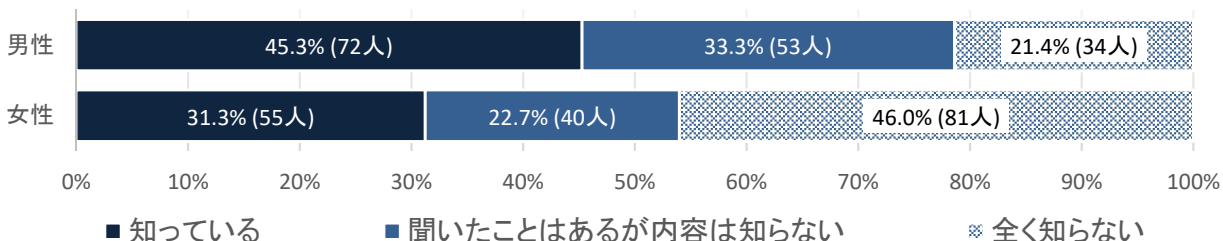
（回答者：335人）



年代別

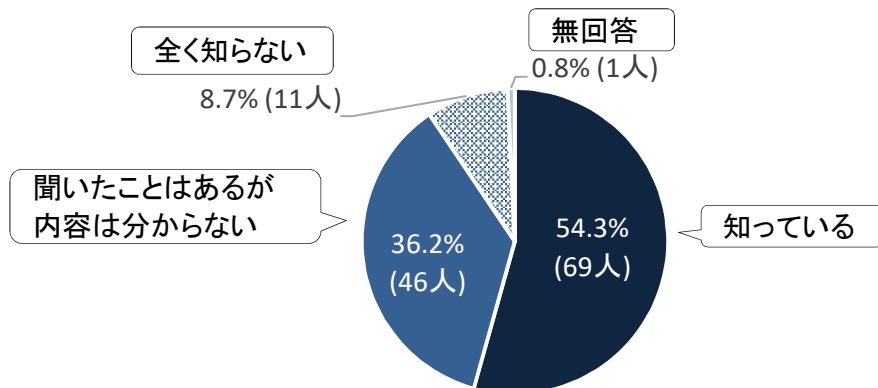


男女別

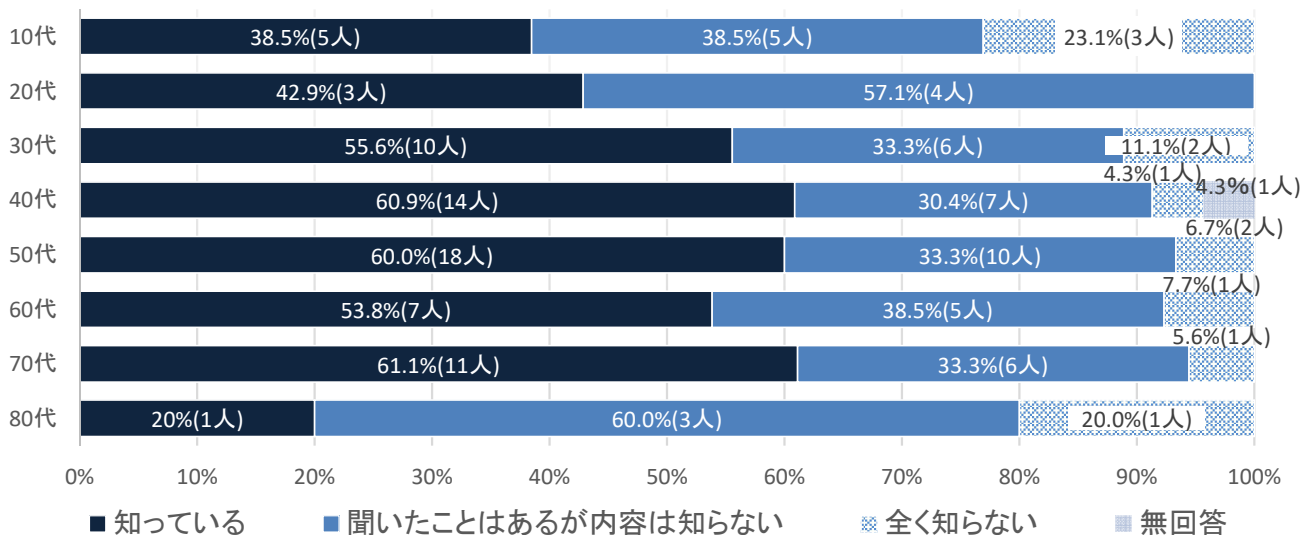


SDGsの認知度について、「知っている」と答えた割合は全体の37.9%。前回調査と比べると、認知度(知っている)は26.4ポイント高まっている。
 年代別では、10代の認知度が72.2%で最も高く、40代の認知度が26.7%で最も低い。「全く知らない」割合が最も高いのは30代で46.6%、次に高いのが50代の38.9%となっている。
 男女別では、男性の認知度が女性より高い。

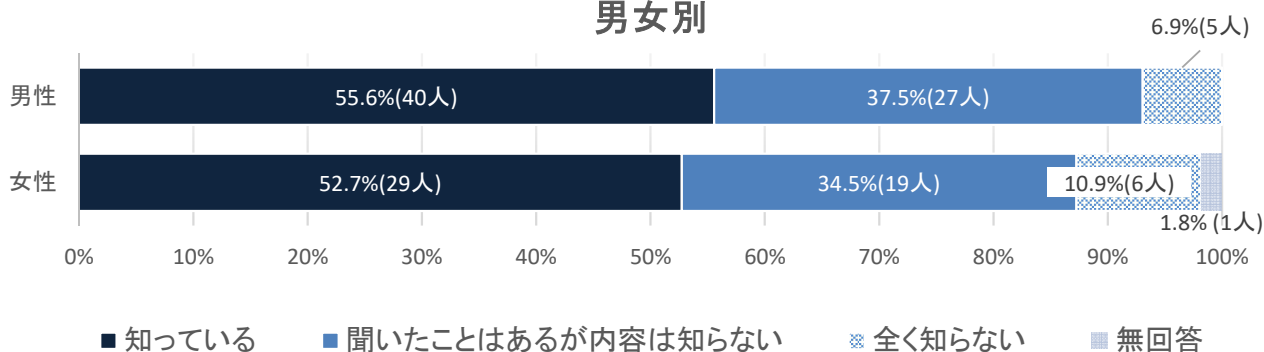
問2 問1で「知っている」を選択した方にお伺いします。
 2015年に国連で採択された国連のSDGsの取り組みをご存知ですか？
 (1つ選択) (回答者：127人)



年代別

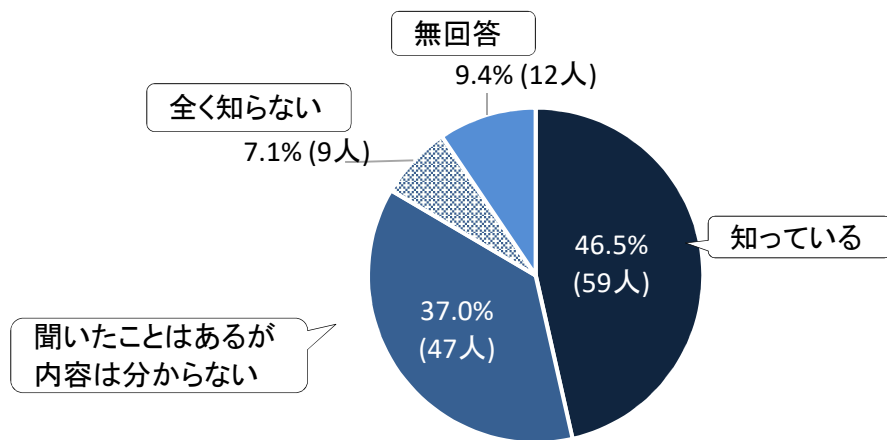


男女別

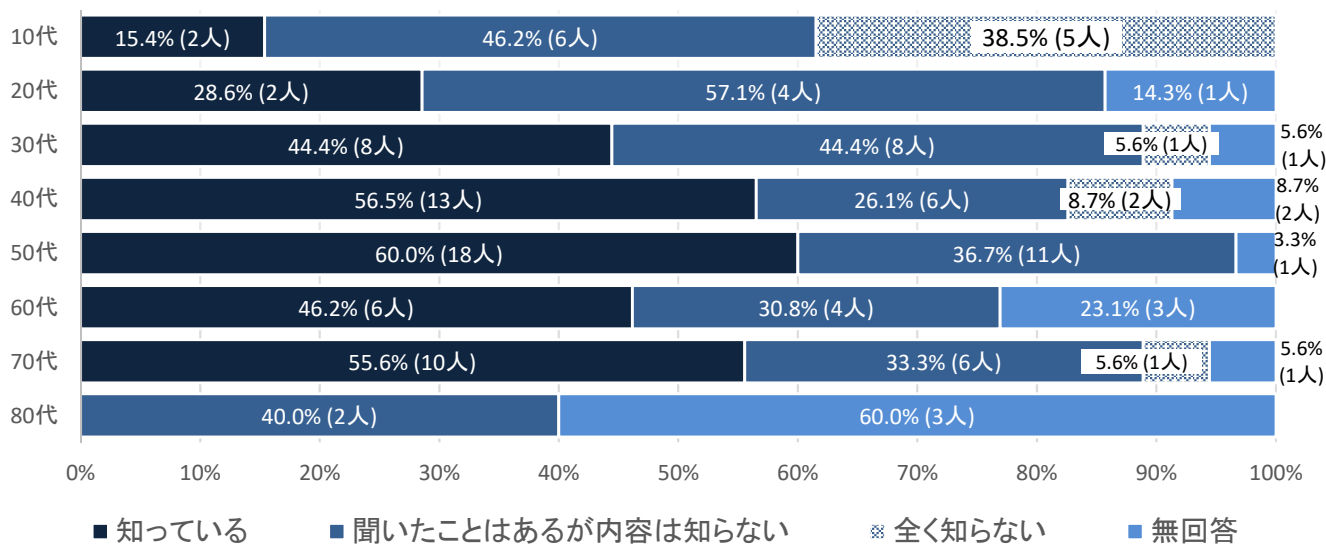


国連のSDGsの取り組みの認知度について、年代別では、70代、40代、50代の順に「知っている」と答えた割合が高い。
 男女別では、男性の認知度が女性より高い。

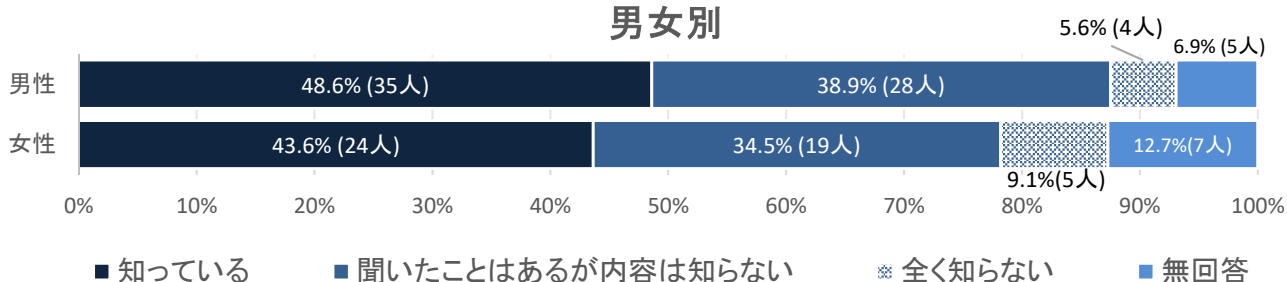
問3 問1で「知っている」を選択した方にお伺いします。
 国(SDGs推進本部)で進めているSDGsの取り組みをご存知ですか？
 (1つ選択) (回答者：127人)



年代別



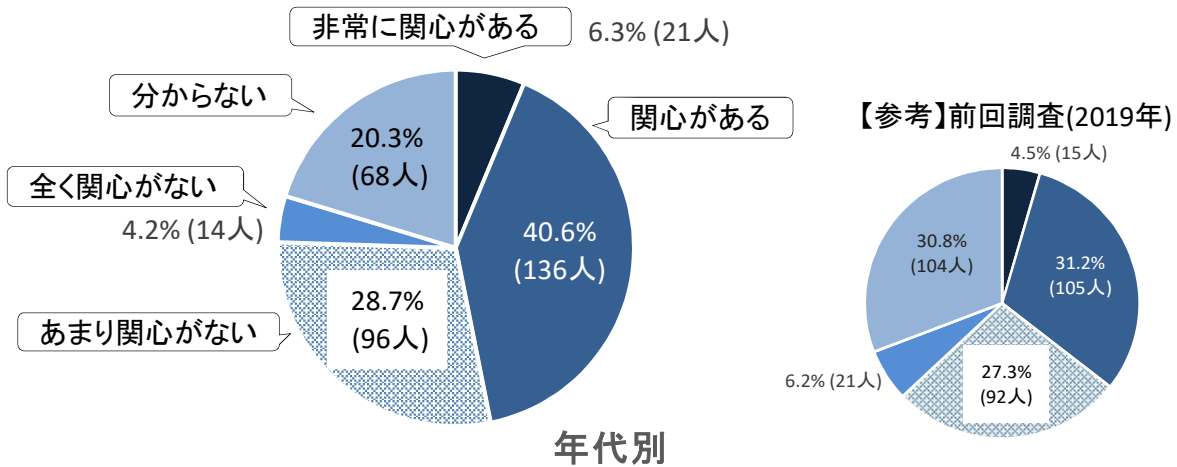
男女別



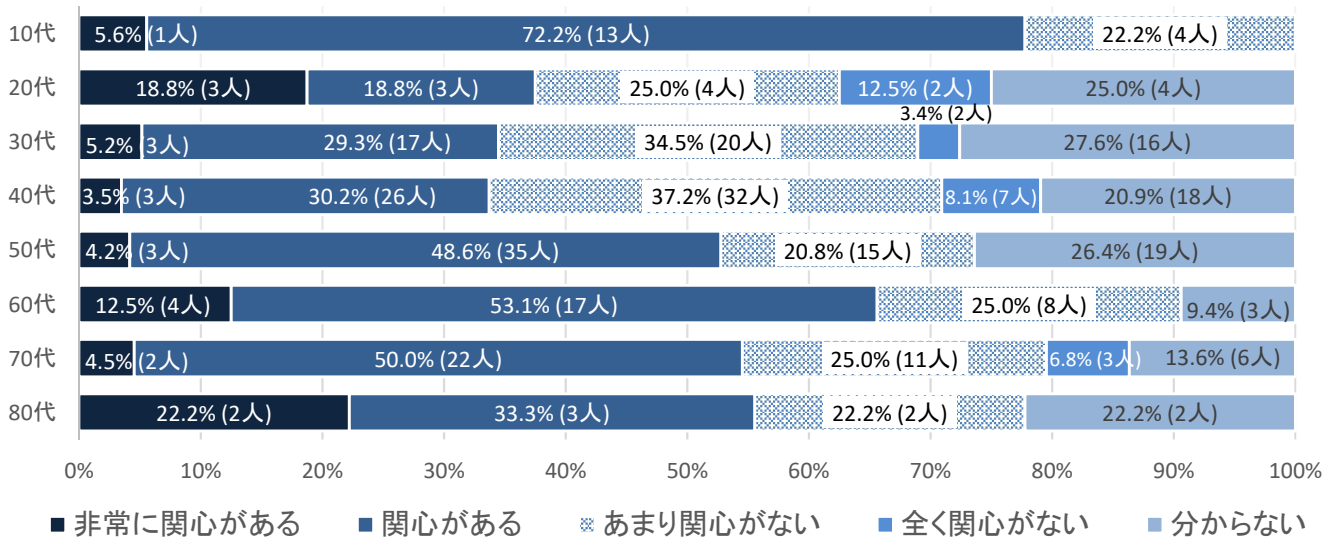
国のSDGsの取り組みの認知度について、年代別で見ると、「知っている」と答えた割合は、50代、40代では60.0%、56.5%と高い。一方で、10代、20代は「知っている」と答えた割合は15.4%、28.6%と低くなっている。
 男女別では、「知っている」と答えた割合は男性の方が高くなっている。

問4 SDGsについてどの程度関心がありますか？（1つ選択）

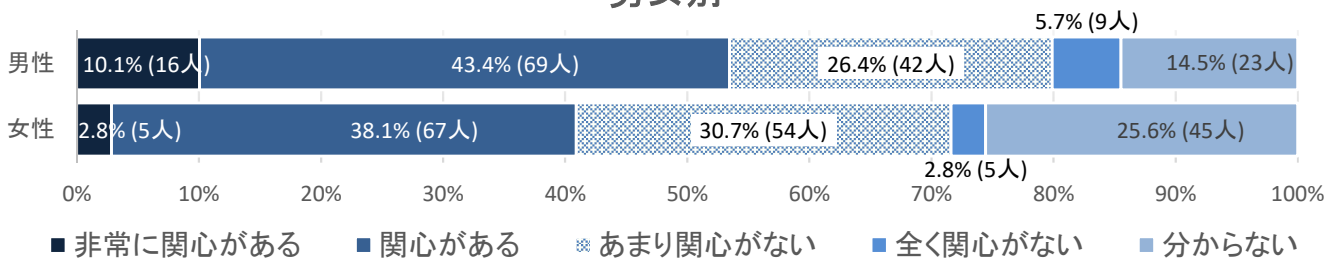
（回答者：335人）



年代別



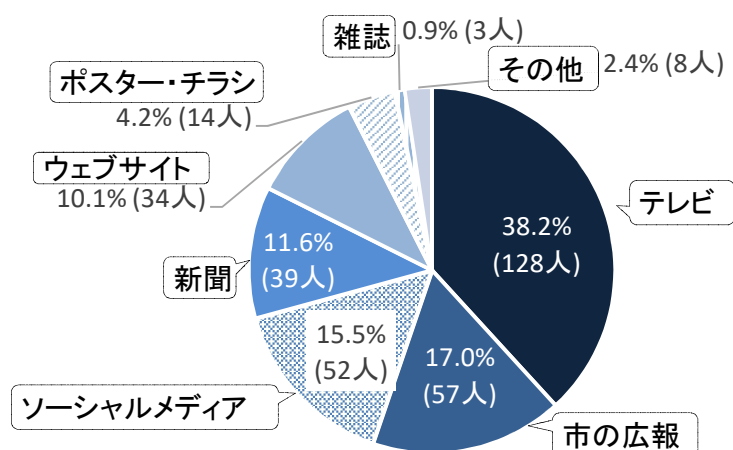
男女別



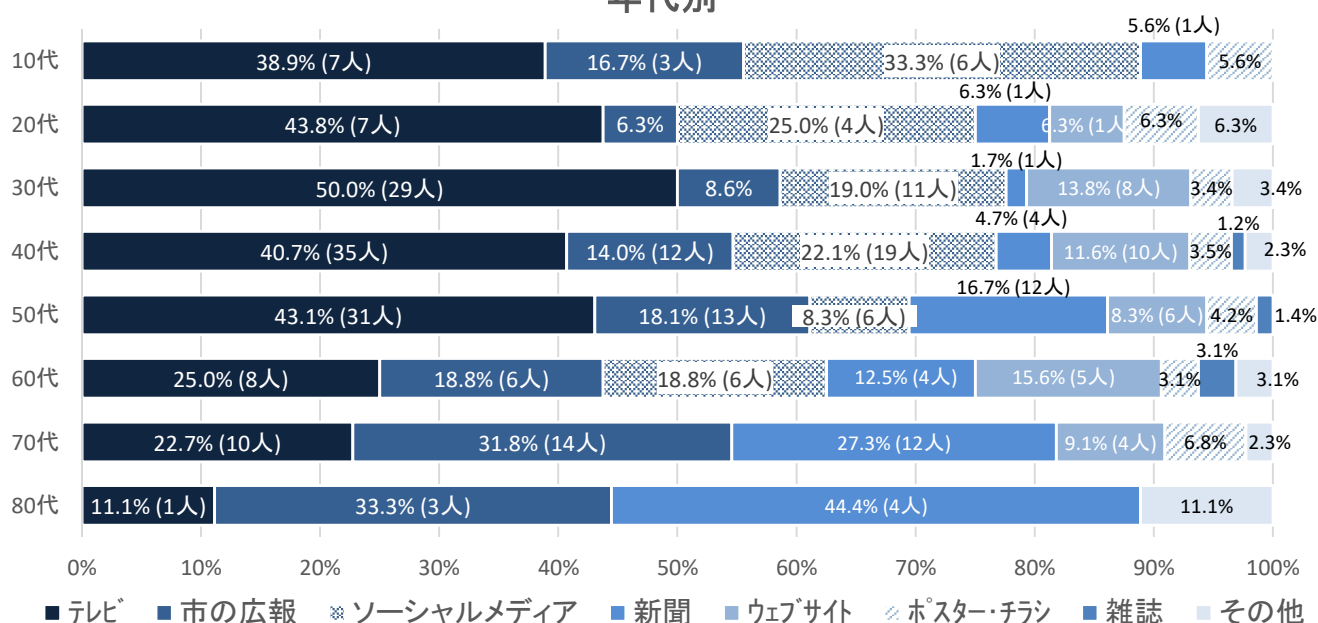
全体では、「非常に関心がある」と「関心がある」の割合は計46.9%、「あまり関心がない」と「全く関心がない」の割合は計32.9%。「分からない」は20.3%となっている。前回調査と比べ、関心度(非常に関心がある、関心があるの合計)は11.2ポイント高まっている。
 年代別では、10代で関心度が高い。一方で20代、30代、40代では「あまり関心がない」「全く関心がない」「分からない」が6割以上を占めており、関心度は低い。
 男女別でみると、関心がある割合は、女性に比べ男性が高い。

問5 SDGsを知らない方に対し、どのような媒体が最も効果的だと思いますか？
(1つ選択)

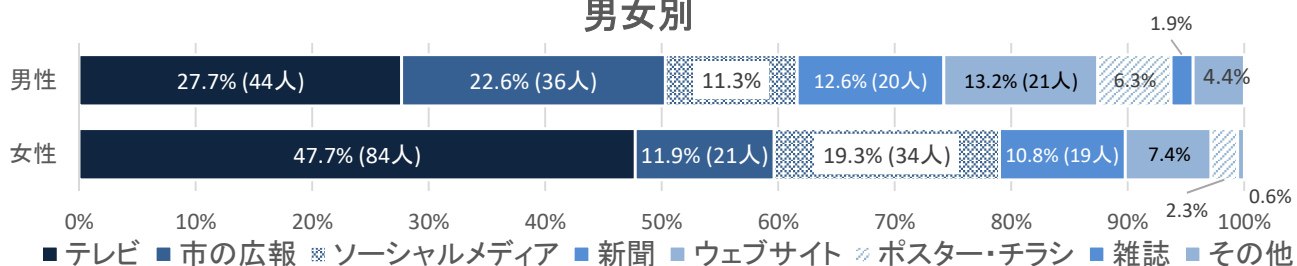
(回答者：335人)



年代別



男女別



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・どの世代に向けたものでどういった周知をしたいのかによって媒体が変わる
- ・情報媒体が多様化しているので、幅広く周知が必要

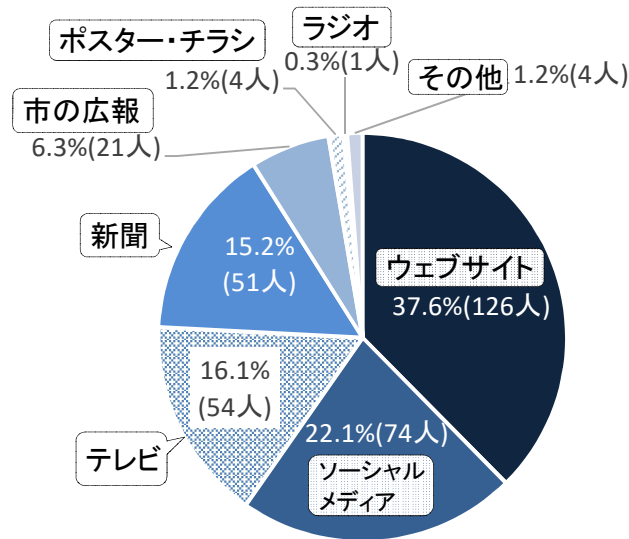
全体では、「テレビ」の割合が38.2%と最も高く、次いで「市の広報」17.0%、「ソーシャルメディア」15.5%となっている。

年代別では、10代、20代は「ソーシャルメディア」の割合が33.3%、25.0%と比較的高い。70代、80代では「市の広報」が31.8%、33.3%、「新聞」が27.3%、44.4%と比較的高い割合を占めている。

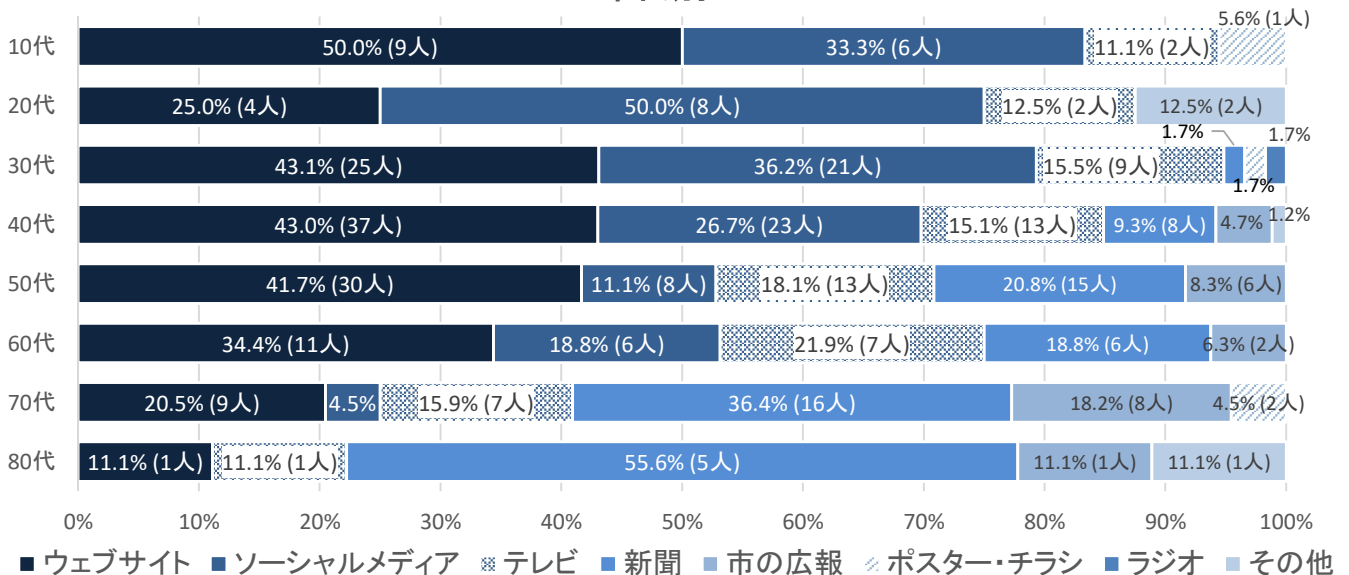
男女別で見ると、女性は、男性に比べ「テレビ」「ソーシャルメディア」の割合が高い。男性は、女性に比べ「市の広報」の割合が高い。

問6 情報収集をする方法はどのような媒体が一番多いですか？（1つ選択）

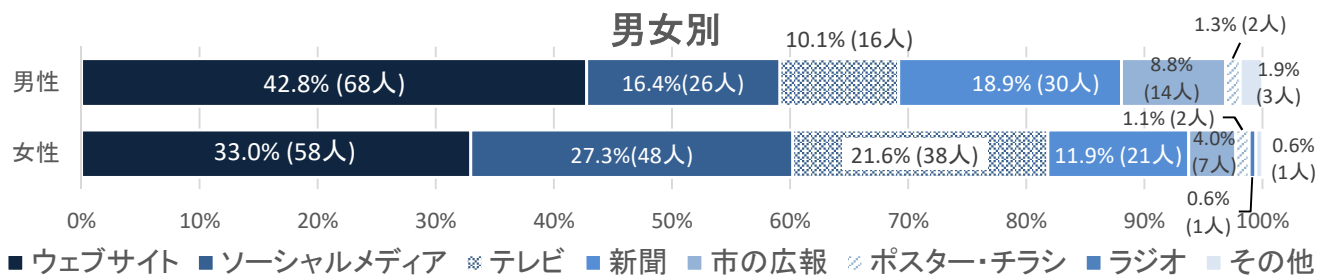
（回答者：335人）



年代別



男女別



全体では「ウェブサイト」が37.6%で最も高く、「ソーシャルメディア」22.1%、「テレビ」16.1%と続いている。年代別では、若年層で「ソーシャルメディア」の割合が高い。年齢が上がるにつれて、「新聞」の割合が高くなっている。若年層ではデジタル媒体、高齢層では紙媒体を主な情報収集に使用していることが分かる。

男女別でみると、女性は「テレビ」「ソーシャルメディア」の割合が男性に比べて高く、男性は「ウェブサイト」「新聞」の割合が女性に比べて高い。

問7 SDGsの17の目標のうち、特に大切だと思う（関心がある）目標はなんですか？
（3つ選択）

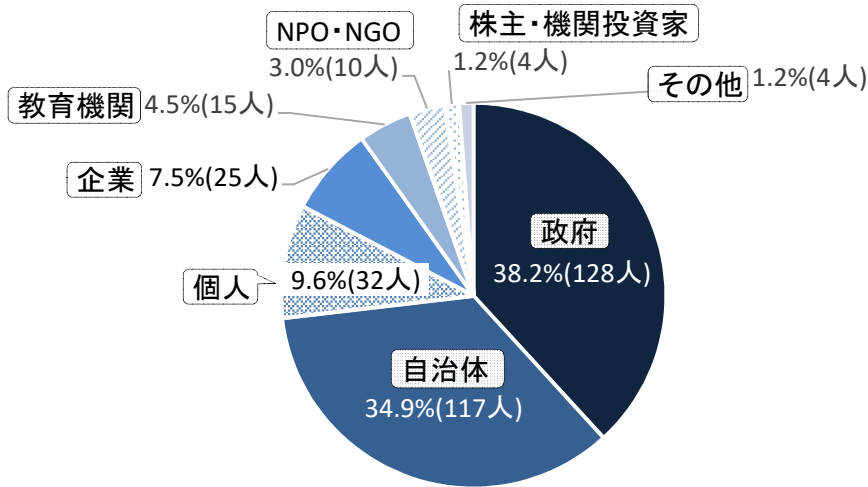
（回答者：335人）



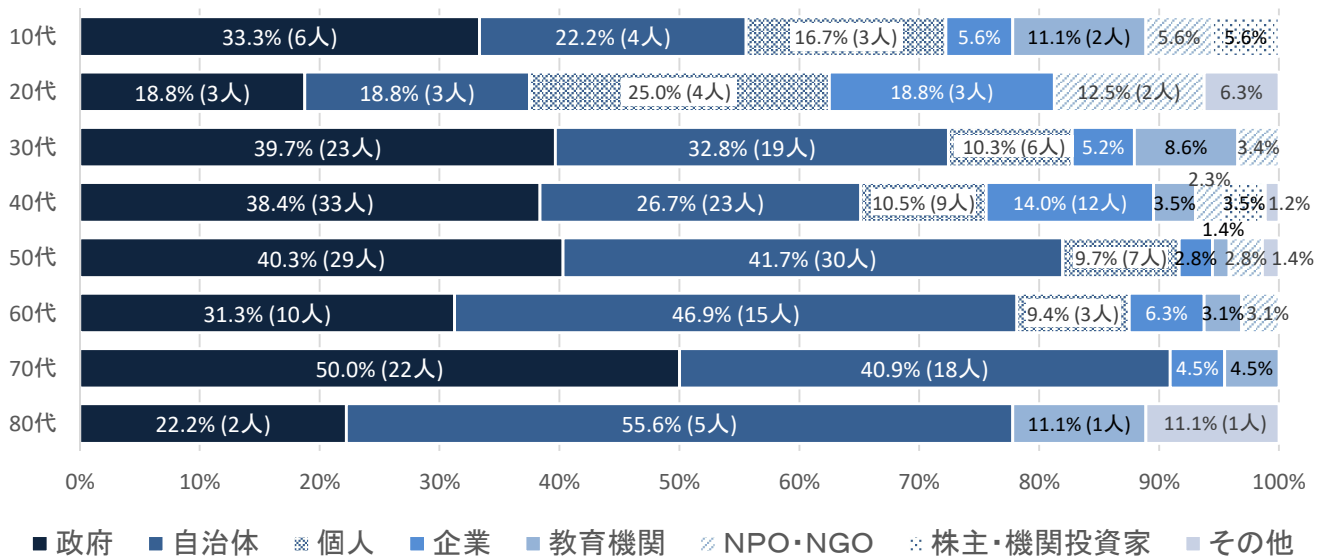
回答者の2人に1人(50.7%)が「③すべての人に健康と福祉を」を選択している。続いて「⑪住み続けられるまちづくりを」32.8%、「④質の高い教育をみんなに」27.2%となっている。

第2章 SDGsに関する取り組みについて

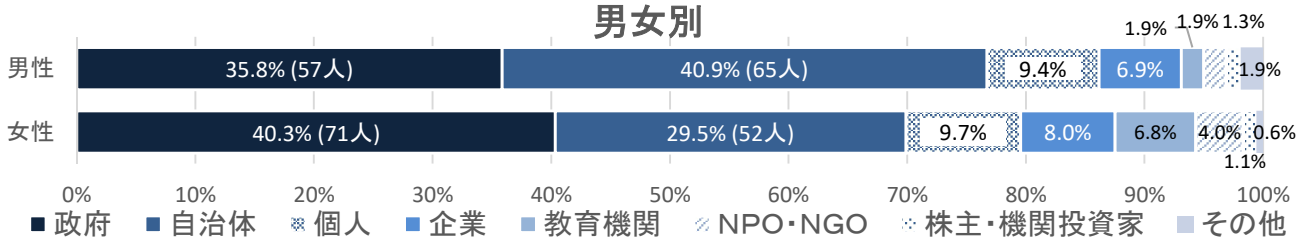
問8 SDGsの達成に向けて、誰が主に行動したほうが良いと思いますか？（1つ選択）
（回答者：335人）



年代別



男女別



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・国家をはじめ、企業、個人すべての人
- ・わからない

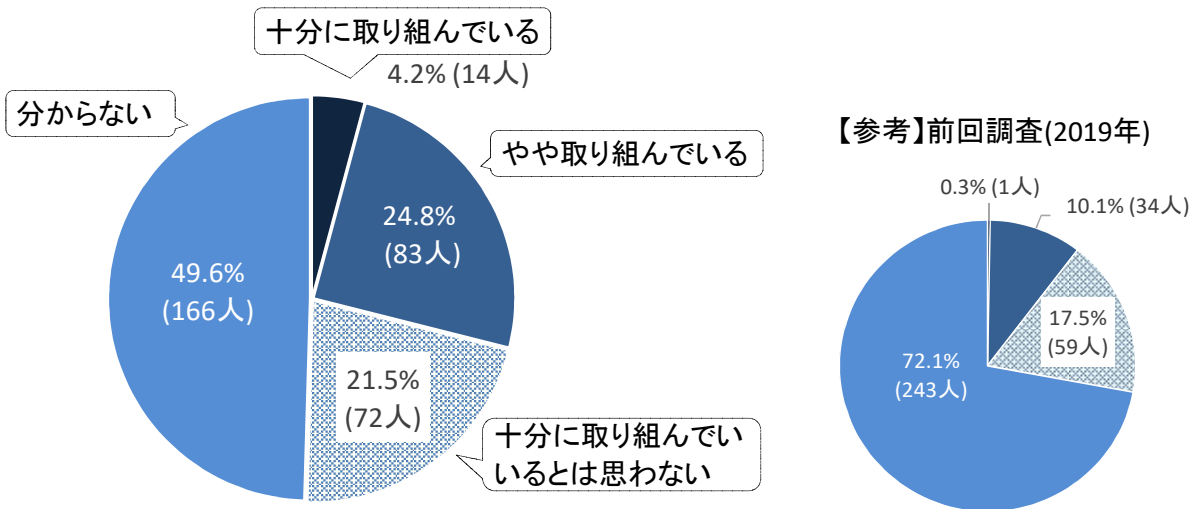
全体では、「政府」の割合が38.2%で最も高く、「政府」「自治体」で7割以上を占めている。

年代別で見ると、10代、20代では「政府」が33.3%、18.8%、「自治体」が22.4%、18.8%と他の年齢層と比べ割合が低く、「個人」が16.7%、25.0%と他の年齢層と比べ割合が高い。

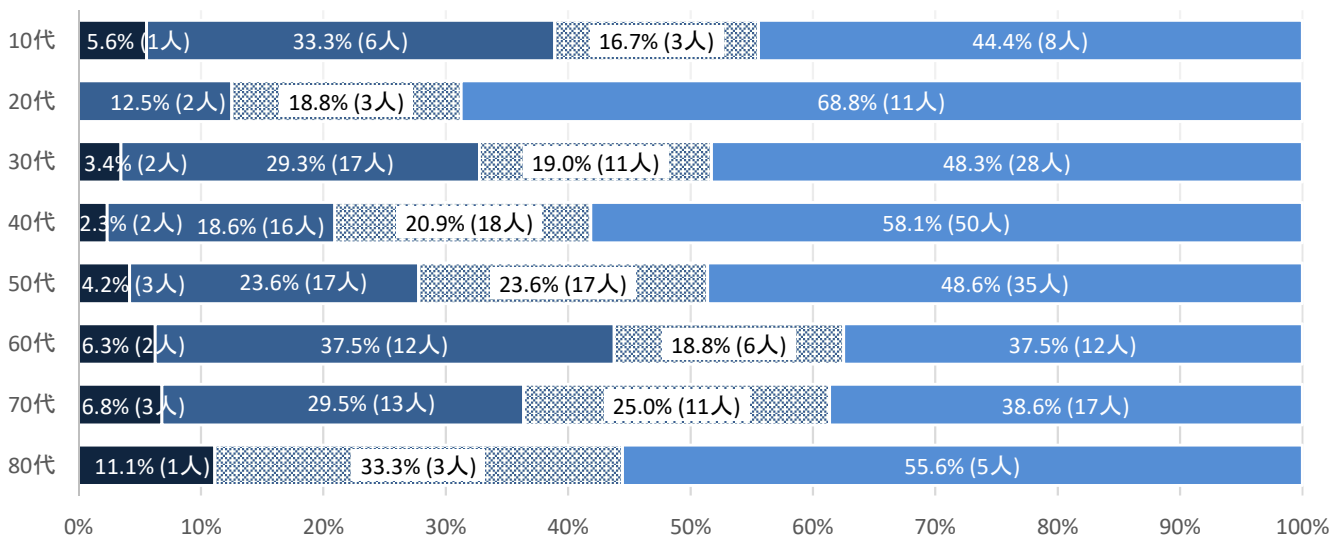
男女別で見ると、大きな違いはないが、「自治体」の割合が男性は女性に比べ高い。

問9 郡山市のSDGsへの取り組みについてはどう思いますか？（1つ選択）

（回答者：335人）

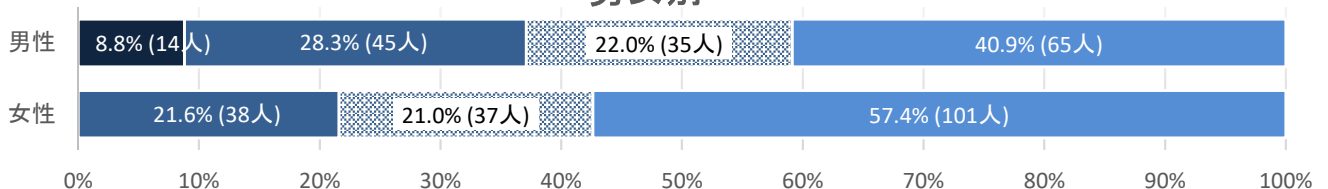


年代別



■ 十分に取り組んでいる ■ やや取り組んでいる ※ 十分に取り組んでいるとは思わない ■ 分からない

男女別



■ 十分に取り組んでいる ■ やや取り組んでいる ※ 十分に取り組んでいるとは思わない ■ 分からない

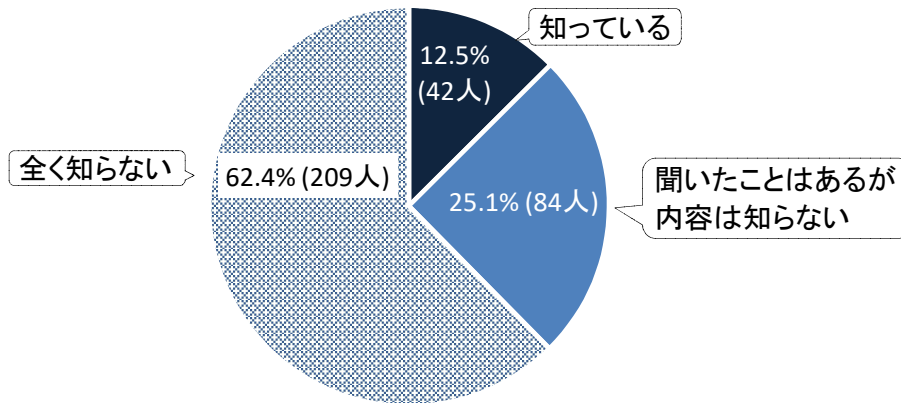
全体では「分からない」が最も多く約半数(49.6%)を占めている。「十分に取り組んでいる」と「やや取り組んでいる」を合わせると29.0%で、「十分に取り組んでいるとは思わない」の21.5%を上回っている。前回調査と比べ、「十分に取り組んでいる」と「やや取り組んでいる」の合計は18.6ポイント高まっている。

年代別でみると、20代で「分からない」と回答した割合が高い。

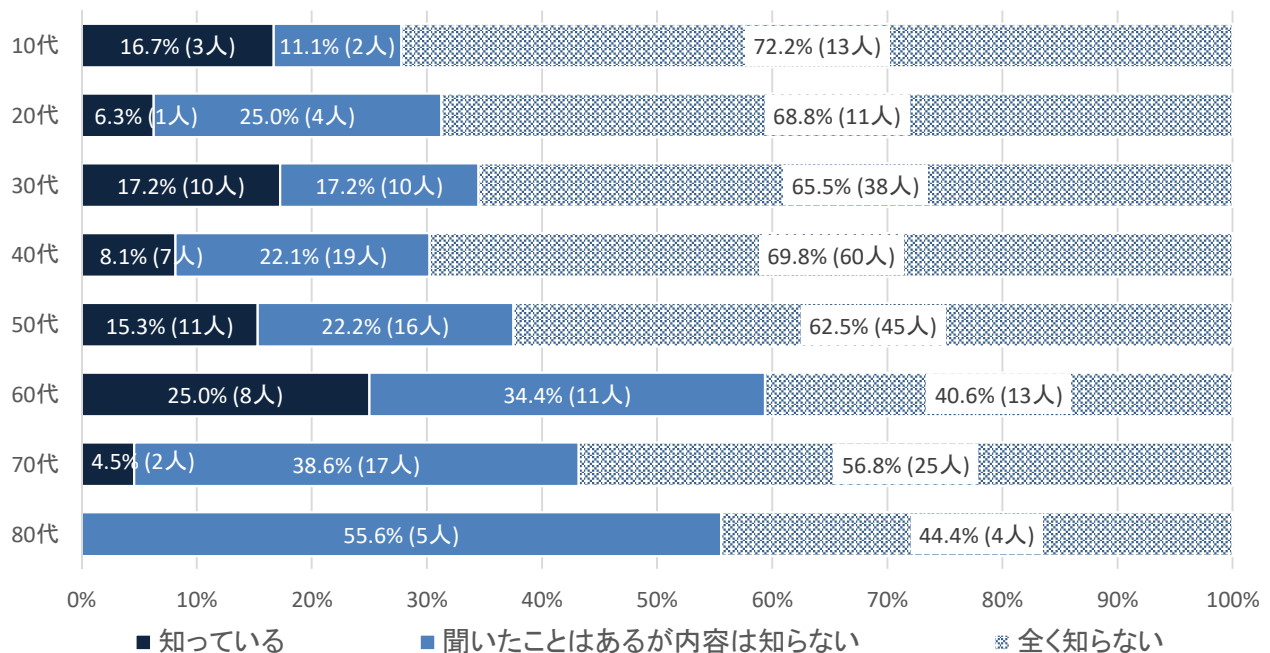
男女別でみると、「分からない」と回答した割合は男性に比べ女性が高くなっている。

問10 こおりやま広域圏において、「SDGs体感未来都市」の実現に向け、特に優れた取り組みを進めている市民、団体等を表彰する「こおりやまSDGsアワード」をご存知ですか？
（1つ選択）

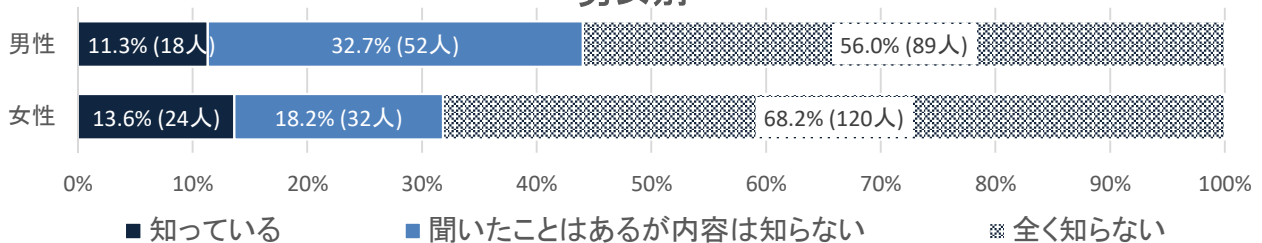
（回答者：335人）



年代別



男女別

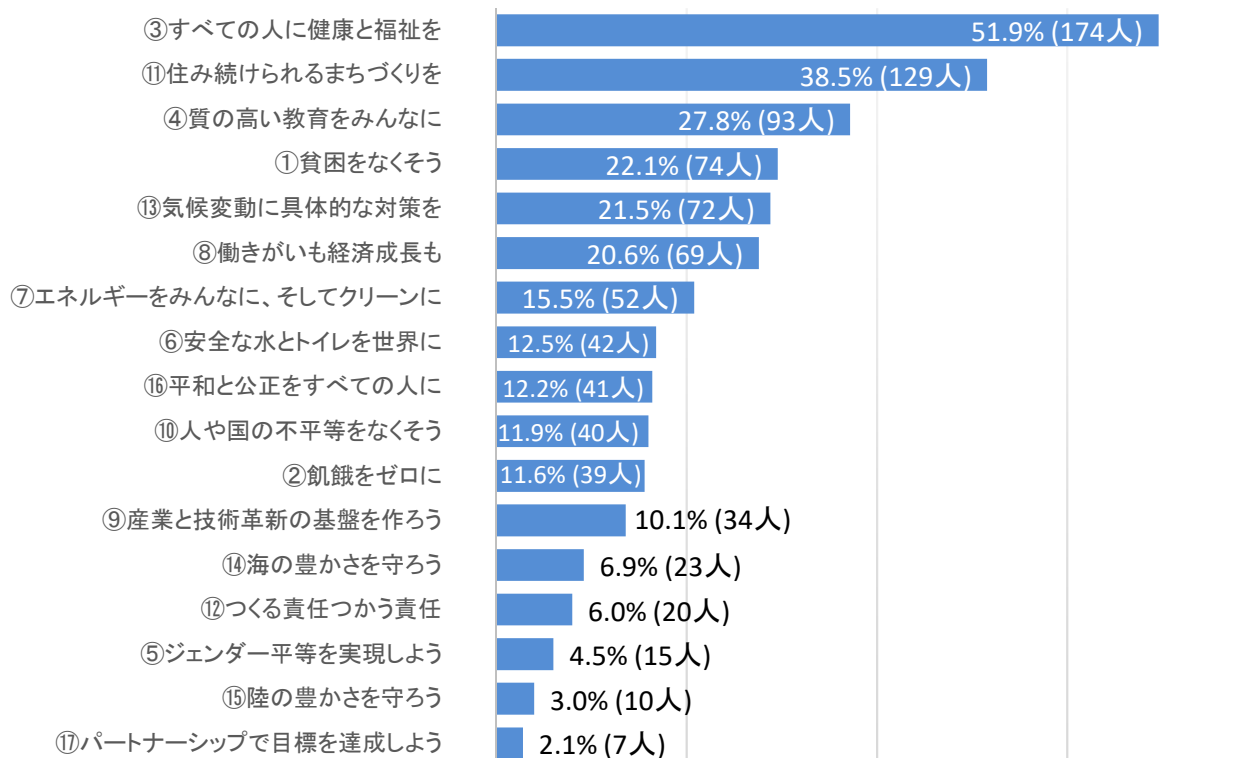


62.4%が「全く知らない」と回答。「知っている」割合は12.5%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が25.1%。

年代別で見ると、60代の認知度が高い。10代、20代の若年層では「全く知らない」割合が高く、70代、80代の高齢層では「聞いたことはあるが内容は知らない」割合が高い。

問11 SDGsの17の目標のうち特に取り組んで欲しいと思う目標は何ですか？
(3つ選択)

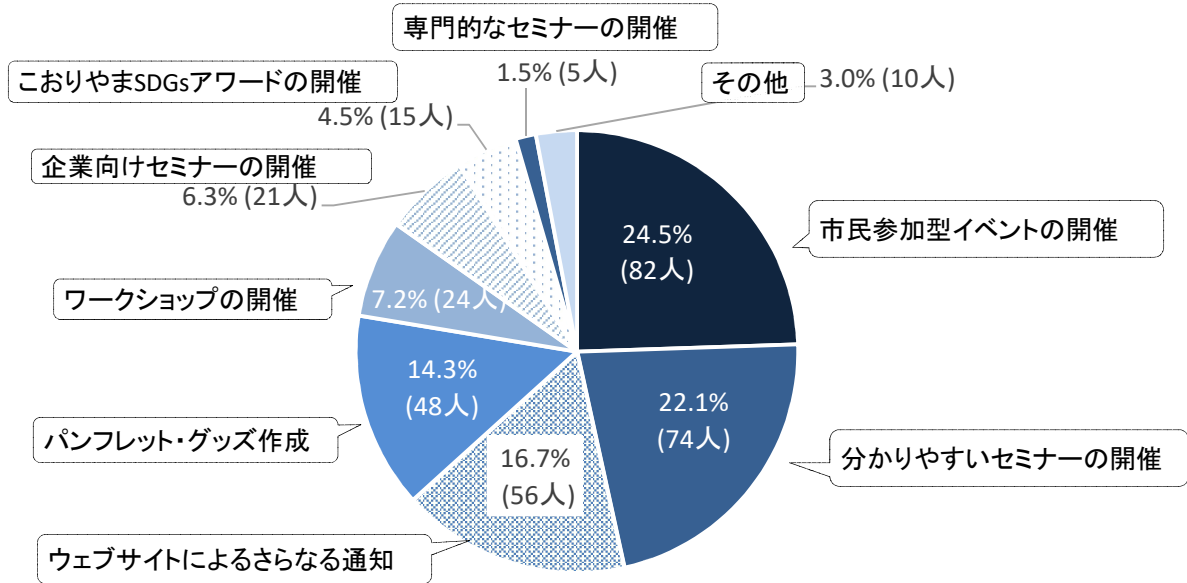
(回答者：335人)



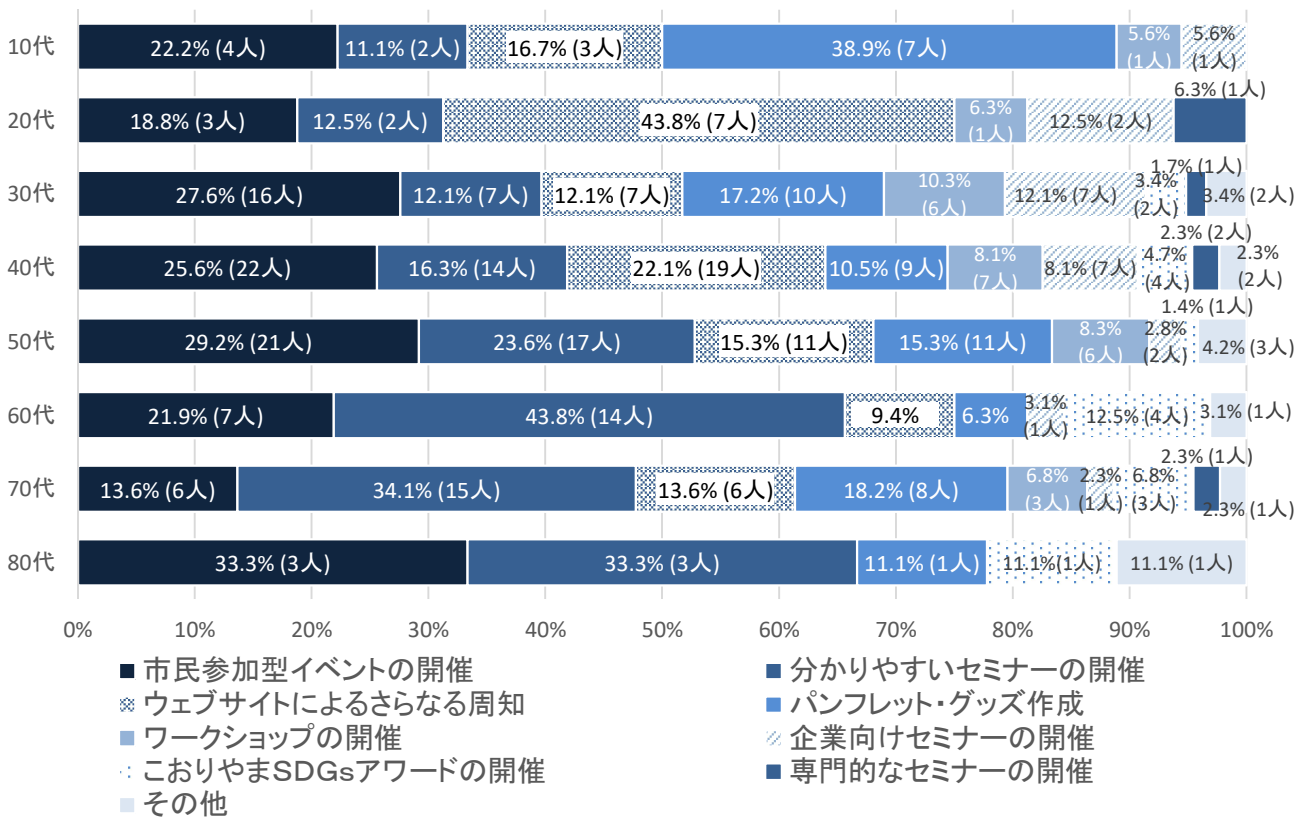
「③すべての人に健康と福祉を」が51.9%と最多で回答者の2人に1人が選択している。続いて「⑪住み続けられるまちづくりを」38.5%、「④質の高い教育をみんなに」27.8%となっている。

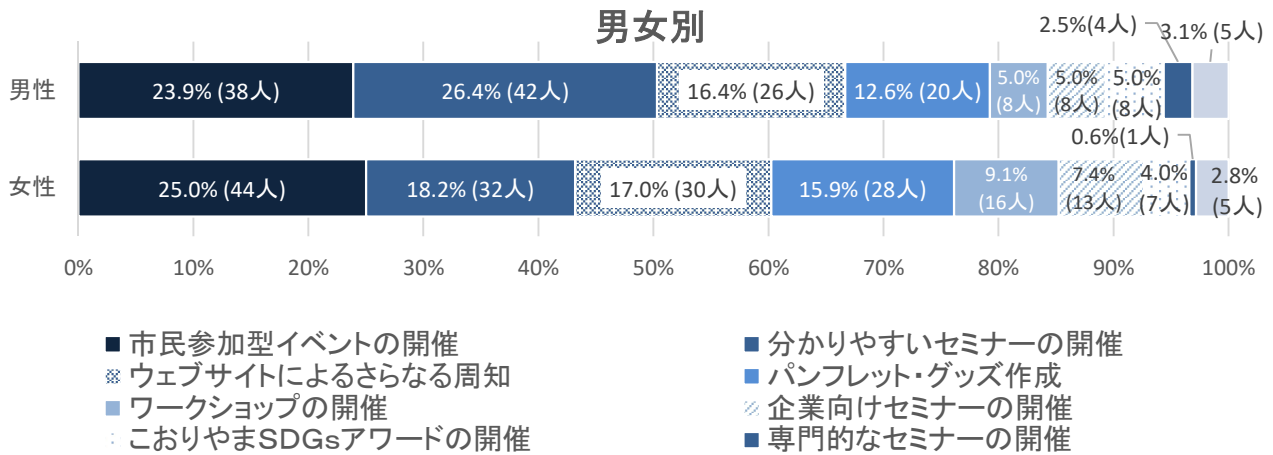
問 12 SDGsの達成に向けて、郡山市に特に取り組んで欲しいことは何ですか？
(1つ選択)

(回答者：335人)



年代別





※ 「その他」を選択した方の主な意見

- ・ 「企業、個人が積極的に取り組めるようになるための支援、法律の整備」
- ・ 「学校の授業などでの取扱い」
- ・ 「広報こおりやまで、取り組み等市民に分かりやすく教えてほしい」

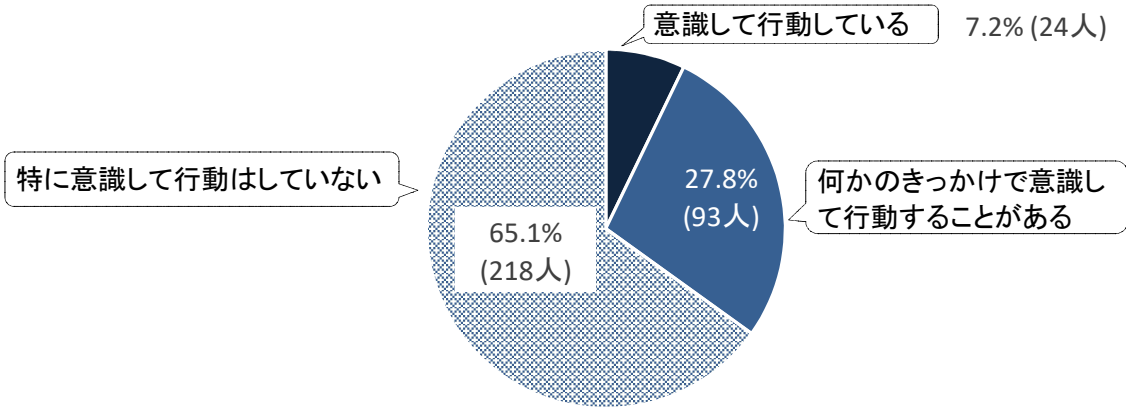
「市民参加型イベントの開催」が24.5%で最も多い回答。次いで、「分かりやすいセミナーの開催」「ウェブサイトによるさらなる周知」となっている。

年代別でみると、10代の最多は「パンフレット・グッズ作成」、20代の最多は「ウェブサイトによるさらなる周知」と若年層ではPR、情報発信関係の割合が高い。

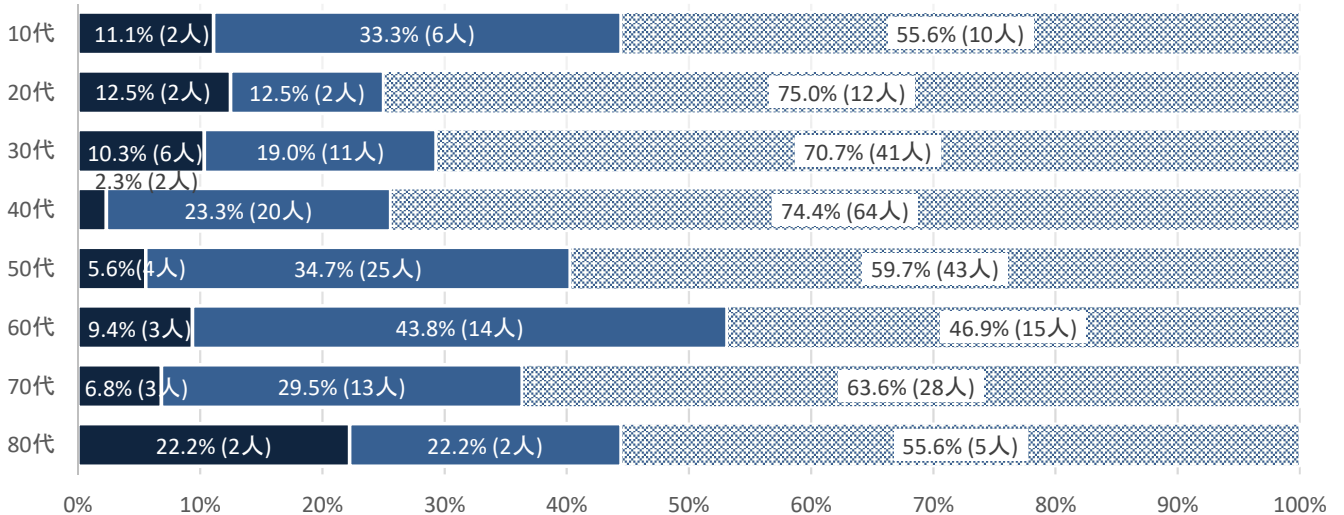
一方で、60代以上の高齢層では「わかりやすいセミナーの開催」が最も高くなっており、若年層と高齢層で違いがみられる。

第3章 みんなの取り組みについて

問13 日常生活においてSDGsを意識して行動していますか？（1つ選択）（回答者：335人）

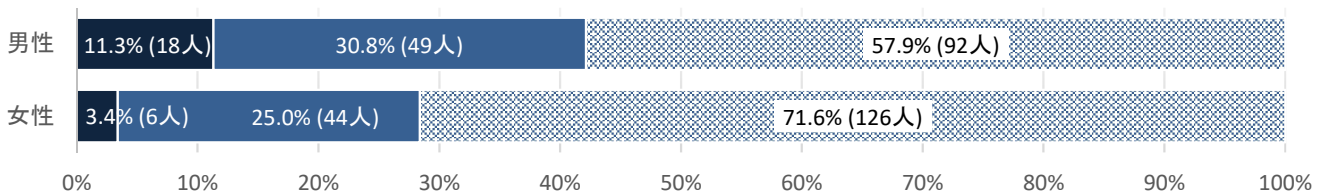


年代別



■ 意識して行動している ■ 何かのきっかけで意識して行動することがある ※ 特に意識して行動はしていない

男女別



■ 意識して行動している ■ 何かのきっかけで意識して行動することがある ※ 特に意識して行動はしていない

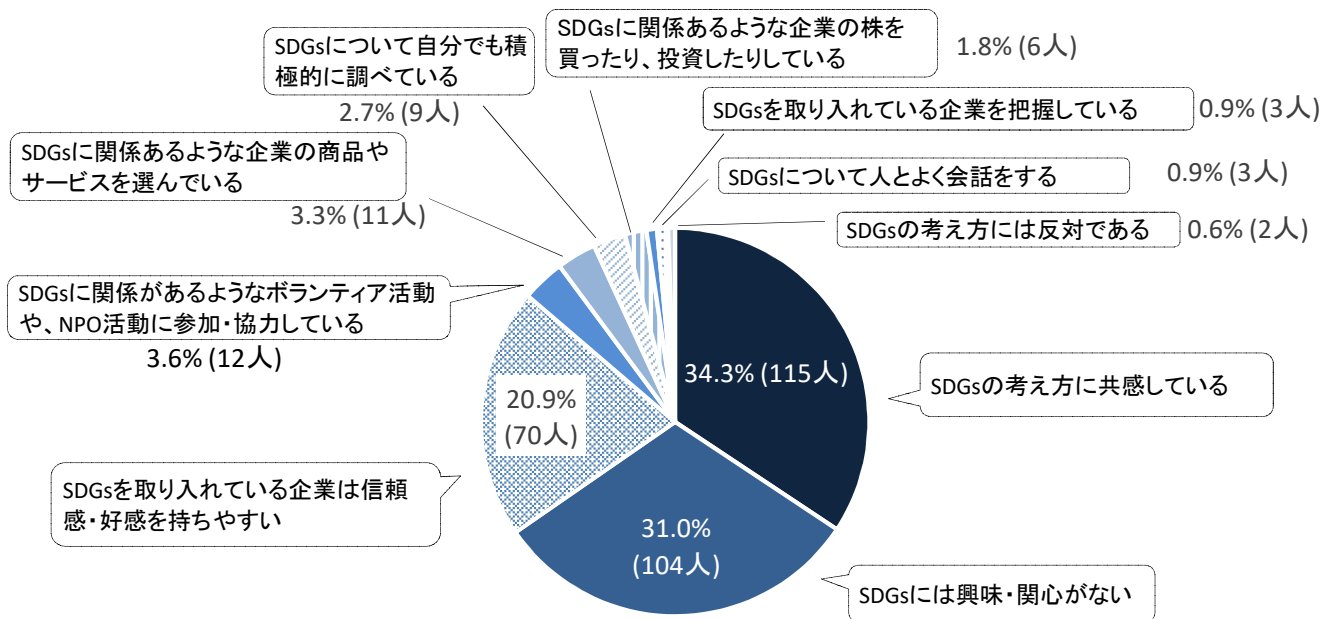
全体の65.1%が「特に意識して行動はしていない」と回答。「何かのきっかけで意識して行動することがある」は27.8%、「意識して行動している」は7.2%。

年代別でみると、20代～40代の働き盛りの世代で「特に意識して行動はしていない」の割合が高い。

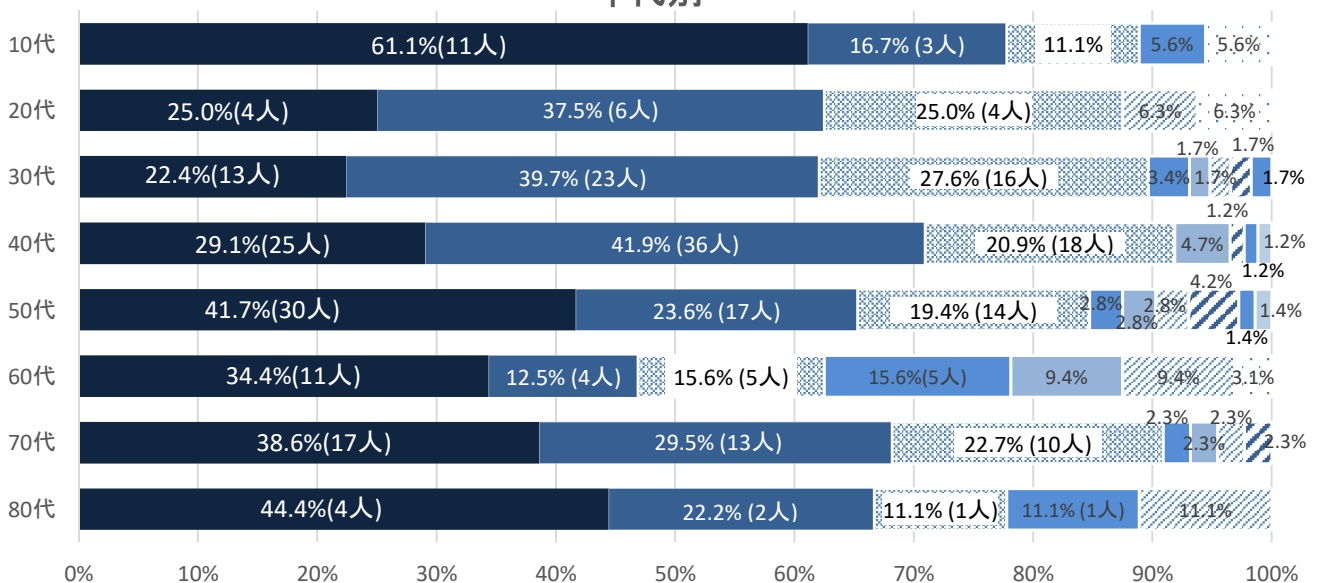
男女別では、女性が男性に比べ「特に意識して行動はしていない」の割合が高い。

問 14 あなたとSDGsの関わりについて、特にあてはまるものは何ですか？(1つ選択)

(回答者：335人)

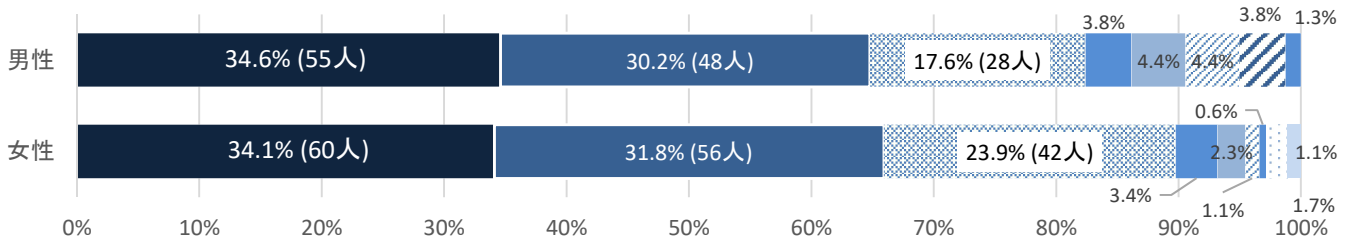


年代別



- SDGsの考え方に共感している
- SDGsには興味・関心がない
- ※ SDGsを取り入れている企業には信頼感・好感を持ちやすい
- SDGsに関係があるようなボランティア活動や、NPO活動に参加・協力している
- SDGsに関係があるような企業の商品やサービスを選んでいる
- ※ SDGsについて自分でも積極的に調べている
- ※ SDGsに関係があるような企業の株を買ったり、投資したりしている
- SDGsを取り入れている企業を把握している
- ・ SDGsについて人によく会話をする
- SDGsの考え方には反対である

男女別

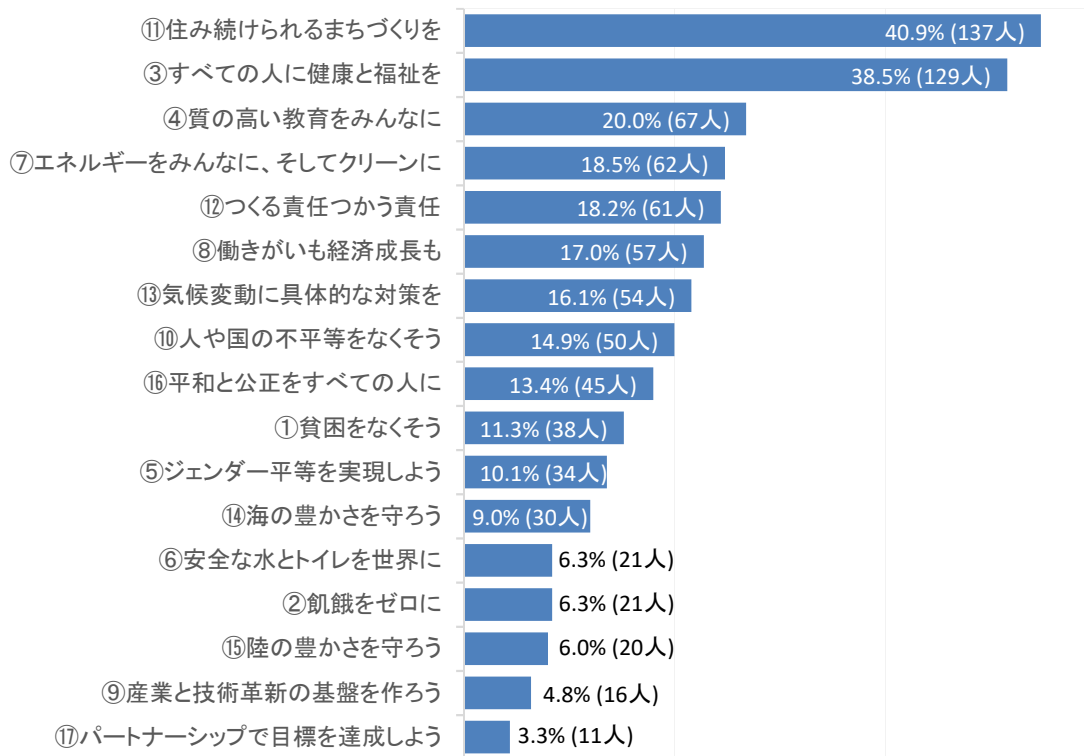


- SDGsの考え方に共感している
- SDGsには興味・関心がない
- ※ SDGsを取り入れている企業には信頼感・好感を持ちやすい
- SDGsに関係があるようなボランティア活動や、NPO活動に参加・協力している
- SDGsに関係あるような企業の商品やサービスを選んでいる
- ※ SDGsについて自分でも積極的に調べている
- ※ SDGsに関係あるような企業の株を買ったり、投資したりしている
- SDGsを取り入れている企業を把握している
- ※ SDGsについて人とよく会話をする
- SDGsの考え方には反対である

「SDGsの考え方に共感している」が34.3%で最多回答。「SDGsには興味・関心がない」が31.0%と3割を超え2番目に高い。
 年代別でみると、10代では「SDGsの考え方に共感している」の割合が高く、SDGsに前向きであることがわかる。
 一方で、20代、30代、40代では「SDGsには興味・関心がない」の割合が高くなっている。

問 15 SDGsの17の目標のうち、「自分ごと」として取り組んでみたいと思う目標は何ですか？（3つ選択）

（回答者：335人）

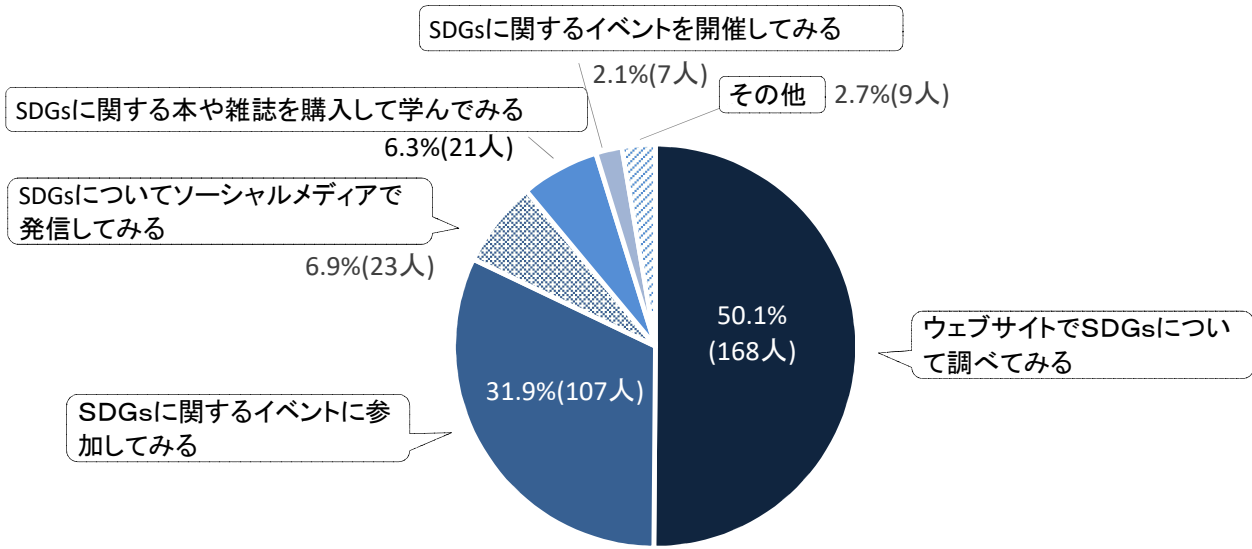


SDGsの17の目標に関して、問7(特に大切だと思う目標は?)、問11(特に取り組んで欲しい目標は?)では、「③すべての人に健康と福祉を」が最多だったが、この設問では「⑪住み続けられるまちづくりを」が最多となった。

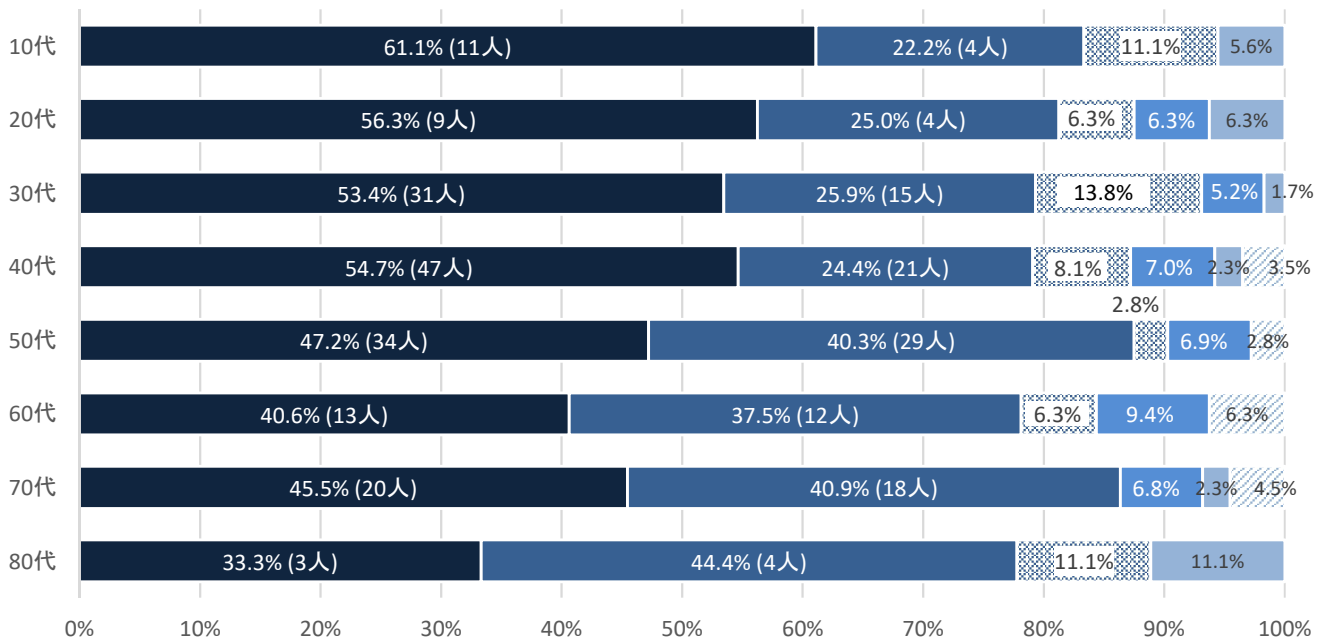
また、問7及び問11では下位(問7では15番目、問11では14番目)であった「⑫つくる責任つかう責任」がこの設問では5番目に高い項目となっており、問7、問11の結果とは違いがみられた。

問16 SDGsの達成に向けて取り組んでみたい事は何か？（1つ選択）

（回答者：335人）

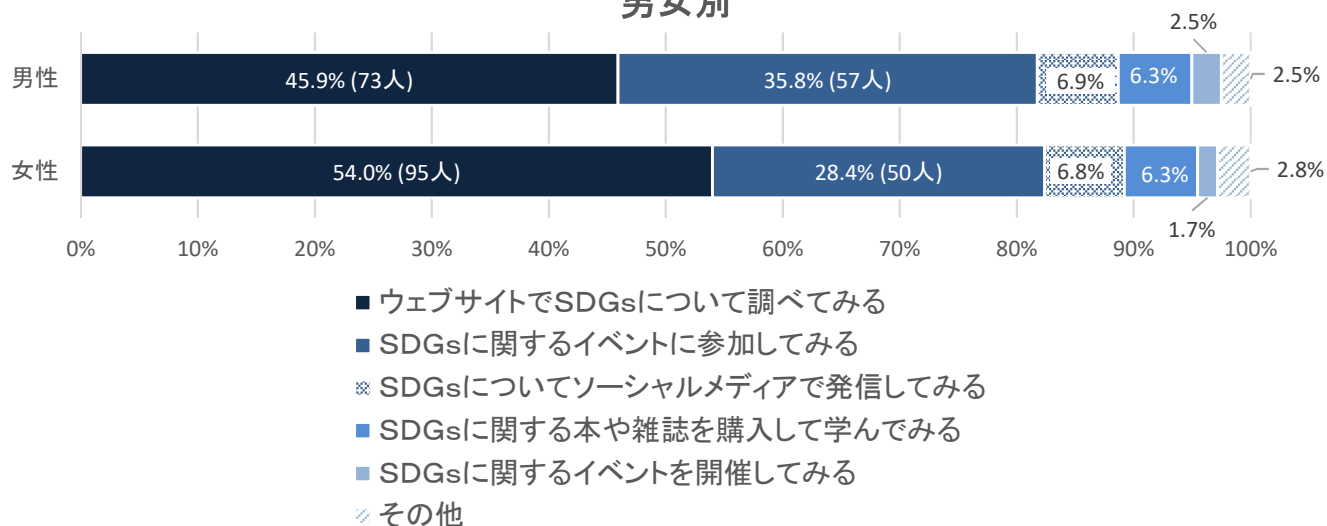


年代別



- ウェブサイト上でSDGsについて調べてみる
- SDGsに関するイベントに参加してみる
- ※ SDGsについてソーシャルメディアで発信してみる
- SDGsに関する本や雑誌を購入して学んでみる
- SDGsに関するイベントを開催してみる
- ◇ その他

男女別



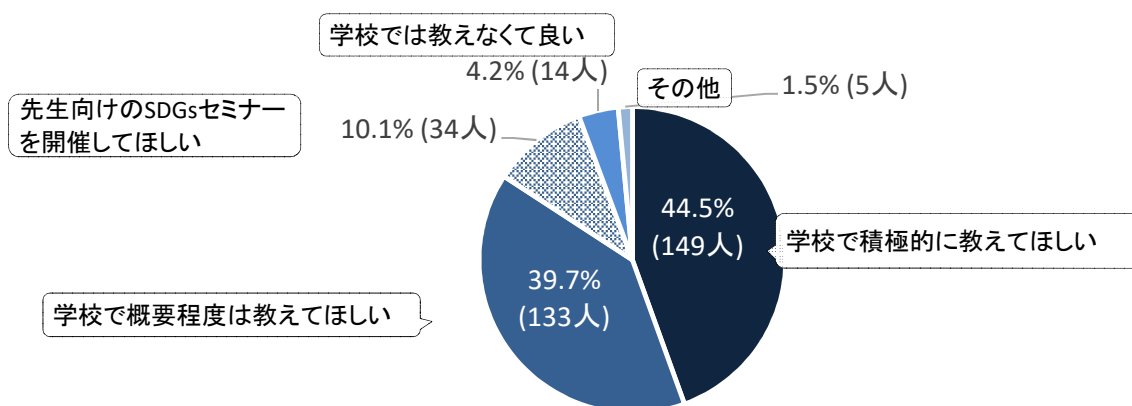
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・特にない
- ・興味をもてない

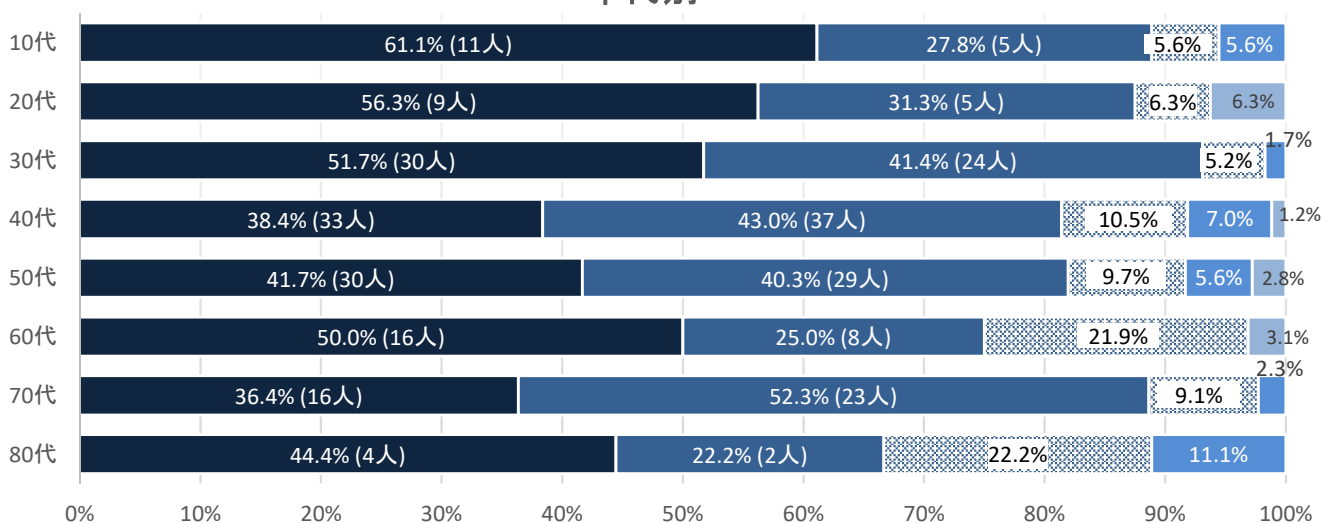
半数(50.1%)が「ウェブサイト上でSDGsについて調べてみる」と回答。続いて「SDGsに関するイベントに参加してみる」が31.9%となっている。
年代別で見ると、若年層では、「ウェブサイト上でSDGsについて調べてみる」の割合が高く、高齢層では「SDGsに関するイベントに参加してみる」の割合が高い傾向が読み取れる。

問 17 SDGs についての学校での取り組みについて（1つ選択）

（回答者：335人）

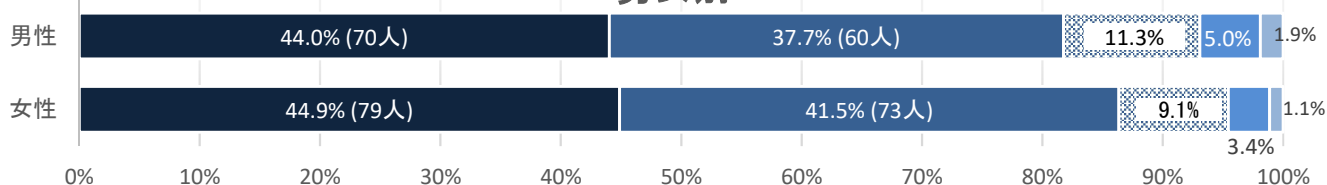


年代別



- 学校で積極的に教えて欲しい
- 学校で概要程度は教えて欲しい
- ※ 先生向けのSDGsセミナーを開催してほしい
- 学校では教えなくて良い
- その他

男女別



- 学校で積極的に教えて欲しい
- 学校で概要程度は教えて欲しい
- ※ 先生向けのSDGsセミナーを開催してほしい
- 学校では教えなくて良い
- その他

「学校で積極的に教えてほしい」が44.5%で最も高く、続いて「学校で概要程度は教えてほしい」が39.7%と続いている。
年代別で見ると、10代、20代の若年層では、他の年代に比べ「学校で積極的に教えて欲しい」の割合が高い。

その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。(自由記述)

(回答者：86人)

SDGsの認識について

- ・SDGsという言葉が知らなかったため、まずは詳しく知ることから始めてみたいと思いました。(40代・女性)
- ・SDGsについて、言葉は最近聞くようになってきましたが、具体的な内容や取り組みはあまり知りませんでした。今後意識して情報収集や取り組みを考えたいと思います。(40代・男性)

SDGsのためにやれること、必要なこと

- ・SDGsという言葉がわかりにくく、内容も概念的でわかりにくいと思います。リサイクル、資源回収の様に、目に見える活動では何が出来るのかを示して欲しいです。(40代・男性)
- ・今自分が心がけていることや活動していることが、SDGsのどの項目に当てはまるか、チェックできるスケールのようなものがあれば使いたい。おしゃれなカード型で常に持ち歩きできたらいいと思う。(60代・女性)
- ・友達とふと話をしている内容がSDGsの内容に関連していると感じたが、その言葉自体今回初めて知った。もっと認知度が上がれば人々の関心も深まると感じたが。(20代・女性)
- ・身近に感じにくいテーマなので、まだまだ馴染み薄い活動なので、もっともっと具体的な活動を持って、知らせる機会をふやすことが必要だと思います。(80代・男性)

SDGsの周知方法について

- ・学校の図書室にSDGsのコーナーがあったのでそこで知ることができた。市の図書館等でもコーナーを作ってみたら目に留まりやすいかなと思います。(10代・女性)
- ・まず、呼び名がイケていないと思います。日本版のイメージしやすい名称を付けたらもっと意識が高まるのではないのでしょうか？SDGsのうちはとっつきにくいまま変わりませんね。(40代・男性)
- ・SDGsは生きていく上で、極めて重要な取り組み課題だと思います。県内でいち早く取り組んで行く姿勢は見られますが、殆どの市民は分からないと思います。広報は勿論、市民活動ガイドブック等市民が自分ごととして身近なものとして捉えられるように、アピールをする事が大切と思う。(70代・男性)

その他

- ・SDGsについて明確で具体的な時系列で目標がないとお題目で終わりそうな感じがします。(70代・男性)
- ・SDGsという言葉を知ったことはあるけれど内容はよくわからない人、興味はあるけれど人と話す程の理解はしていないから話せない人、このような人が沢山いると思います。もったいないです。取り組みを分かりやすく、繰り返し説明して頂ける機会や媒体があれば良いですし、また、自分たちの出来ることは何なのかを今以上に具体例をあげて噛み砕いて普及して頂きたいです。(50代・女性)
- ・考え方について共感はしているのですが、なんせ、わかりにくい印象です。SDGsについて考え方は知っていても、じゃあなぜその商品になったのか目的が不明の商品や企画も目にします…大人の私も分からないのに、子どもたちにどう説明すれば良いのか…市からもっと簡潔に発信していただくと助かります！より良い未来のための活動だと思いますので、子どもたちのために協力したいです！(30代・女性)

第2回まちづくりネットモニター「日本遺産」

(実施期間：2020年6月3日～6月12日 10日間)



安積開拓・安積疏水を結ぶストーリーは、平成28年に文化庁が認定する「日本遺産」になりました。

「日本遺産」とは、地域の歴史的魅力を通じて伝統や文化を語るストーリーです。このストーリーに関わる文化財等を活用することで、郷土愛の醸成を図り、国内外へ地域の持つ魅力を発信していきます。

つきましては、日本遺産認定から4年が経過し、市民の皆さまが感じていることや、日本遺産の今後の活用について、ご意見を把握するため、アンケートを実施しました。

国際政策課

調査概要

- ・回答方法 専用ウェブサイトからの回答
- ・モニター数 360人
- ・回答数 329人（回答率：91%）

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 男性 | 6人 | 5人 | 16人 | 30人 | 32人 | 17人 | 41人 | 8人 | 155人 |
| 女性 | 11人 | 9人 | 42人 | 57人 | 37人 | 15人 | 2人 | 1人 | 174人 |
| 計 | 17人 | 14人 | 58人 | 87人 | 69人 | 32人 | 43人 | 9人 | 329人 |



日本遺産
ウェブサイト

結果概要

【日本遺産・安積疏水の認知度】

- ・日本遺産認定、安積疏水ともに前回よりも認知度が向上した（問2、3）
- ・年代別では60代以上、性別では男性の認知度が高かった（問1、2、3）
- ・認知媒体は、学校授業や生涯学習が特に多かった（問4）

【安積開拓・安積疏水の関心度】

- ・安積開拓・安積疏水に対して、約69%の人が関心をもっている（問6）
- ・日本遺産認定を知らない人でも、安積疏水等に関心のある人が半数いる（問2、6）
- ・関心がある人は、日本遺産に関わる活動意欲がある（問6、12）

【日本遺産に関する取組】

- ・開成麓山地区にある関連施設への訪問実績が高い（問7）
- ・今後の取組要望としては、4割を超える人が学校での歴史教育を選択した（問9）
- ・安積疏水の関連性が高い商品の開発要望が多かった（問11）

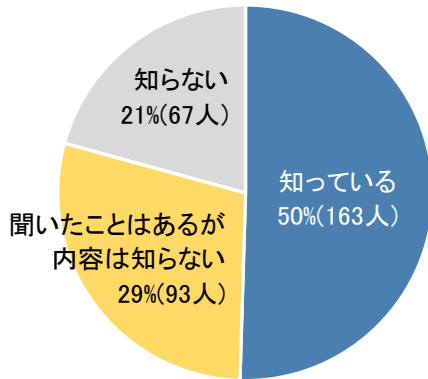
考察

- ・安積開拓・安積疏水は知っていても、日本遺産認定の事実を知らない人が多くいる。
- ・認知度に比例して関心度や活動意欲が高まっている。
- ・様々な立場の方が活躍できる場を設け、日本遺産の機運を高めていきたい。

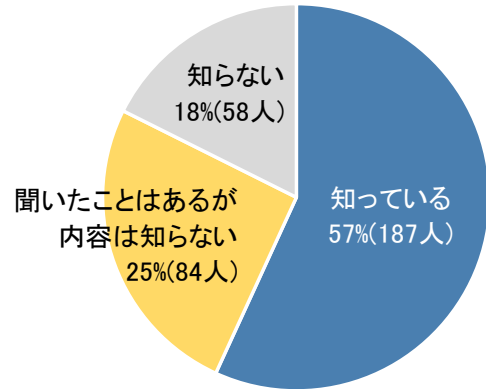
第1章 日本遺産の認知度について

問1 文化庁が地域の文化や伝統が語られているストーリーを「日本遺産」として認定していることをご存知ですか？（1つ選択）

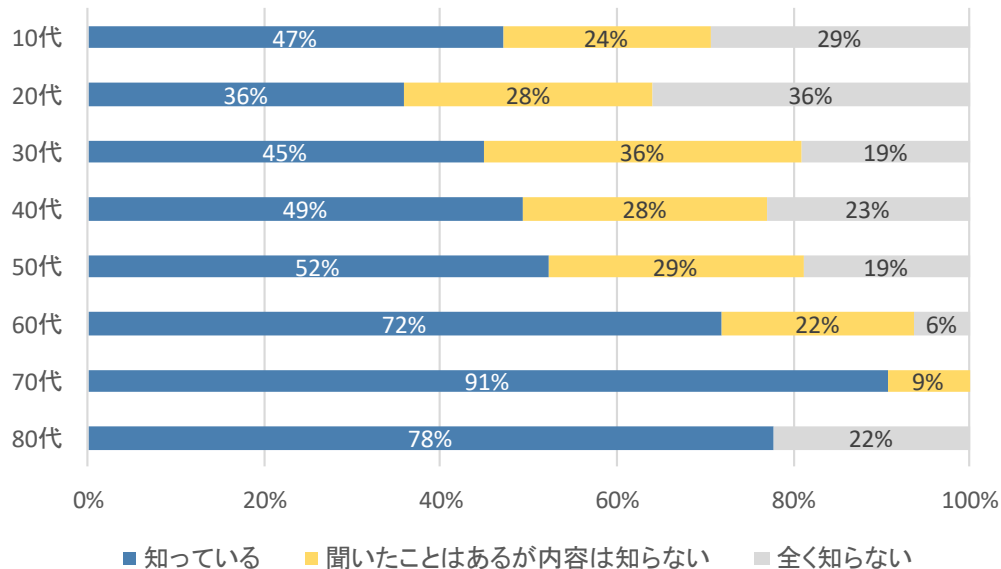
① 【前回認知度】2019年の調査



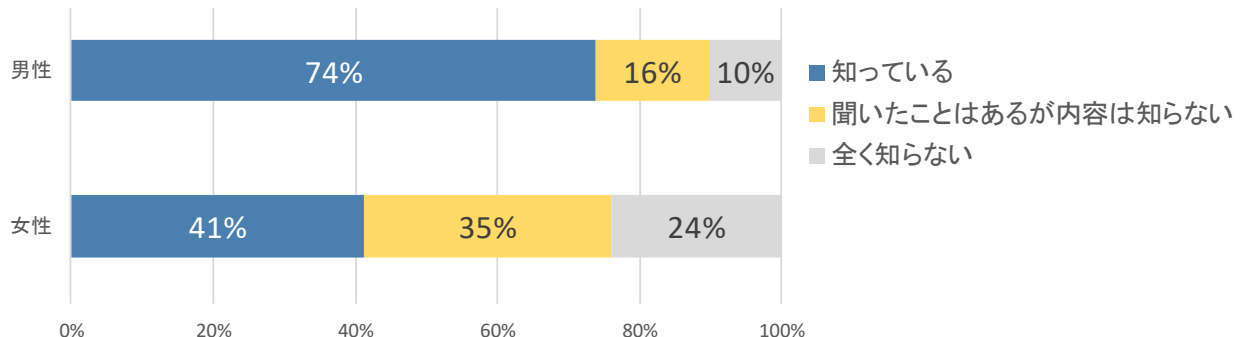
【問1認知度】2020年の調査



② 【問1認知度×年代別】認知度を年代別で比較



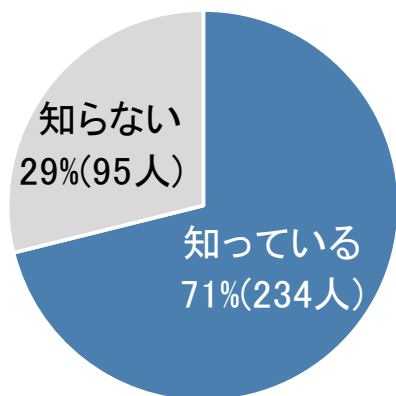
③ 【問1認知度×性別】認知度を性別で比較



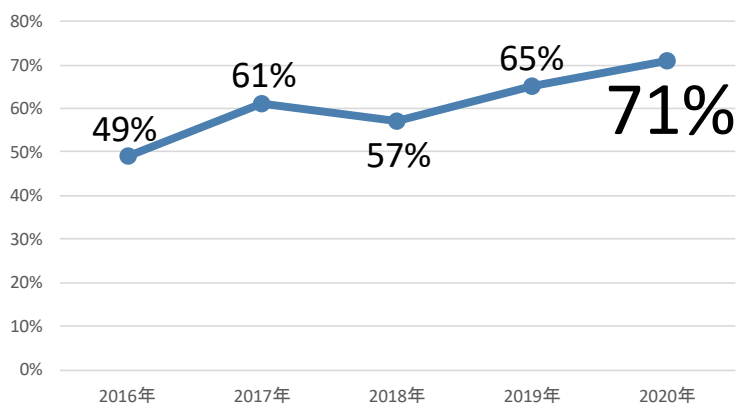
- ① 前回調査よりも7ポイント向上し、日本遺産制度の認知度は57%に達した。
- ② 年代別に認知度をみると、60代以上は7割を超え、20代が特に低い。
- ③ 性別でみると男性の認知度が圧倒的に高い。
→日本遺産制度を所管する文化庁に報告する。

問2 安積開拓・安積疏水のストーリーが「日本遺産」に認定されたことをご存知ですか？
(1つ選択)

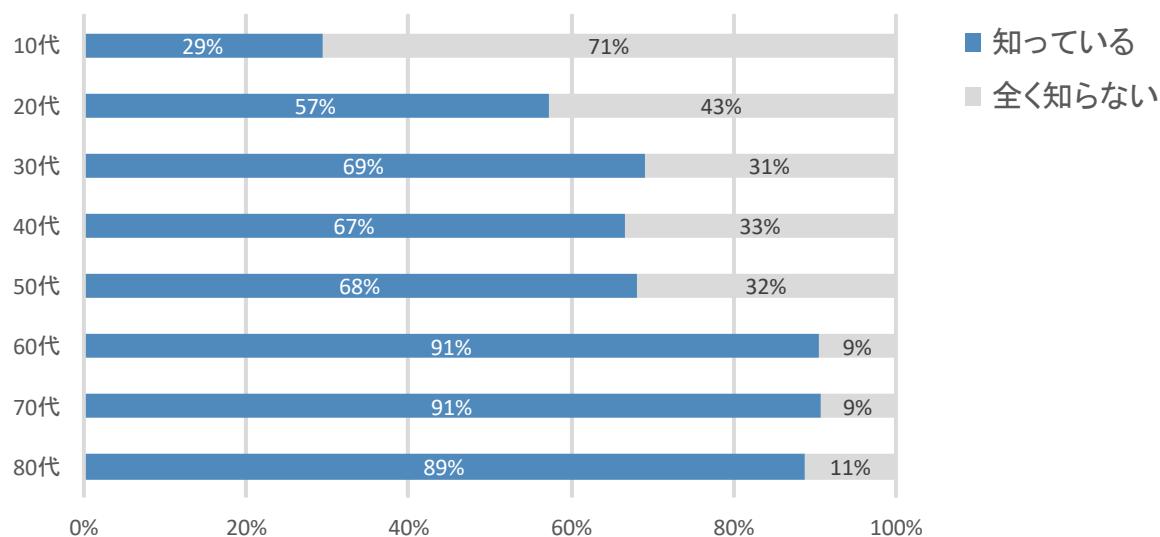
① 【問2 認知度】



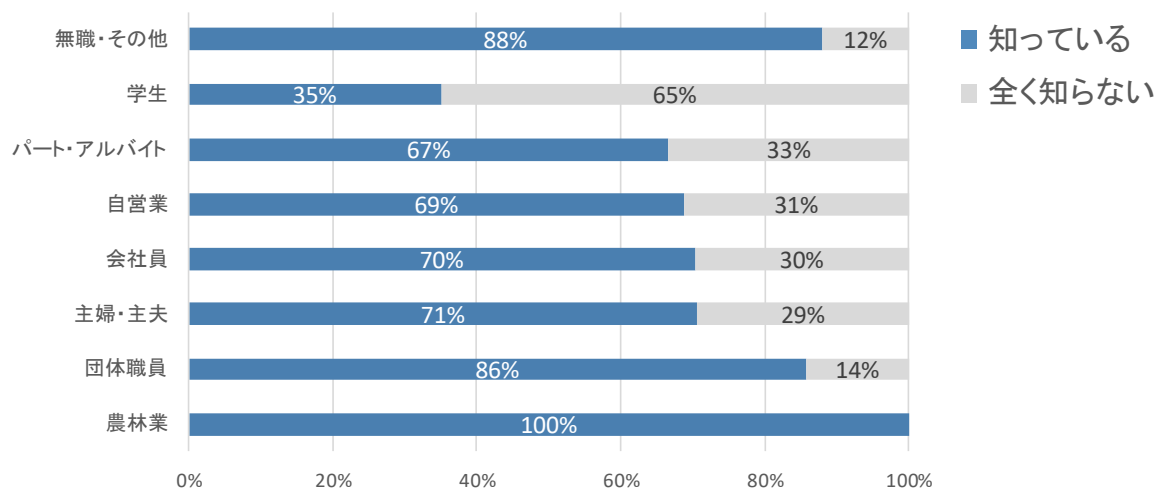
【問2 認知度×過去調査】 認知度の過去からの推移



② 【問2 認知度×年代別】 年代別の認知度を比較



③ 【問2 認知度×職業別】 職業別の認知度を比較



① 日本遺産認定の認知度は7割を超え、4年前の調査から22ポイント上昇した。

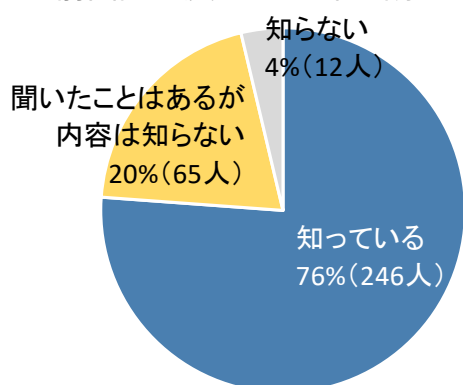
② 年代別に認知度をみると、60代以上が非常に高く、10代が目立って低い。

③ 職業別でみると、学生の認知度が非常に低い。

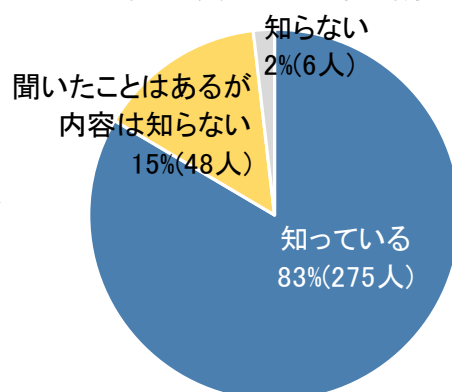
→日本遺産認定の事実は、特に学生世代に伝わっていない。

問3 「安積開拓・安積疏水」をご存知ですか？（1つ選択）

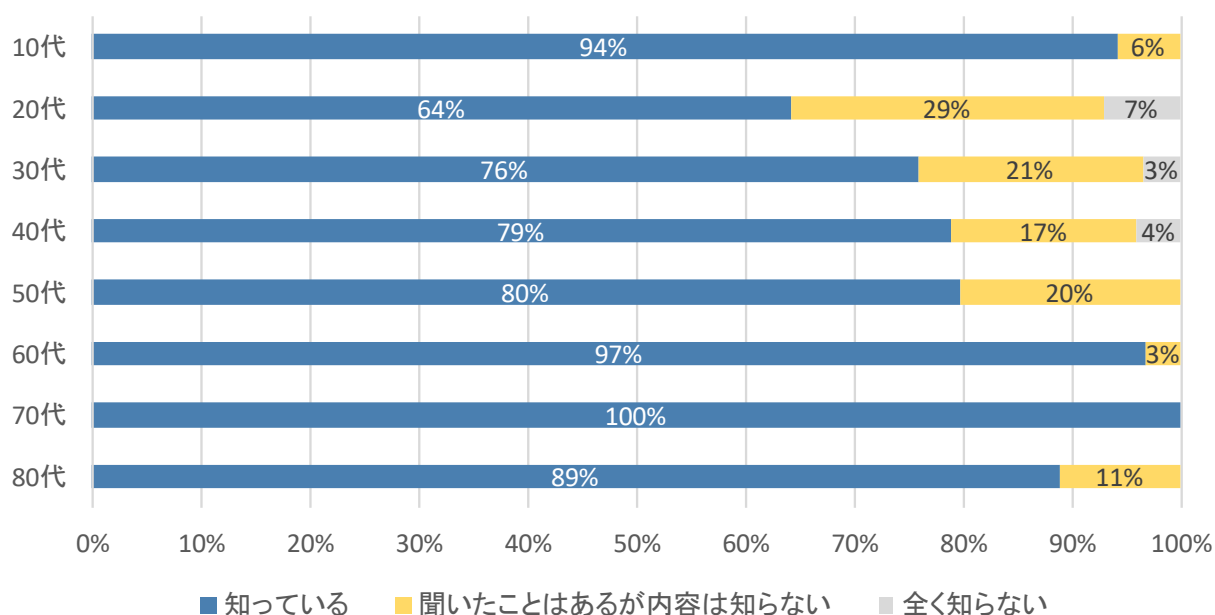
① 【前回認知度】 2019年の調査



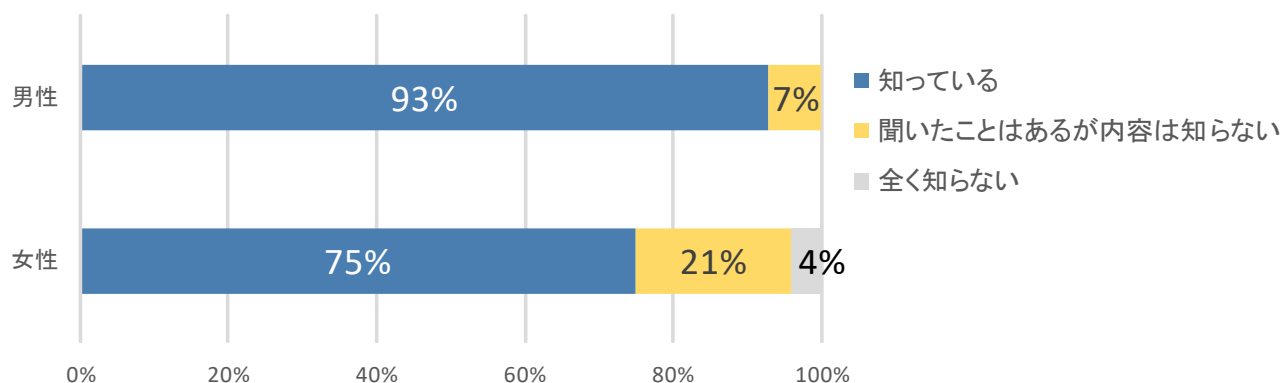
【問3認知度】 2020年の調査



② 【問3認知度×年代別】 年代別の認知度を比較



③ 【問3認知度×性別】 性別の認知度を比較

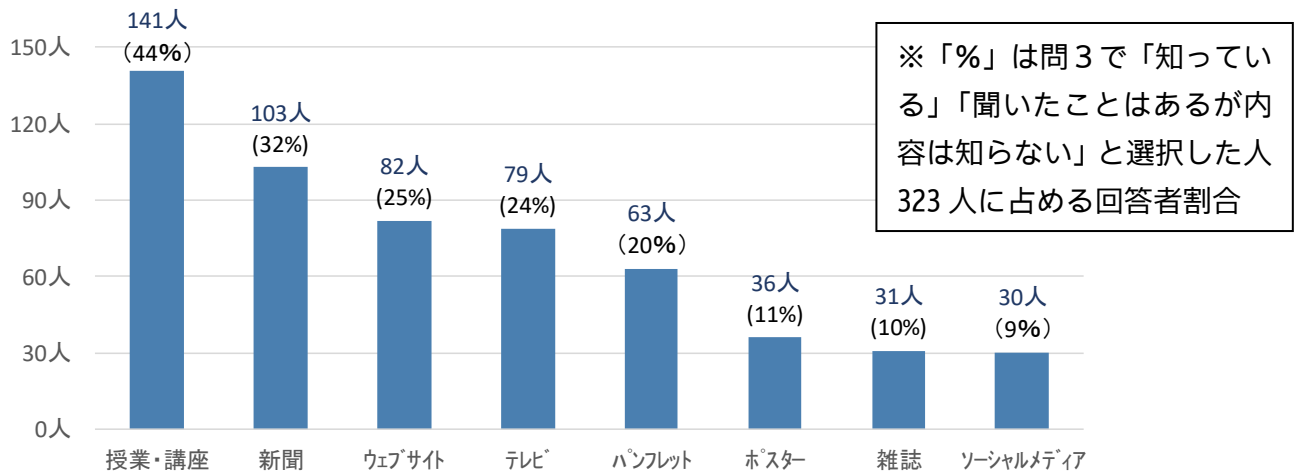


- ① 前回調査よりも7ポイント向上し、安積開拓・安積疏水に対する認知度は83%に達した。
 ② 年代別に認知度をみると、問2で低かった10代の認知度が非常に高い。
 ③ 性別でみると、男性の認知度が特に高く「全く知らない」と回答した人はいなかった。
 →安積開拓・安積疏水は知っていても、日本遺産認定の事実を知らない人が多くいる。

問4 問3で「知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」と選択した方にお伺いします。

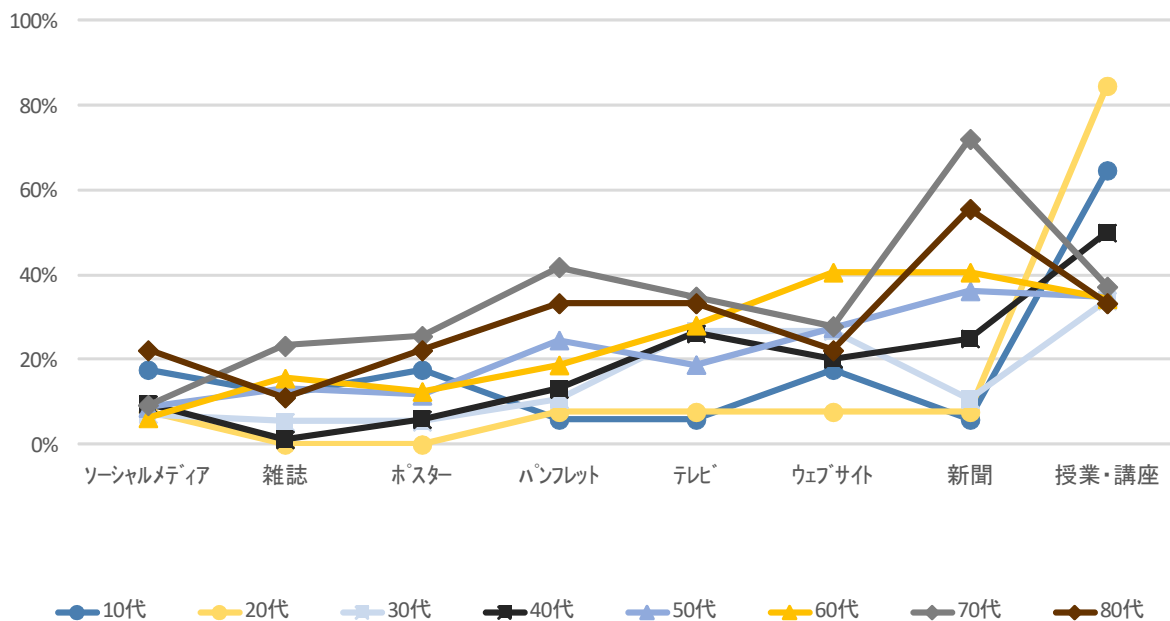
「安積開拓・安積疏水」について、どのような媒体から知りましたか？（複数選択可）

① 【問4 認知媒体】 安積疏水・安積開拓を何の情報媒体から知ったか調査



※ソーシャルメディアとは、インターネット上のコミュニケーションを通して、情報の共有や拡散が生まれる媒体のこと。フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、YouTube、ブログ等。

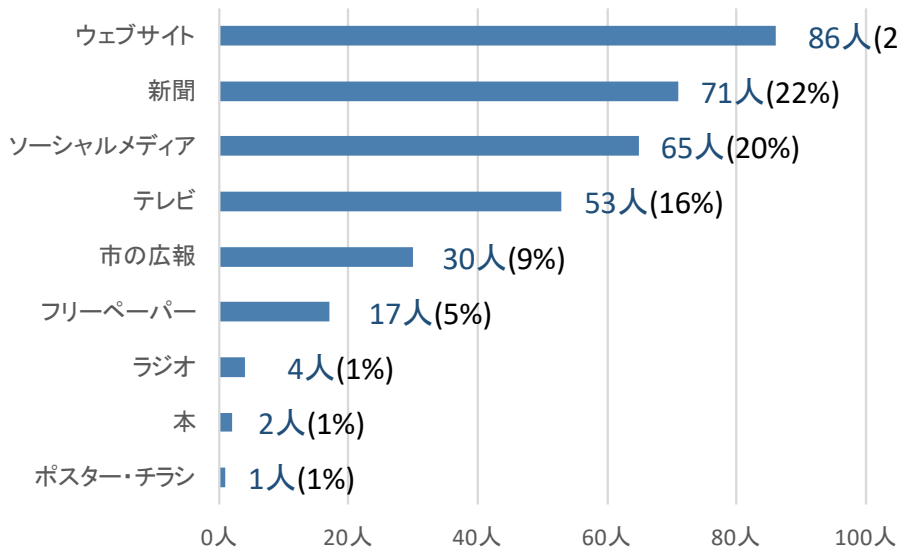
② 【問4 認知媒体×年代別】 認知媒体を年代別で比較



- ① 認知媒体としては、「授業・講座」や「新聞」と回答した人が多かった。
- ② 年代別に認知媒体をみると、10代～20代の「授業・講座」選択者が多かった。「パンフレット」、「新聞」、「授業・講座」では年代別にバラツキがある。
- ③ 選択肢にないその他意見として、「学校行事」や「地域誌」「知人から」が多かった。→安積開拓・安積疏水の認知度向上に、学校教育や生涯学習が大きく寄与している。

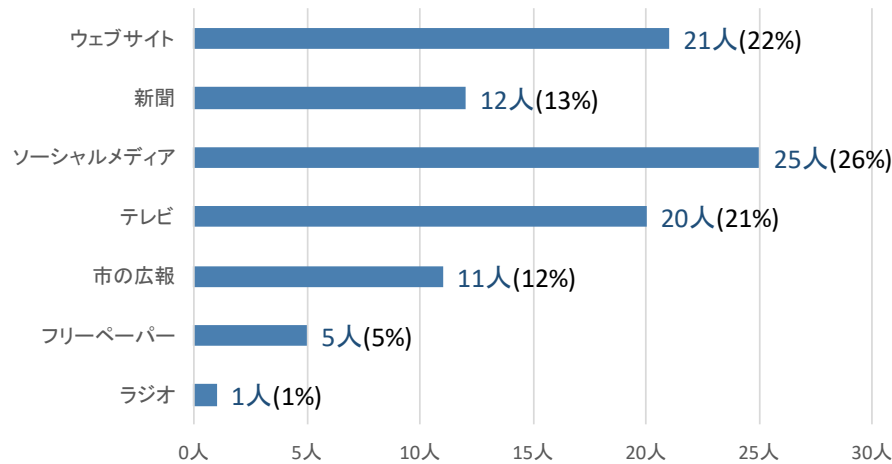
問5 日頃から情報収集をする方法は、どのような媒体が一番多いですか？（複数選択可）

① 【問5 情報収集媒体】日頃から何の媒体で情報収集しているか調査



※フリーペーパーとは、広告収入を元に定期的に無料で配布される印刷物。

② 【問2:知らない人のうち、問5 情報収集媒体】日本遺産認定を知らない人はどんな情報収集をしているか



※「%」は問2で「知らない」と選択した人95人に占める回答者割合

③ 【問2:知らない人のうち、問5 情報収集媒体×年代】日本遺産認定を知らない人は年代別にどんな情報収集をしているか

■ : 30%以上、 ■ : 50%以上

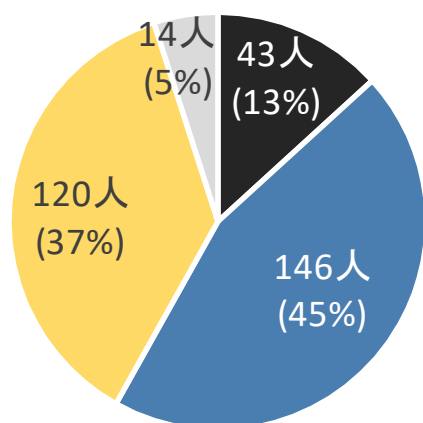
| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| ラジオ | | | 6% | | | | | |
| フリーペーパー | 8% | 17% | | 3% | 9% | | | |
| ソーシャルメディア | 50% | 67% | 28% | 24% | 14% | | | |
| 市の広報 | | 17% | 17% | 14% | 14% | | | |
| 新聞 | | | 6% | 14% | 14% | 33% | 50% | 100% |
| テレビ | 25% | | 17% | 21% | 27% | | 50% | |
| ウェブサイト | 17% | | 28% | 24% | 23% | 67% | | |

※「%」は問2で「知らない」と選択した各年代に占める対象者の割合

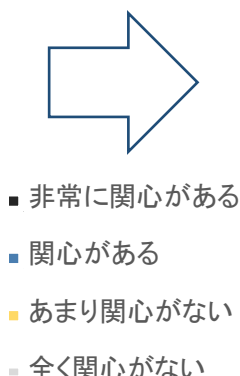
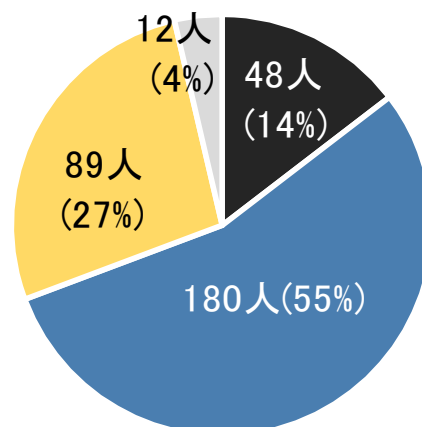
- ① 情報収集媒体としては、「新聞」よりも「ウェブサイト」と回答した人が多かった。
- ② 問2 日本遺産認定を知らない人の情報収集媒体は、「ソーシャルメディア」が1番多かった。
- ③ 10～20代は「ソーシャルメディア」が、60代以降は「新聞」・「テレビ」が多かった。
→対象者に応じてデジタルとアナログを使い分けて情報発信することが効果的である。

問6 「安積開拓・安積疏水」について、どの程度関心がありますか？（1つ選択）

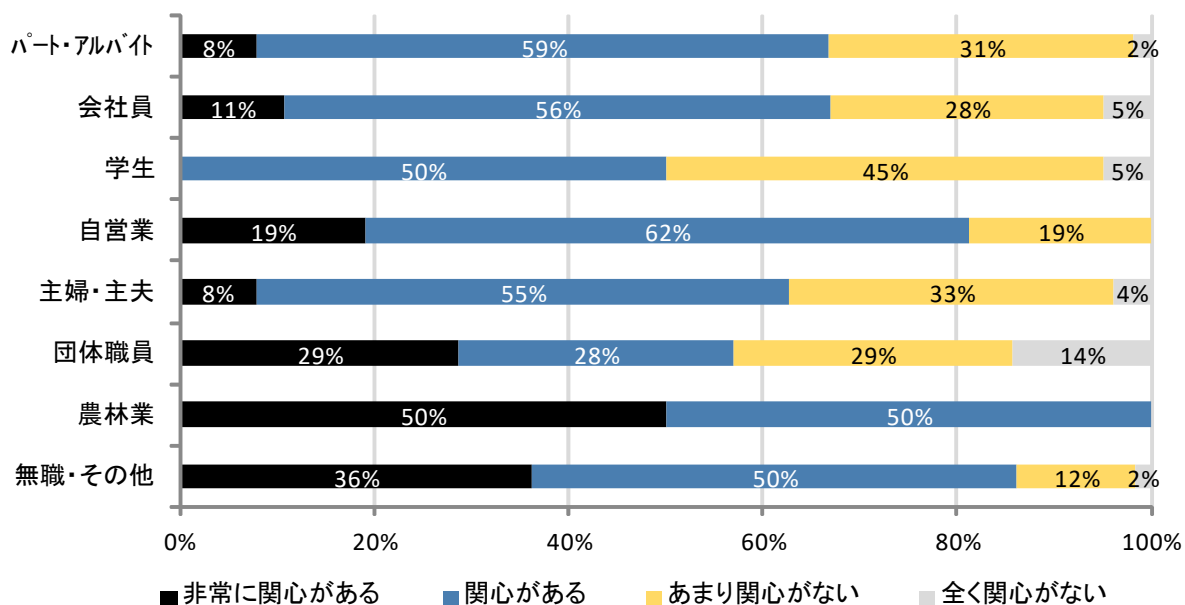
① 【前回関心度】2019年の調査



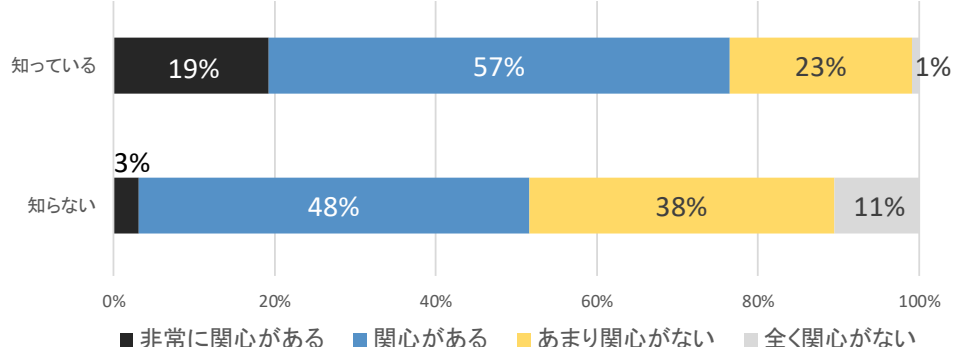
【問6関心度】2020年の調査



② 【問6関心度×職業別】関心度を職業別で比較



③ 【問2認知度×問6関心度】知っている人と知らない人の関心度を比較

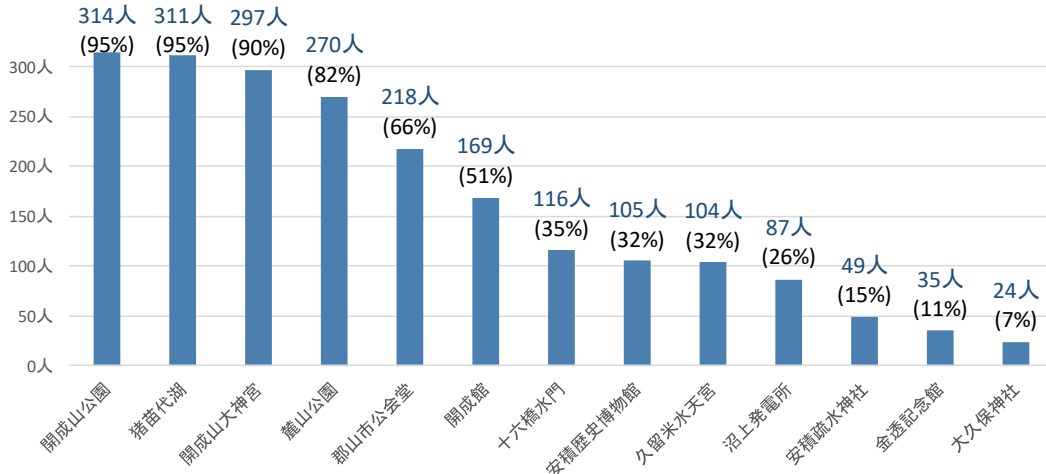


- ① 興味がある人（非常に興味がある+興味がある）は前回よりも11ポイント増え69%であった。
- ② 職業別にみると、学生の関心度が特に低い。
- ③ 問2日本遺産認定を知らない人でも、半数の人が安積開拓・安積疏水に関心がある。
→日本遺産認定や安積開拓・安積疏水の認知度に比例して関心度が高まっている。

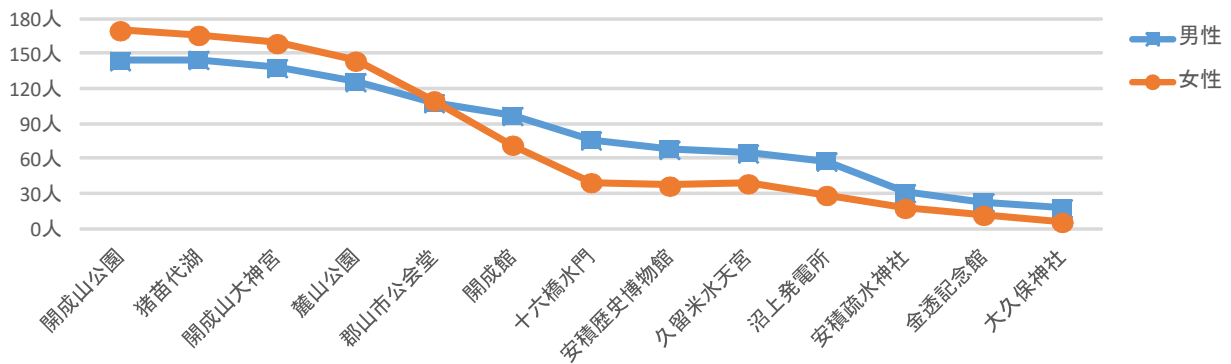
第2章 本市の日本遺産に関する取り組みについて

問7 日本遺産に認定された安積開拓・安積疏水ストーリー（以下、日本遺産ストーリー）は38の文化財で構成されています。構成文化財の中で、実際に訪れたことがある場所はどこですか？（複数選択可）

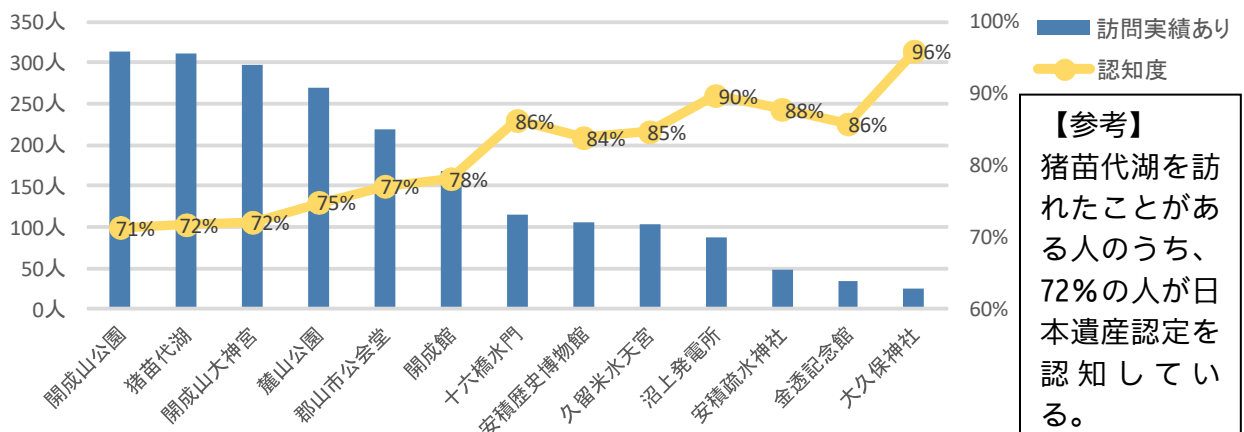
① 【問7 訪問実績】日本遺産に関係するスポットへの訪問実績を調査



② 【問7 訪問実績×性別】訪問実績を性別で比較



③ 【問7 訪問実績×問2 認知度】各スポット訪問実績がある人のうち、どれくらい日本遺産認定を認知しているか

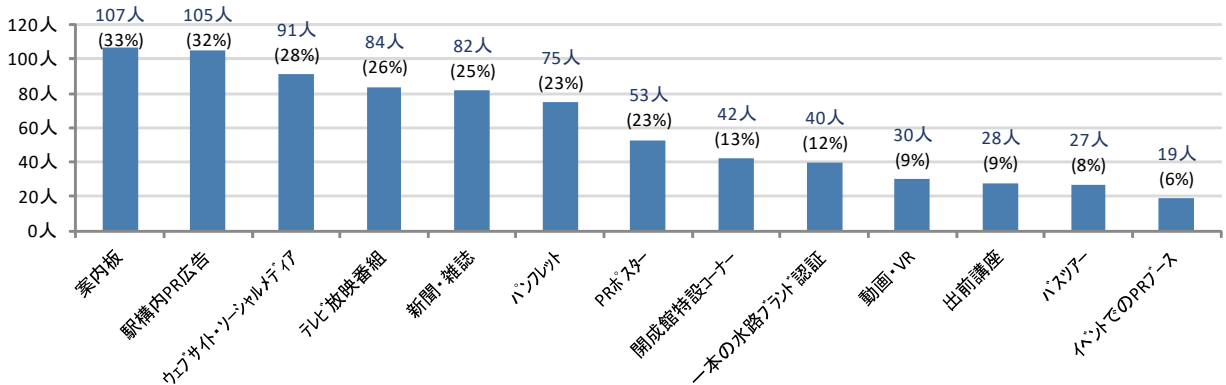


- ① 訪問実績をみると、開成麓山地区への訪問実績が高い。
- ② 訪問実績が多い所は女性の、訪問実績が少ない所は男性の比率が高い。
- ③ 訪問実績がある人は、日本遺産認定を認知している人が全体を通して7割以上いる。
→安積疏水を知るきっかけとして、訪問実績を上げていきたい。

問8 「日本遺産ストーリー」に関するPRで、実際に見たことがあるものはありますか？

(複数選択可)

① 【問8 閲覧実績】日本遺産PRツールの閲覧実績を調査



※VRとは、バーチャルリアリティの略。仮想現実という意味。360度大パノラマやデジタル技術を駆使し、まるで映像の中にいるかのような感覚が味わえる。

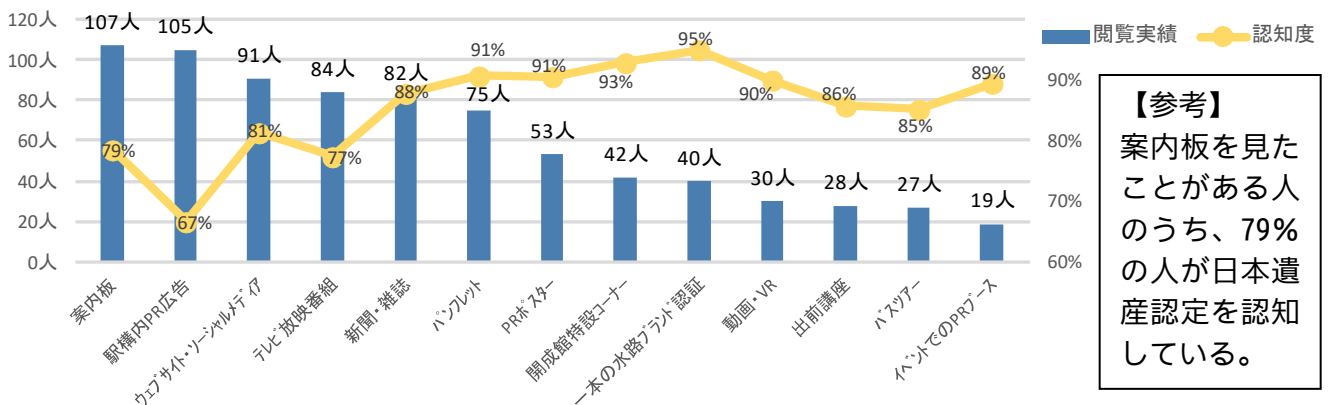
② 【問8 閲覧実績×年代別】閲覧実績を年代別で比較

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 |
|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 案内板 | 24% | 29% | 36% | 29% | 22% | 31% | 51% | 67% |
| 駅構内PR広告 | 29% | 50% | 29% | 29% | 35% | 34% | 33% | 22% |
| ウェブサイト・ソーシャルメディア | 18% | 14% | 31% | 24% | 29% | 41% | 26% | 33% |
| テレビ放映番組 | 24% | 14% | 19% | 20% | 20% | 34% | 49% | 44% |
| 新聞・雑誌 | 18% | 7% | 16% | 16% | 25% | 34% | 53% | 44% |
| ハンフレット | | | 14% | 16% | 20% | 38% | 56% | 33% |
| PRポスター | 6% | 14% | 12% | 11% | 9% | 31% | 35% | 22% |
| 開成館特設コーナー | 6% | 7% | 9% | 7% | 9% | 19% | 30% | 44% |
| 一本の水路プラント認証 | 12% | 14% | 9% | 8% | 14% | 19% | 14% | 22% |
| 動画・VR | 12% | 7% | 3% | 7% | 6% | 22% | 16% | 11% |
| 出前講座 | 6% | 7% | 2% | 2% | 4% | 22% | 23% | 33% |
| ハスツアー | | | 7% | 5% | 1% | 19% | 23% | 22% |
| イベントでのPRブース | | | | 5% | 3% | 16% | 14% | 22% |

※「%」は各年代の回答者に占める割合

■ : 30%以上、 ■ : 50%以上

③ 【問8 閲覧実績×問2 認知度】閲覧実績がある人は日本遺産認定を認知しているか

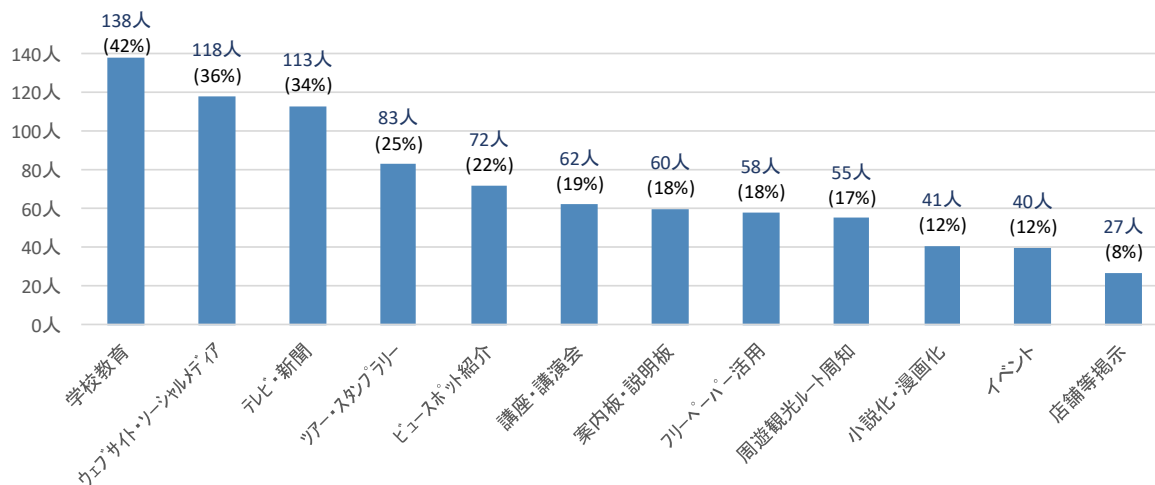


【参考】
案内板を見たことがある人のうち、79%の人が日本遺産認定を認知している。

- ① 閲覧実績は、「案内板」や「駅構内PR広告」の選択が多かった。
- ② 年代別でみると、60代以上の閲覧実績が各選択肢において高かった。
- ③ 「駅構内PR広告」を見ている人は、他に比べると日本遺産認定の認知度が低かった。
→日本遺産認定の認知度が低いものは、意識的にみてもらう仕掛けづくりが必要。

問9 「日本遺産ストーリー」を身近に感じるようになるため、特に取り組んで欲しい事はなんですか？（3つまで選択）

① 【問9 取組要望】 今後の取組要望を調査



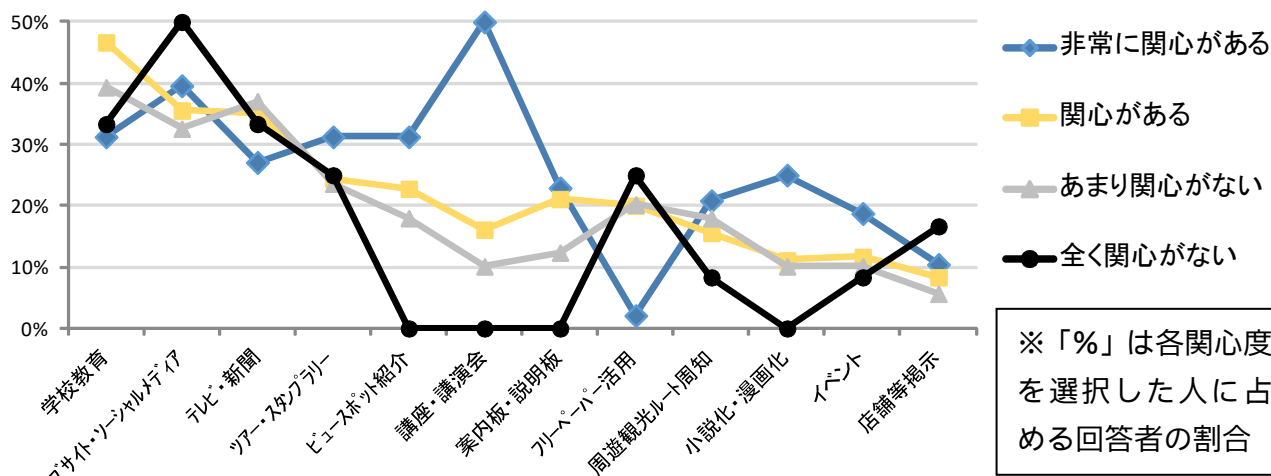
② 【問9 取組要望×年代別】 取組要望を年代別で比較

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 |
|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 学校教育 | 59% | 64% | 55% | 43% | 30% | 31% | 40% | 22% |
| ウェブサイト・ソーシャルメディア | 35% | 50% | 43% | 38% | 35% | 28% | 28% | 22% |
| テレビ・新聞 | 24% | 29% | 36% | 33% | 36% | 28% | 40% | 44% |
| ツアー・スタンプラリー | 6% | 21% | 36% | 21% | 22% | 44% | 23% | 11% |
| ビュースポット紹介 | 6% | 7% | 16% | 23% | 22% | 25% | 33% | 44% |
| 講座・講演会 | 18% | | 5% | 5% | 25% | 31% | 44% | 67% |
| 案内板・説明板 | 6% | 21% | 14% | 14% | 12% | 16% | 40% | 67% |
| フリーペーパー活用 | 6% | 14% | 16% | 30% | 20% | 13% | 5% | |
| 周遊観光ルート周知 | 6% | 14% | 21% | 14% | 16% | 16% | 23% | 22% |
| 小説化・漫画化 | 18% | 21% | 10% | 11% | 9% | 22% | 12% | 11% |
| イベント | 12% | 7% | 10% | 10% | 14% | 9% | 21% | |
| 店舗等掲示 | 6% | 21% | 9% | 5% | 13% | 16% | | |

※「%」は各年代の回答者に占める割合

■ : 30%以上、 ■ : 50%以上

③ 【問9 取組要望×問6 関心度】 今後の取組要望を日本遺産への関心度別に比較

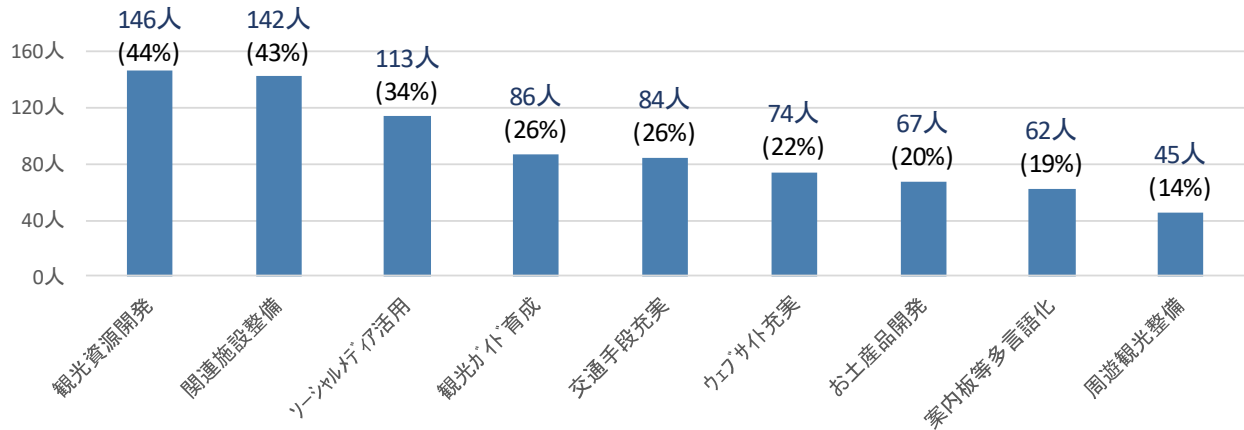


※「%」は各関心度を選択した人に占める回答者の割合

- ① 取組要望としては、4割を超える人が「学校での歴史教育」を選択した。
- ② 30代までは「学校教育」が、60代以上は「講座・案内板」の選択比率が高かった。
- ③ 関心度に応じて、「講座・講演会」開催への要望に大きな差があった。
→日常生活の中で身近にあるツールを活用した取り組みが効果的である。

問 10 「日本遺産ストーリー」を発信し観光誘客に結び付けるため、特に取り組んで欲しい事はなんですか？（3つまで選択）

① 【問 10 取組要望】 今後の観光誘客に関する取組要望を調査



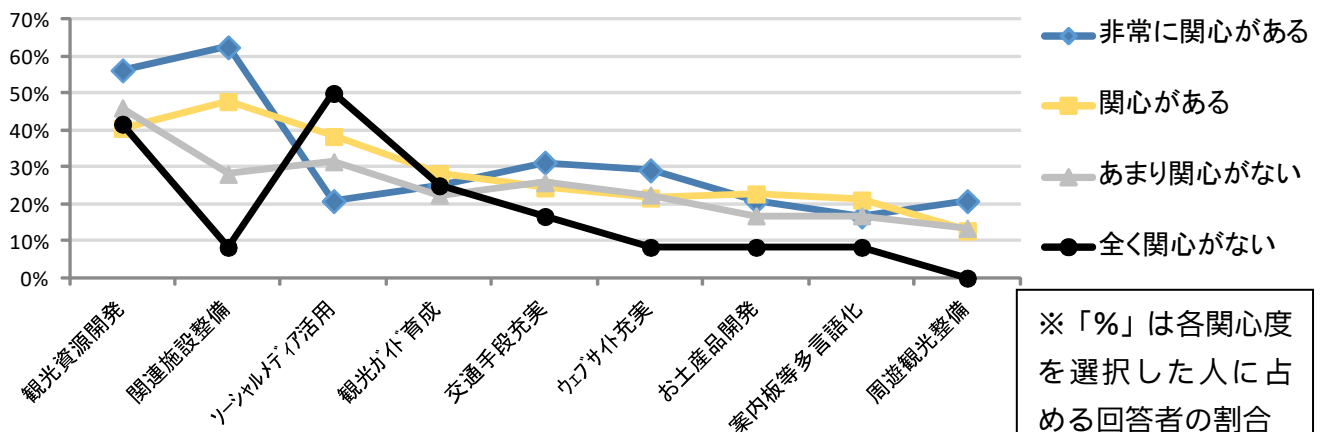
② 【問 10 取組要望×年代別】 取組要望を年代別で比較

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 観光資源開発 | 29% | 36% | 53% | 44% | 36% | 44% | 51% | 67% |
| 関連施設整備 | 35% | 14% | 40% | 37% | 46% | 44% | 63% | 67% |
| ソーシャルメディア活用 | 47% | 64% | 47% | 34% | 33% | 22% | 21% | |
| 観光ガイド育成 | 24% | 43% | 21% | 24% | 26% | 41% | 26% | 11% |
| 交通手段充実 | 6% | 43% | 22% | 17% | 19% | 38% | 44% | 56% |
| ウェブサイト充実 | 6% | 21% | 16% | 17% | 35% | 19% | 28% | 44% |
| お土産品開発 | 24% | 14% | 26% | 23% | 19% | 16% | 12% | 33% |
| 案内板等多言語化 | 29% | 29% | 21% | 13% | 19% | 13% | 28% | 11% |
| 周遊観光整備 | 18% | 14% | 10% | 13% | 14% | 13% | 21% | |

※「%」は各年代の回答者に占める割合

■ : 30%以上、 ■ : 50%以上

③ 【問 10 取組要望×問 6 関心度】 今後の取組要望を日本遺産への関心度別に比較

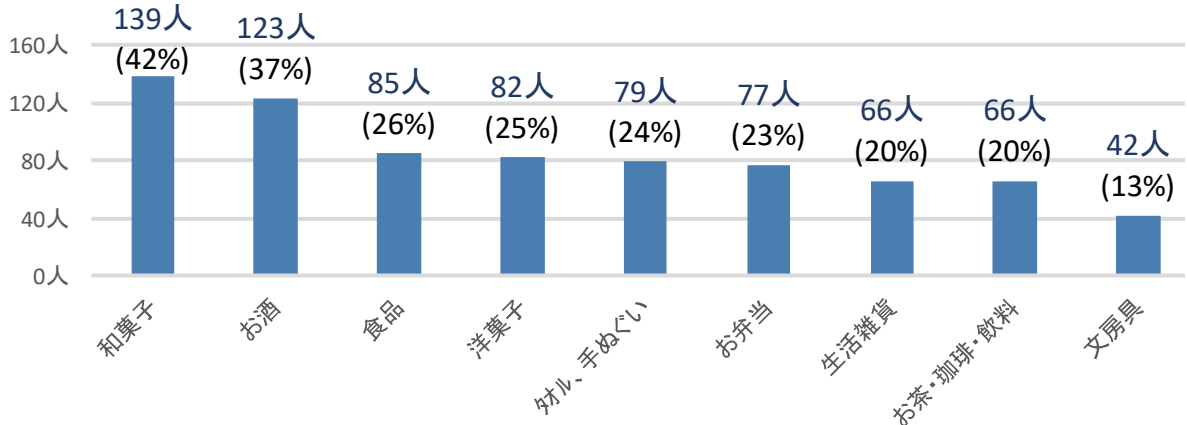


※「%」は各関心度を選択した人に占める回答者の割合

- ① 回答者のうち4割を超える人が、「観光資源開発」と「関連施設整備」を選択した。
- ② 年代別にみると、20代までは「ソーシャルメディアを活用した情報発信」が最も多かった。
- ③ 関心度に応じて、「関連施設の環境整備」に対する要望に大きな差があった。
- ④ その他意見「歴史にかかわった人達の顔が見えるような動画作成と配信」

問11 「日本遺産ストーリー」をPRするために、どのような商品であれば効果的だと思いますか？（3つまで選択）

① 【問11 商品化要望】日本遺産PRに必要な商品化の意向調査



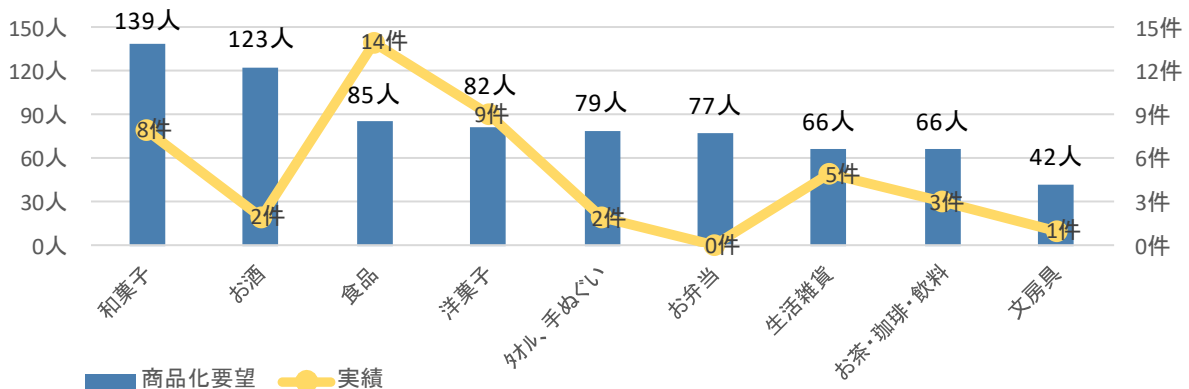
② 【問11 商品要望×年代別】商品要望を年代別で比較

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 和菓子 | 47% | 29% | 48% | 43% | 41% | 34% | 44% | 44% |
| お酒 | 35% | 21% | 41% | 38% | 39% | 47% | 33% | 11% |
| 食品 | | 29% | 26% | 26% | 28% | 22% | 33% | 33% |
| 洋菓子 | 24% | 36% | 26% | 30% | 30% | 3% | 21% | 11% |
| タル、手ぬぐい | 29% | 21% | 16% | 17% | 28% | 19% | 40% | 56% |
| お弁当 | 29% | 43% | 33% | 16% | 20% | 25% | 21% | 22% |
| 生活雑貨 | 18% | 21% | 16% | 14% | 23% | 28% | 30% | 11% |
| お茶・珈琲・飲料 | 24% | 29% | 26% | 17% | 28% | 13% | 12% | |
| 文房具 | 35% | 7% | 14% | 15% | 6% | 6% | 12% | 33% |

※「%」は各年代の回答者に占める割合

■ : 30%以上、 ■ : 50%以上

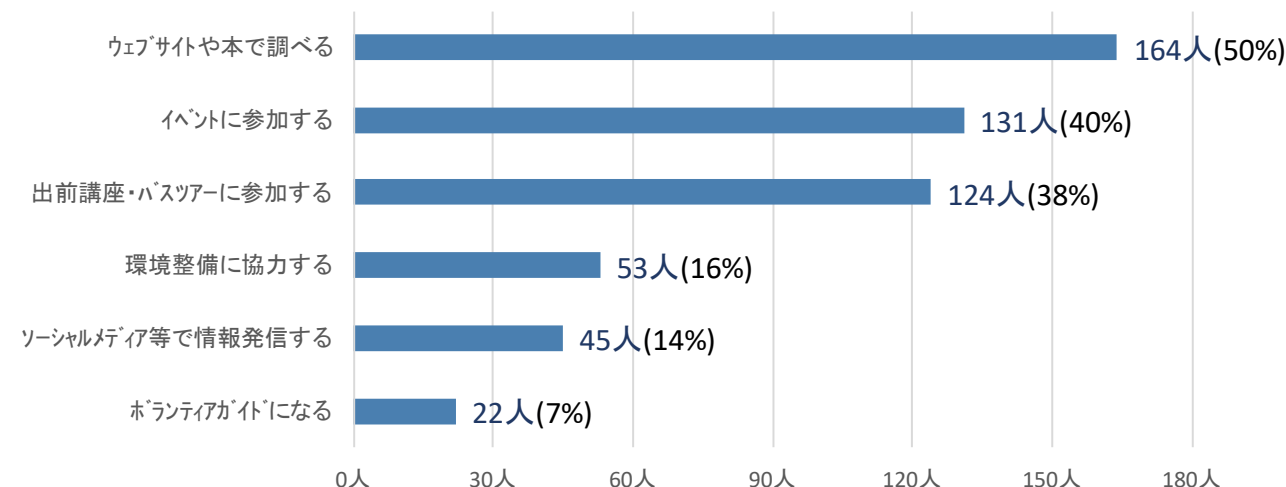
③ 【問11 商品化要望×関連商品開発実績】商品化の要望と開発実績を比較



- ① 商品化要望としては、「和菓子」や「お酒」の選択が多かった。
- ② 20代では「お弁当」が、80代では「タル・手ぬぐい」を選ぶ人が最も多かった。
- ③ 「お酒」や「お弁当」の商品化要望がある一方で、開発実績に結びついていない。
- ④ その他意見「水や水出しコーヒーといった水に関係した商品」
→日本遺産「一本の水路」ブランド認証団体と協力し、さらなる商品開発に繋げたい。

問 12 地域で「日本遺産ストーリー」を盛り上げるために、あなたが取り組んでみたい事はありますか？（3つまで選択）

① 【問 12 活動意欲】 日本遺産に関わる活動意欲を調査



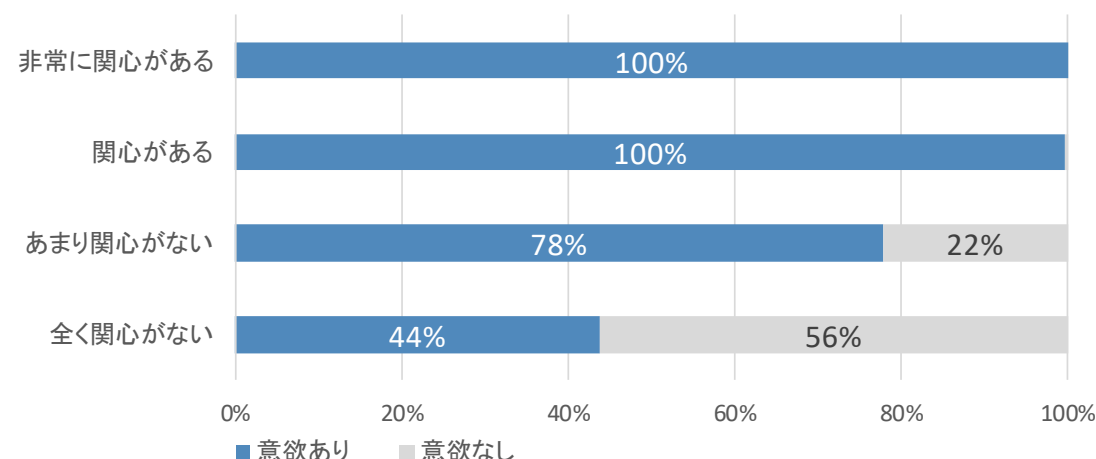
② 【問 12 活動意欲×年代別】 活動意欲を年代別で比較

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 |
|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ボランティアガイドになる | 18% | 14% | 9% | 3% | 6% | 3% | 5% | 22% |
| ソーシャルメディア等で情報発信する | 29% | 14% | 28% | 11% | 7% | 9% | 7% | 11% |
| 環境整備に協力する | 24% | | 19% | 14% | 13% | 25% | 16% | 22% |
| 出前講座・バスツアーに参加する | 12% | 21% | 34% | 29% | 30% | 69% | 63% | 44% |
| イベントに参加する | 6% | 36% | 36% | 33% | 39% | 63% | 56% | 44% |
| ウェブサイトや本で調べる | 76% | 43% | 45% | 46% | 57% | 47% | 53% | 22% |

※「%」は各年代の回答者に占める割合

■ : 30%以上、 ■ : 50%以上

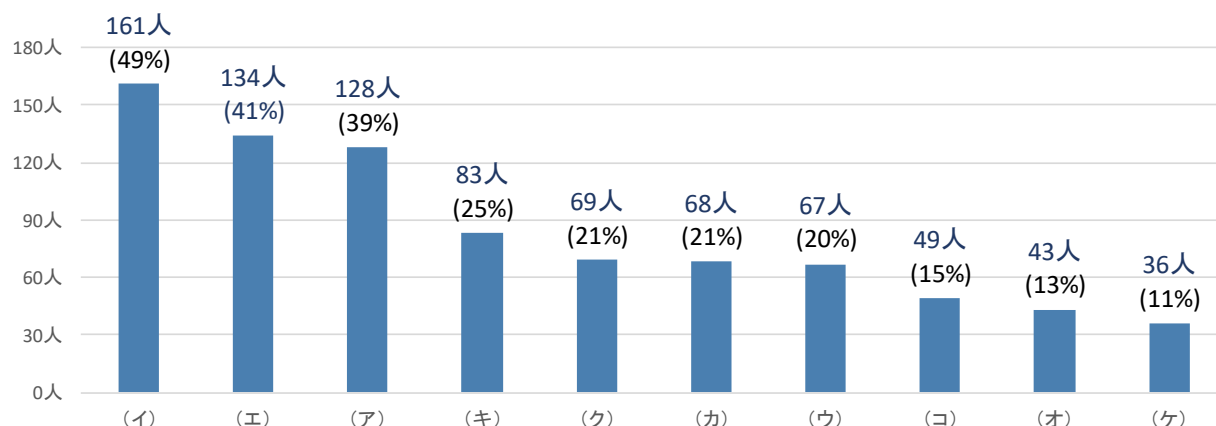
③ 【問 12 活動意欲×問 6 関心度】 活動意欲と日本遺産の関心度の関係性



- ① 活動意欲としては、ウェブサイト等検索やイベント参加の選択肢が多かった。
 - ② 10代と80代に占めるボランティアガイドになりたい人の割合が、他の世代よりも高かった。
 - ③ 関心がある人は、日本遺産に関連する活動意欲がある。
- 様々な立場の方が活躍できる場を設け、日本遺産の機運を高めていきたい。

問13 「日本遺産ストーリー」には、関連する様々なサブストーリーや事実があります。興味のあるものはありますか？（3つまで選択）

① 【問13 関連ストーリー】 どの関連ストーリーに興味があるか



- (ア) 大久保利通は、暗殺された朝に福島県令（現知事）と安積開拓の話をしていた
- (イ) 開成山大神宮は伊勢神宮（三重県）から唯一御分霊を受けている
- (ウ) 太平洋戦争時にファン・ドールン像を裏山に隠した（隠されたオランダ人）
- (エ) 開成山公園内に日本最古の染井吉野がある
- (オ) 小林久敬や渡辺閑哉など、江戸時代から安積疏水の構想を抱いている人がいた
- (カ) 渋沢栄一が沼上発電所や磐越西線の建設に投資していた
- (キ) 坂本龍馬の義弟が安積開拓をきっかけに郡山に入植していた
- (ク) 郡山宿も戊辰戦争の影響を受けていた
- (ケ) 大槻原開墾により桑野村が誕生した
- (コ) 沼上発電所は日本で初めて長距離高压送電に成功した

② 【問13 関連ストーリー×年代別】 興味のある関連ストーリーを年代別に比較

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| (イ) | 24% | 43% | 66% | 53% | 46% | 44% | 44% | 22% |
| (エ) | 18% | 43% | 55% | 46% | 38% | 25% | 40% | 22% |
| (ア) | 59% | 43% | 40% | 31% | 43% | 41% | 35% | 44% |
| (キ) | 29% | 29% | 29% | 15% | 32% | 38% | 16% | 33% |
| (ク) | 41% | 36% | 19% | 20% | 17% | 16% | 26% | 11% |
| (カ) | 12% | 14% | 5% | 23% | 29% | 16% | 33% | 22% |
| (ウ) | 24% | 21% | 10% | 17% | 25% | 25% | 23% | 44% |
| (コ) | 18% | 14% | 10% | 15% | 10% | 13% | 28% | 22% |
| (オ) | 6% | 7% | 3% | 9% | 10% | 28% | 23% | 56% |
| (ケ) | 18% | 7% | 2% | 7% | 9% | 22% | 16% | 56% |

- ① 開成山大神宮、開成山公園にまつわる関連ストーリーの選択が多かった。
- ② 80代の方は、「小林久敬・渡辺閑哉」や「桑野村誕生」にまつわるストーリーに興味を示した。
→興味度の高いものからストーリー化を進め、日本遺産への関心度に繋げていきたい。

問 14 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。(自由記述)

| |
|--|
| <p>約三十数年前から郡山に住むようになったが安積疏水のことを知らない市民の多さに驚いた。この<u>国策としての一大事業を広く市民に知らしめる必要がある。</u> (60代男性、無職・その他)</p> |
| <p><u>出前講座で安積疏水の映像を見て感動</u>しました。 (50代女性、会社員)</p> |
| <p><u>サブストーリーが多くある</u>ようなのを初めて知りましたので、1つ1つ勉強して行きたいと思います。 (40代男性、会社員)</p> |
| <p><u>士族授産の入植についてもっと掘り起こしてほしい</u>と思います。 (60代女性、自営業)</p> |
| <p>問 13 に挙げられているストーリーは興味があるので、<u>物語とか漫画で紹介</u>されると良いと思います。 (40代男性、会社員)</p> |
| <p>郡山市の<u>4年生対象のバスツアーはとても中身が濃いので今後も継続してほしい。</u> (40代女性、会社員)</p> |
| <p>子どもの<u>小学校授業・発表会・宿泊学習で安積開拓・安積疏水</u>について教えてもらいました。 (30代女性、パート・アルバイト)</p> |
| <p>開成館に説明があるのを見ましたが、<u>美術館にも安積疏水の展示物</u>があると、市外の方にも周知できて良いと思います。 (50代女性、会社員)</p> |
| <p><u>安積疏水のお土産商品</u>などたくさんあれば、他県の知り合いに渡すなどして広めていきたい。 (40代女性、会社員)</p> |
| <p>郡山市は、<u>民間のフリーペーパーが充実</u>していると思います。積極的に掲載されている<u>企業の皆さまと知恵を出しあって、企画商品の開発</u>をしてみても良い。 (50代女性、パート・アルバイト)</p> |
| <p>挑戦することが、産業の高度化、行政の効率化、教育、文化の振興に寄与すると思います。<u>「開拓者精神」を未来永劫受け継いでいくことで市勢の継続した発展に繋がる</u>と良いですね。 (50代男性、会社員)</p> |

2020年度まちづくりネットモニター第4回調査結果
テーマ「郡山市国民健康保険保健事業（健康づくり）について」

本市では、国民健康保険被保険者の健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目的に「第二期データヘルス計画」を策定し、直ちに取り組むべき課題、中長期的に取り組むべき課題を明確にし、事業を実施することにより、被保険者の健康増進及び医療費の適正化を推進しております。

今回のネットモニターでは、計画に掲げた目的・目標の達成状況の進捗確認や中間評価の参考にさせていただくため、アンケートを実施いたしましたので、その結果についてお知らせします。

（国民健康保険課）

調査概要

- 調査期間 令和2年7月1日(水)～7月10日(金) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 172名 女性 188名)
- 回答者数 327名 (男性 153名 女性 174名)
- 回答率 90.8%

【分析】

《回答者内訳（人）》

| 年代 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 男性 | 7 | 5 | 15 | 29 | 31 | 17 | 41 | 8 | 153 |
| 女性 | 8 | 10 | 43 | 57 | 39 | 14 | 2 | 1 | 174 |
| 合計 | 15 | 15 | 58 | 86 | 70 | 31 | 43 | 9 | 327 |

《健康管理について》

- ・第二期データ計画について、全体の96%が知らないと回答
- ・全体の75.2%が過去1年間に健診を「受診した」と回答

《お薬手帳について》

- ・お薬手帳は全体の89.9%が持っていると回答
- ・お薬手帳を持っていないと回答した方のうち「必要性を感じない」が43.6%で最も高く、次に「病院にかかっていない」が23.1%と回答

《生活習慣病等について》

- ・20歳以上の7.4%がたばこを「吸っている」と回答
- ・たばこが健康に与える影響について、80.9%が「とても気になる」「気になる」と回答
- ・COPD（慢性閉塞性肺疾患）について、38.2%が「知らない」と回答
- ・健康管理について、26%が「食生活に気をつけている」と回答
- ・ロコモティブシンドローム（運動器症候群）について、39.4%が「知らない」と回答
- ・医療機関を受診する際に心がけていることについては、「かかりつけ医を受診するようにしている」と回答した方が44.7%と最も高い。

【考察】

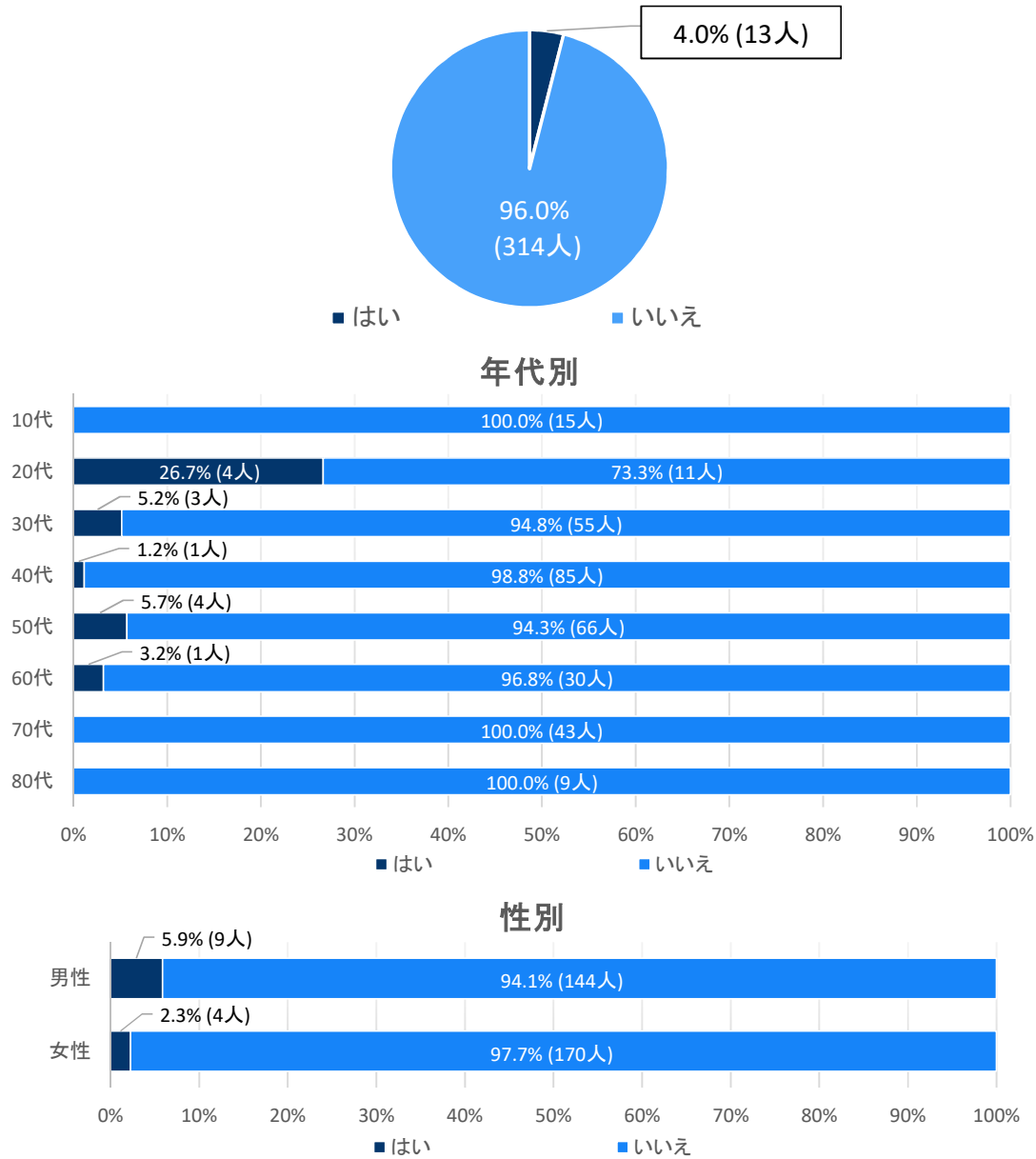
- ・自分自身の健康状態の管理・把握については、大多数の方が健診を定期的を受診していたり、主治医や専門家の支援や助言を受けているという意見が多く見られ、健康に関心が高い傾向が見られる。
- ・お薬手帳は約9割の方が持っており、病院や薬局に行くときに利用していると回答。持っていない方の約半数は「必要性を感じない」と回答していることから、今後、必要性について広く周知していく必要がある。
- ・成人の約6割以上の方は喫煙歴がないが、たばこを「吸っている」「以前は吸っていたがやめた」方の8割以上の方がたばこが健康に与える影響について「とても気になる」「気になる」と回答していることから、今後は、COPD（慢性閉塞性肺疾患）についての周知啓発を行い、認知度の向上および早期発見による重症化予防を図る必要がある。

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

第1章 健康管理について

問1 第二期データヘルス計画（※）をご存じですか？（1つ選択）

（回答者：327人）



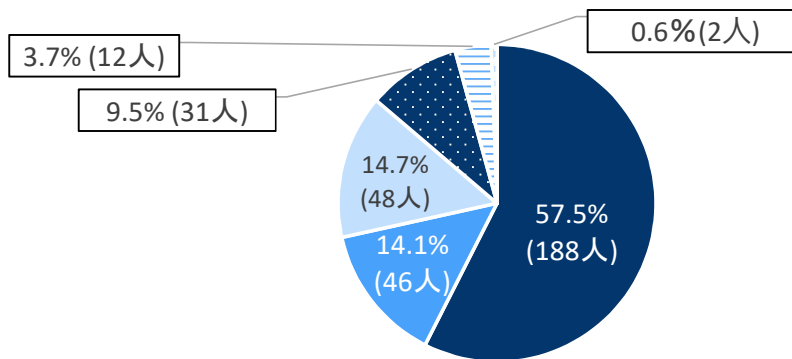
第二期データヘルス計画について、全体の96%が知らないと回答。
年代別の認知度は、20代で「はい」と回答した方は26.7%と最も多く、70代と80代はすべて「いいえ」と回答。
性別では男性の認知度が女性より3.6ポイント高い。
今後は認知度向上のため、市のウェブサイト等を活用し、広く周知していく必要がある。

(※)概要

健康や医療に関するデータに基づく、効率的・効果的な保健事業をP D C Aサイクル（計画・実施・評価・改善）で実施するための計画

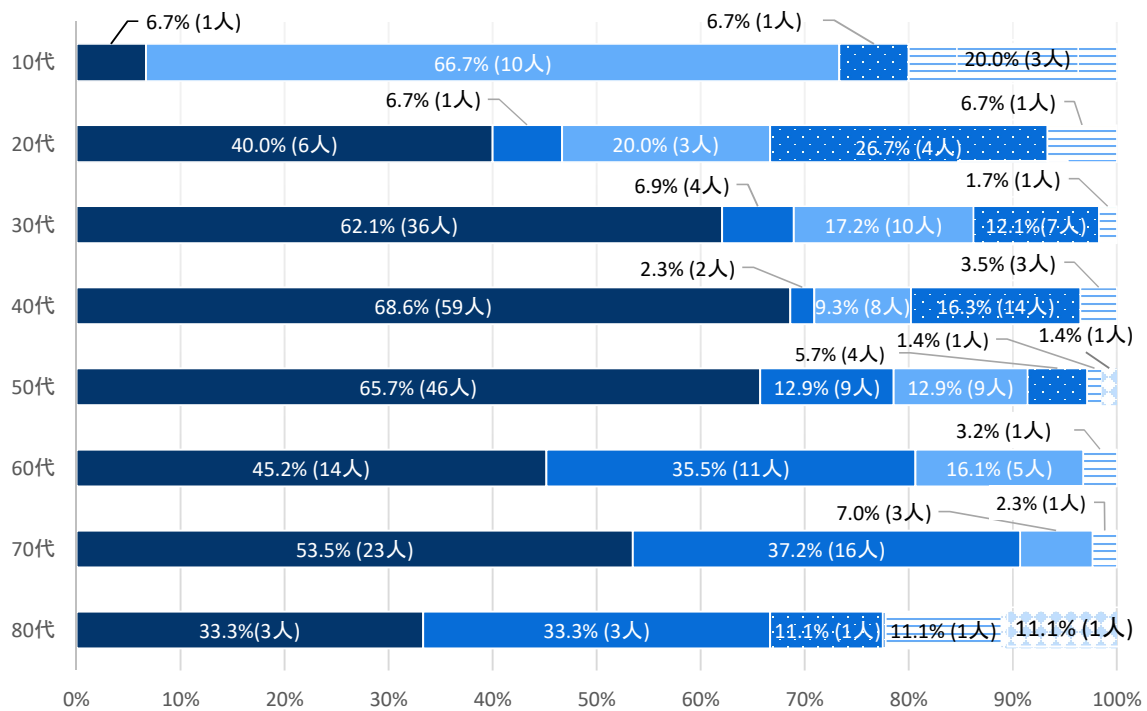
問2 ご自身の健康状態について、どのように管理・把握をしていますか？（1つ選択）

（回答者：327人）

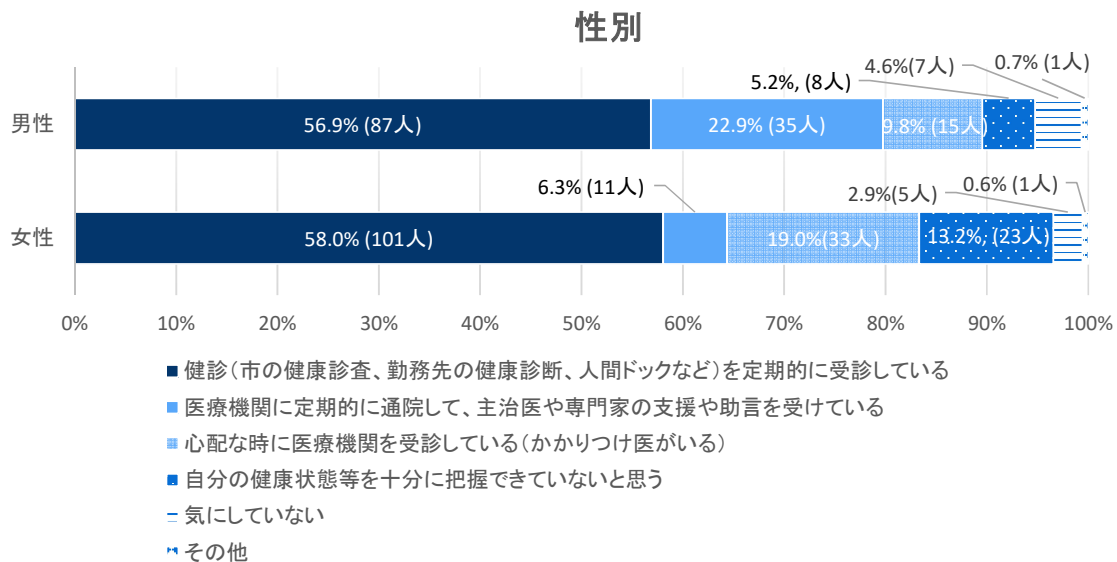


- 健診(市の健康診査、勤務先の健康診断、人間ドックなど)を定期的に受診している
- 医療機関に定期的に通院して、主治医や専門家の支援や助言を受けている
- 心配な時に医療機関を受診している(かかりつけ医がいる)
- 自分の健康状態等を十分に把握できていないと思う
- 気にしていない
- ◆ その他

年代別



- 健診(市の健康診査、勤務先の健康診断、人間ドックなど)を定期的に受診している
- 医療機関に定期的に通院して、主治医や専門家の支援や助言を受けている
- 心配な時に医療機関を受診している(かかりつけ医がいる)
- 自分の健康状態等を十分に把握できていないと思う
- 気にしていない
- ◆ その他



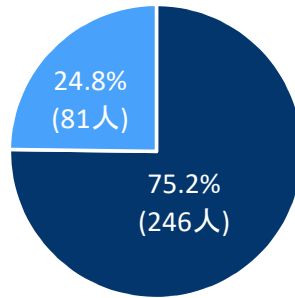
健康状態の管理・把握については、「健診(市の健康診査、勤務先の健康診断、人間ドックなど)を定期的に受診している」と回答した方が57.5%で最も多く、次に「心配な時に医療機関を受診している(かかりつけ医がいる)」が14.7%、次に「医療機関に定期的に通院して、主治医や専門家の支援や助言を受けている」が14.1%と回答。

年代別では、多くの世代で「健診(市の健康診査、勤務先の健康診断、人間ドックなど)を定期的に受診している」と回答した方が最も多い。

性別では、男性も女性も「健診(市の健康診査、勤務先の健康診断、人間ドックなど)を定期的に受診している」と回答した方が最も多い。

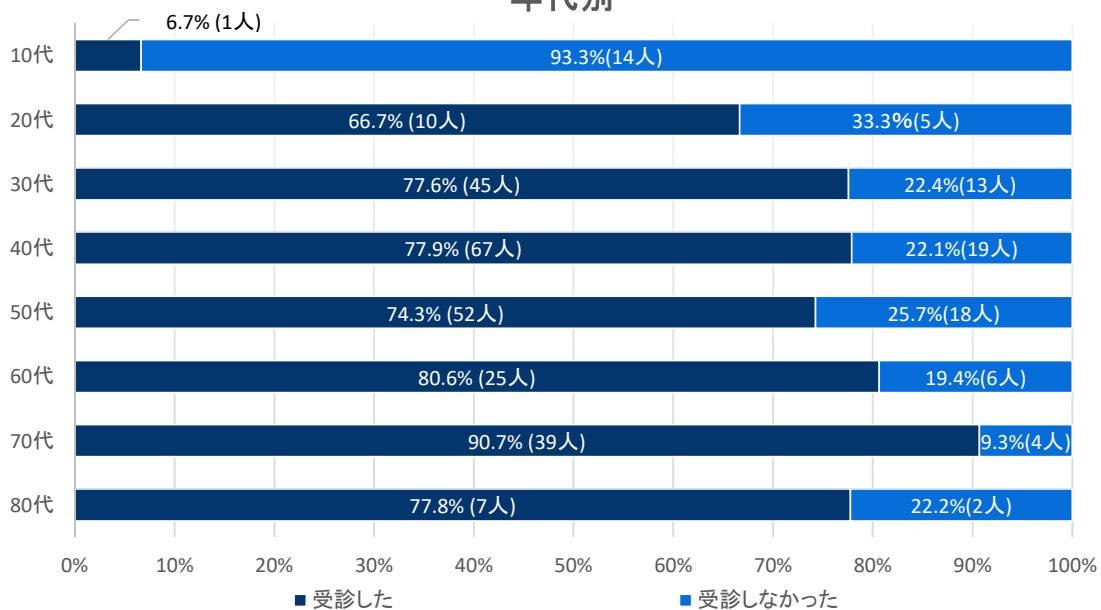
問3 あなたは過去1年間に健診を受診しましたか？（1つ選択）
 （※）がん検診のみ、妊産婦健診、病院や診療所で行う診療としての検査は健診に含みません。

（回答者：327人）

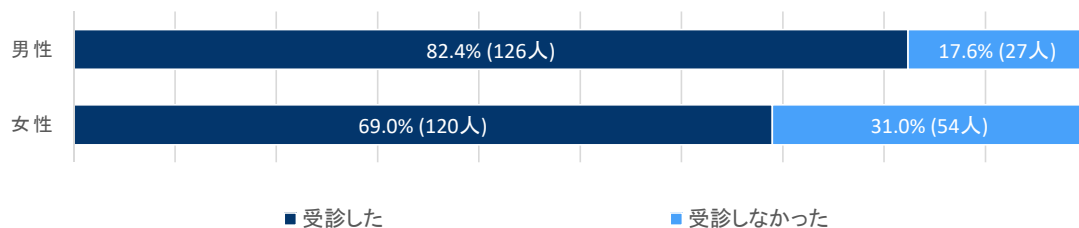


■ 受診した ■ 受診しなかった

年代別



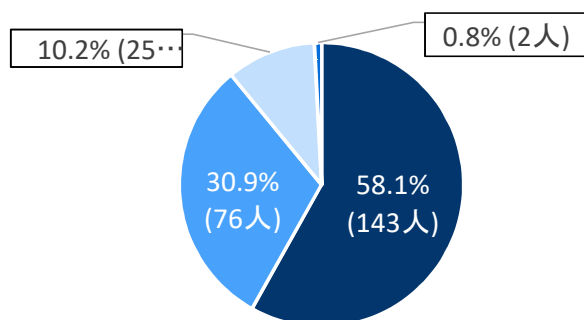
性別



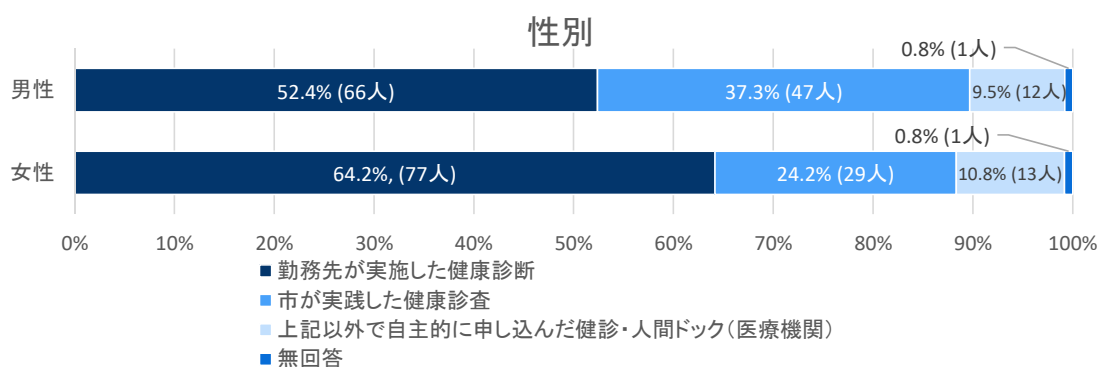
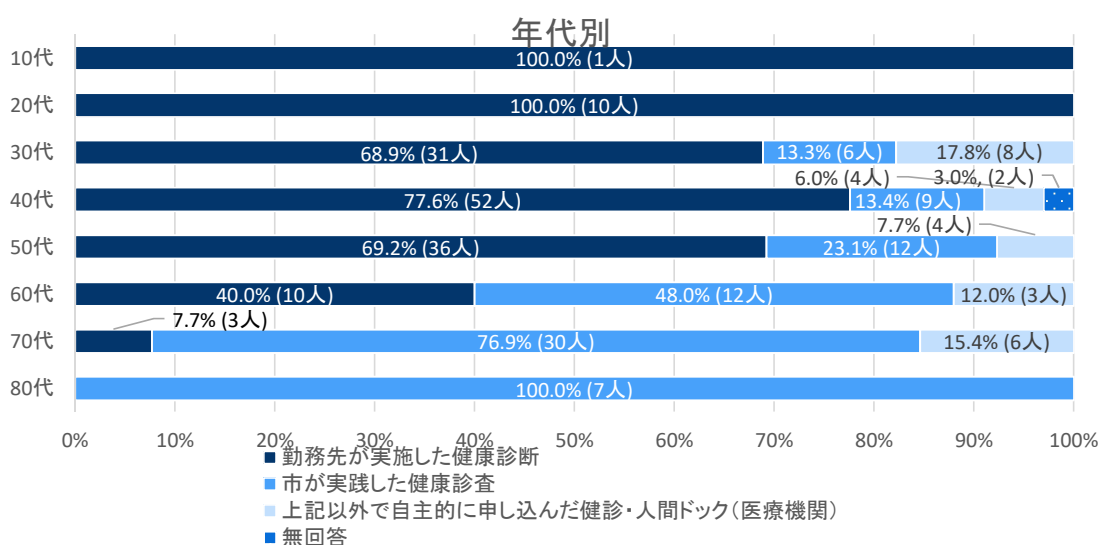
健診の受診については、全体の75.2%が「受診した」と回答。
 年代別では、70代で「受診した」と回答した方は90.7%と最も多く、10代は6.7%と全世代で最も少ない。
 性別では、「受診した」と回答した割合が、男性が女性より13.4ポイント高い。
 全体の7割以上の方が健診を受診しており、健康に関心が高いことが読み取れる。

問4 問3で「受診した」を選択した方にお伺いします。どこで健診を受けましたか？
(1つ選択)

(回答者：246人)



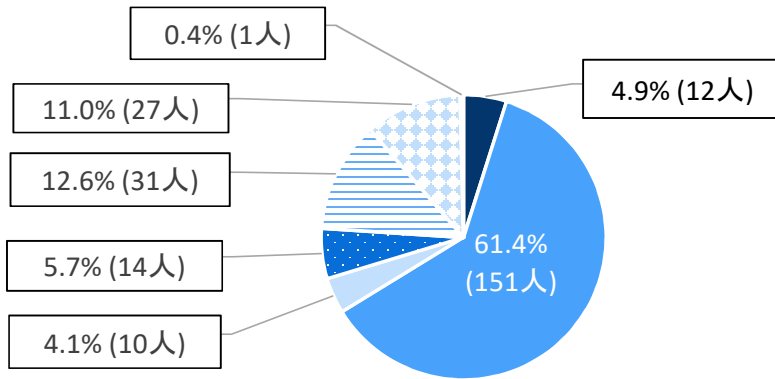
- 勤務先が実施した健康診断
- 市が実施した健康診査
- 上記以外で自主的に申し込んだ健診・人間ドック(医療機関)
- 無回答



健診については、58.1%が「勤務先が実施した健康診断」、30.9%が「市が実施した健康診査」と回答。
 年代別では、50代までが「勤務先が実施した健康診断」、60代から80代は「市が実施した健康診査」と回答した方が最も多い。
 性別では、男性も女性も「勤務先が実施した健康診断」と回答した方が最も多く、「市が実施した健康診査」は男性が女性より13.1ポイント高い。

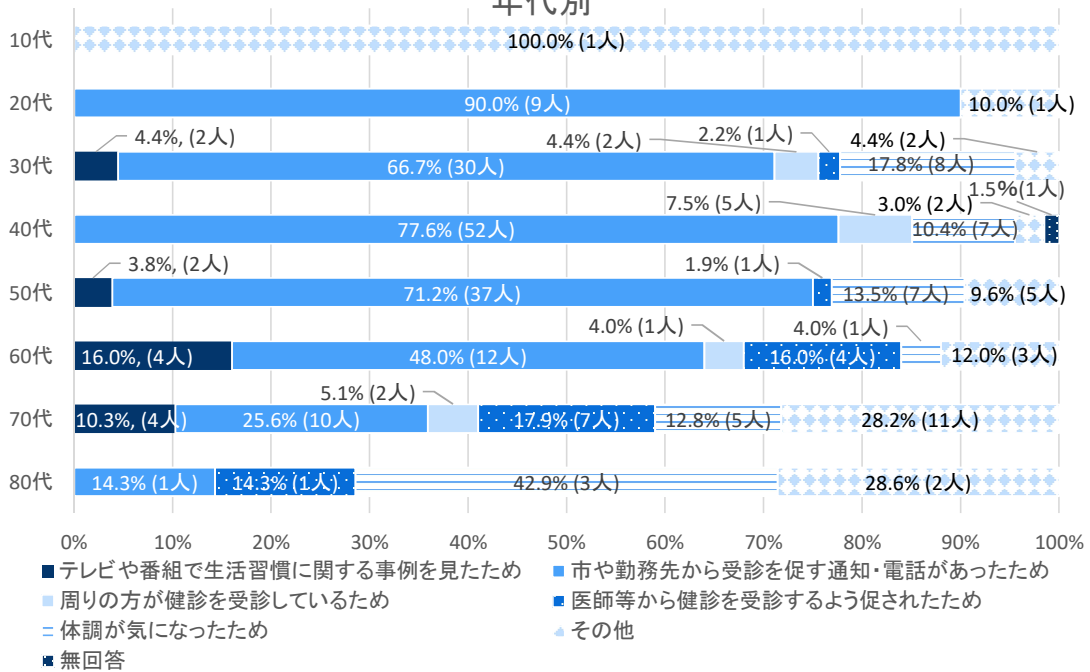
問5 問3で「受診した」を選択した方にお伺いします。受診しようと思った理由は何ですか？
(1つ選択)

(回答者：246人)

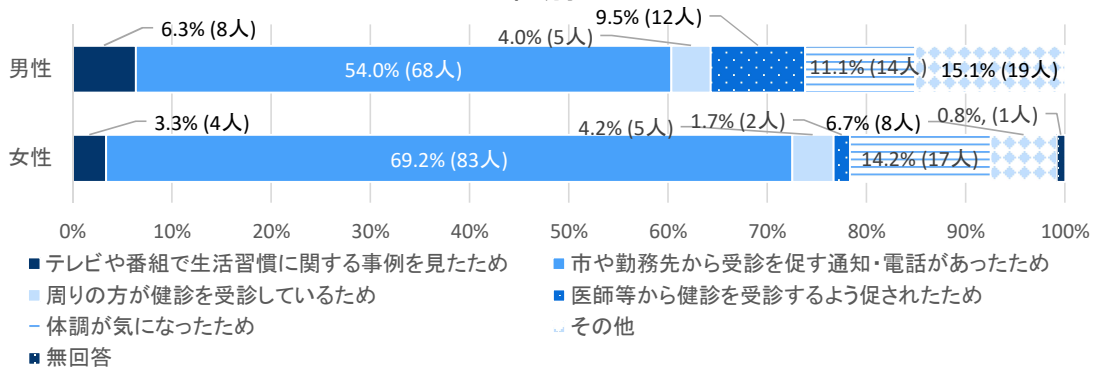


- テレビや番組で生活習慣に関する事例を見たため
- 市や勤務先から受診を促す通知・電話があったため
- 周りの方が健診を受診しているため
- 医師等から健診を受診するよう促されたため
- 体調が気になったため
- その他
- 無回答

年代別



性別



◆「その他」を選択した方の主な意見

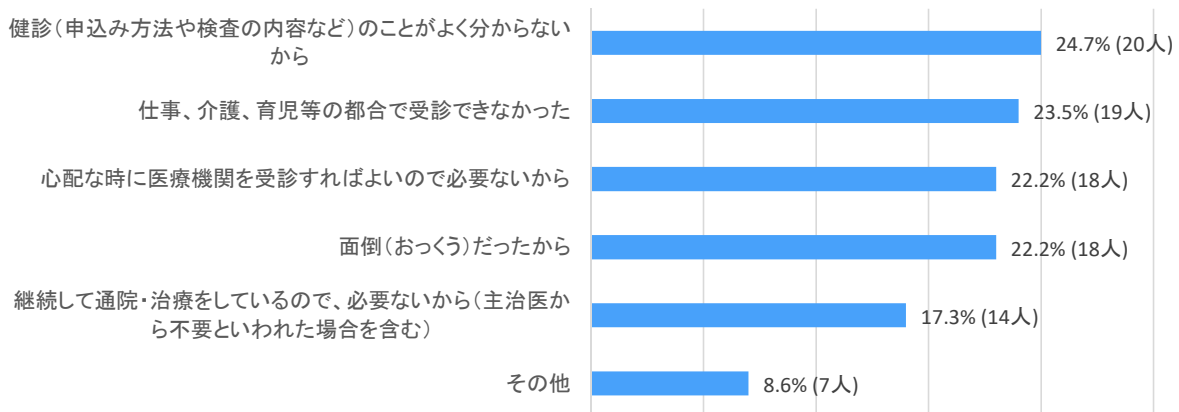
- ・「毎年定期的に受診している」
- ・「自身の数値の変化を確認したいから」
- ・「健康保持のため」
- ・「会社に検診結果を報告するため」
- ・「家族のすすめ」

受診しようとした理由については、61.4%が「市や勤務先から受診を促す通知・電話があったため」、12.6%が「体調が気になったため」と回答。
年代別では、ほぼすべての世代で「市や勤務先から受診を促す通知・電話があったため」と回答した方が最も多い。
性別では、男性も女性も「市や勤務先から受診を促す通知・電話があったため」と回答した方が最も多く、「医師等から健診を受診するよう促されたため」は男性が女性より7.8ポイント高い。

※回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

問6 問3で「受診しなかった」を選択した方にお伺いします。受診しなかった理由は何ですか？（複数選択可）

（回答者：81人）



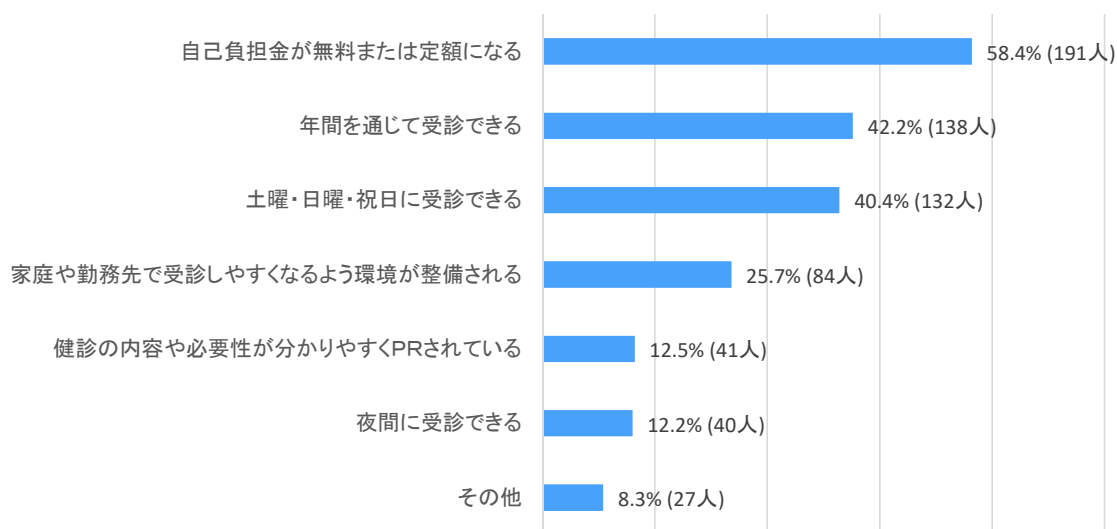
◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・「タイミングが合わなかった」
- ・「費用がかかる」
- ・「受診したかどうか忘れてしまった」

健診を「受診しなかった」と回答した方のうち、24.7%の方が「健診（申込み方法や検査の内容など）のことがよく分からないから」、23.5%の方が「仕事、介護、育児等の都合で受診できなかった」と回答。

問7 どのような条件や環境が改善されたら、健診を受診しやすくなりますか？
(または受診しようと思いますか？) (複数選択可)

(回答者：327人)



◆「その他」を選択した方の主な意見

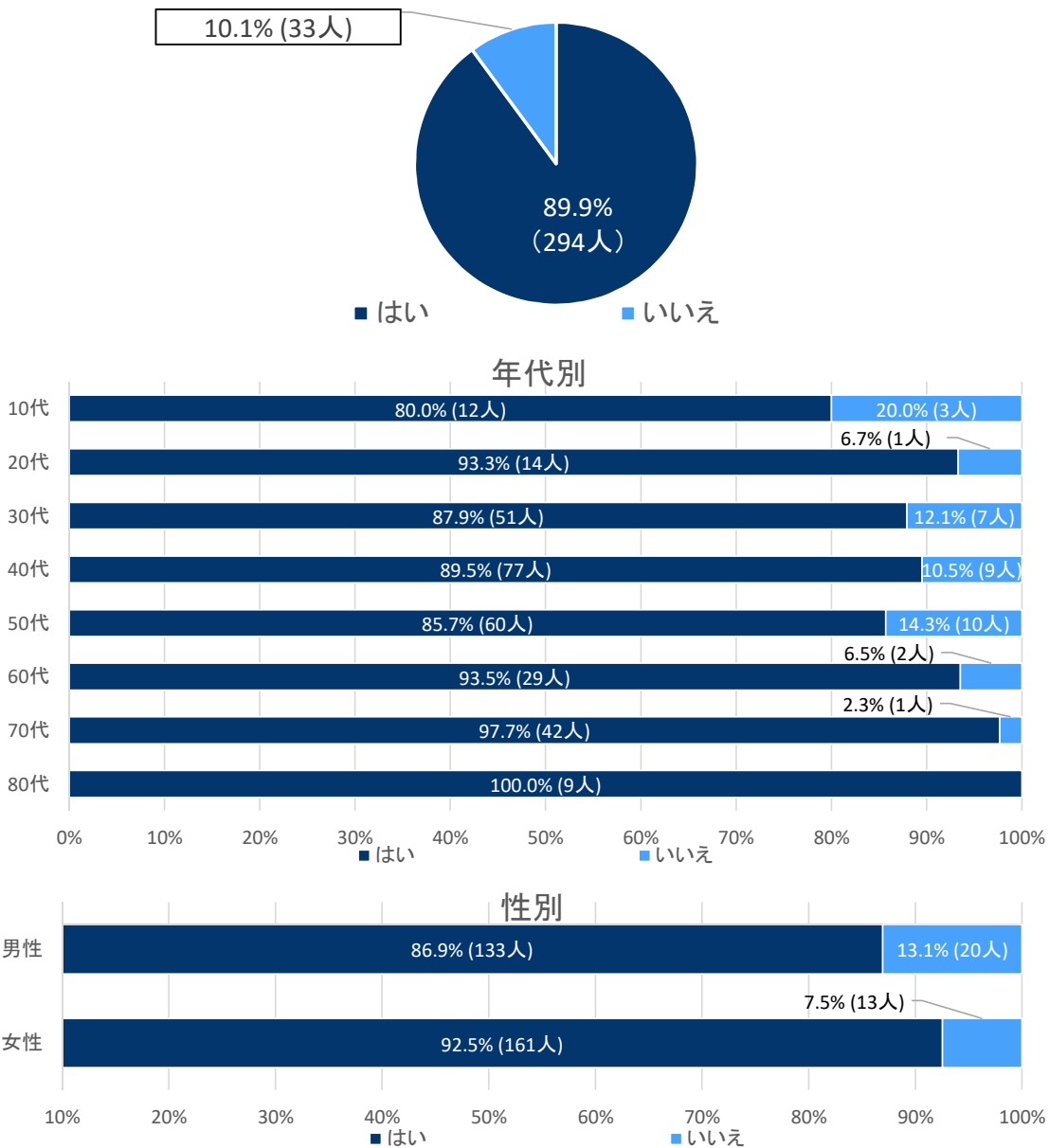
- ・「胃カメラの実施先を増やしてほしい」
- ・「前日予約で受診できる」
- ・「乳幼児を預けられる」
- ・「年代別や性別の、検査項目が限定されたコース分けがあるとよいのでは？」
- ・「受診期間や曜日にもっと幅があると良い」

58.4%が「自己負担金が無料または定額になる」、次いで「年間を通じて受診できる」が42.2%となっている。

第2章 お薬手帳について

問8 お薬手帳（※）はお持ちですか？（1つ選択）

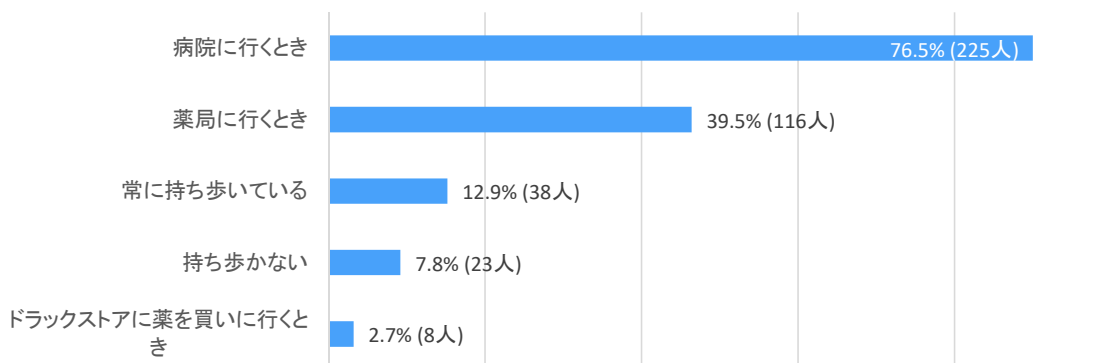
（回答者：327人）



お薬手帳について、全体の89.9%が持っていると回答。
年代別では、全ての年代で8割以上の方が全員持っていると回答し、70代では97.7%、60代では93.5%が持っていると回答。
性別では、女性が男性よりお薬手帳を持っていると回答した割合は、5.6ポイント高い。
お薬手帳の所持率は約9割と高く、年代、性別を問わず普及していることが読み取れる。

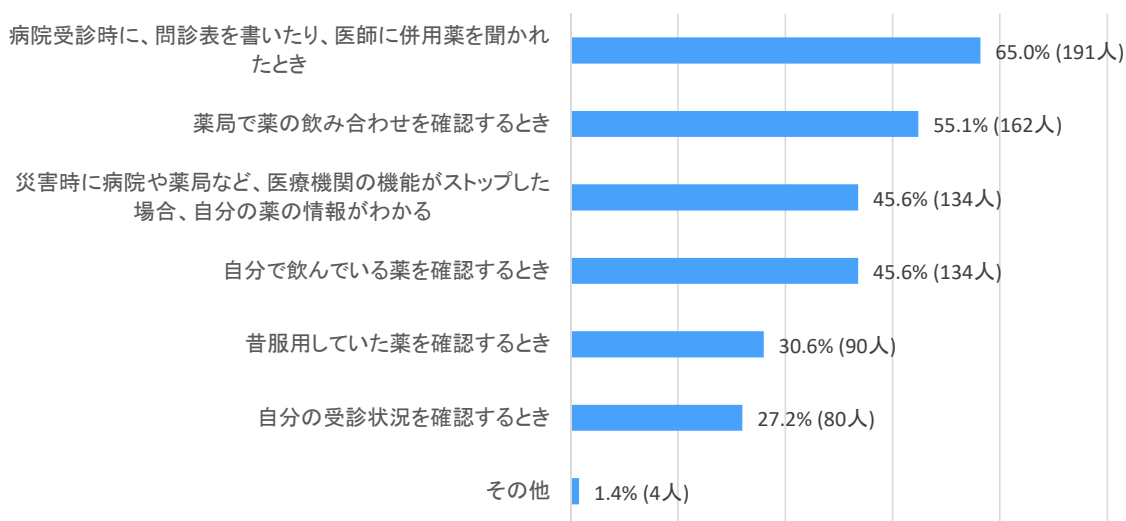
（※）お薬手帳は、処方された医薬品の名前や飲む量、回数、飲み方などを記録し、携帯するための手帳のことです。

問 9 問 8 で「はい」を選択した方にお伺いします。お薬手帳はどのような時に持ち歩いて
(回答者：294人)



お薬手帳を持ち歩く理由として、「病院に行くとき」が76.5%で最も高く、次に「薬局に行くとき」が39.5%と回答。

問 10 問 8 で「はい」を選択した方にお伺いします。お薬手帳はどのような時に役に立つ
と思いますか？（複数選択）
(回答者：294人)



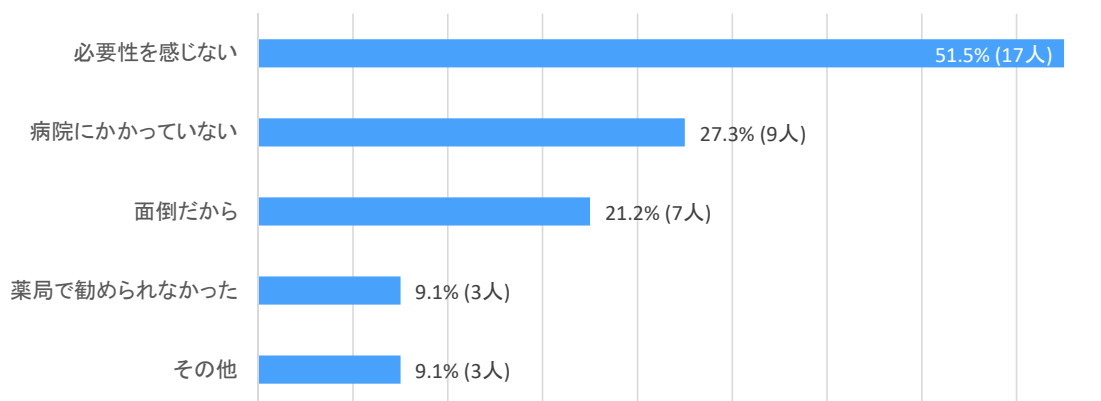
◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・「薬に対するアレルギーの有無」
- ・「自分が倒れた時に分かるように」

お薬手帳が役に立つ理由として、「病院受診時に、問診表を書いたり、医師に併用薬を聞かれたとき」が65.0%で最も高く、次に「薬局で薬の飲み合わせを確認するとき」が55.1%と回答。

問11 問8で「いいえ」を選択した方にお伺いします。お薬手帳をお持ちでない理由は何ですか？（複数選択）

(回答者：33人)



◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・「薬を飲んでいないから」
- ・「いつも使う物ではないので失くしてしまうから」
- ・「定期的に飲んでいない薬はないから」

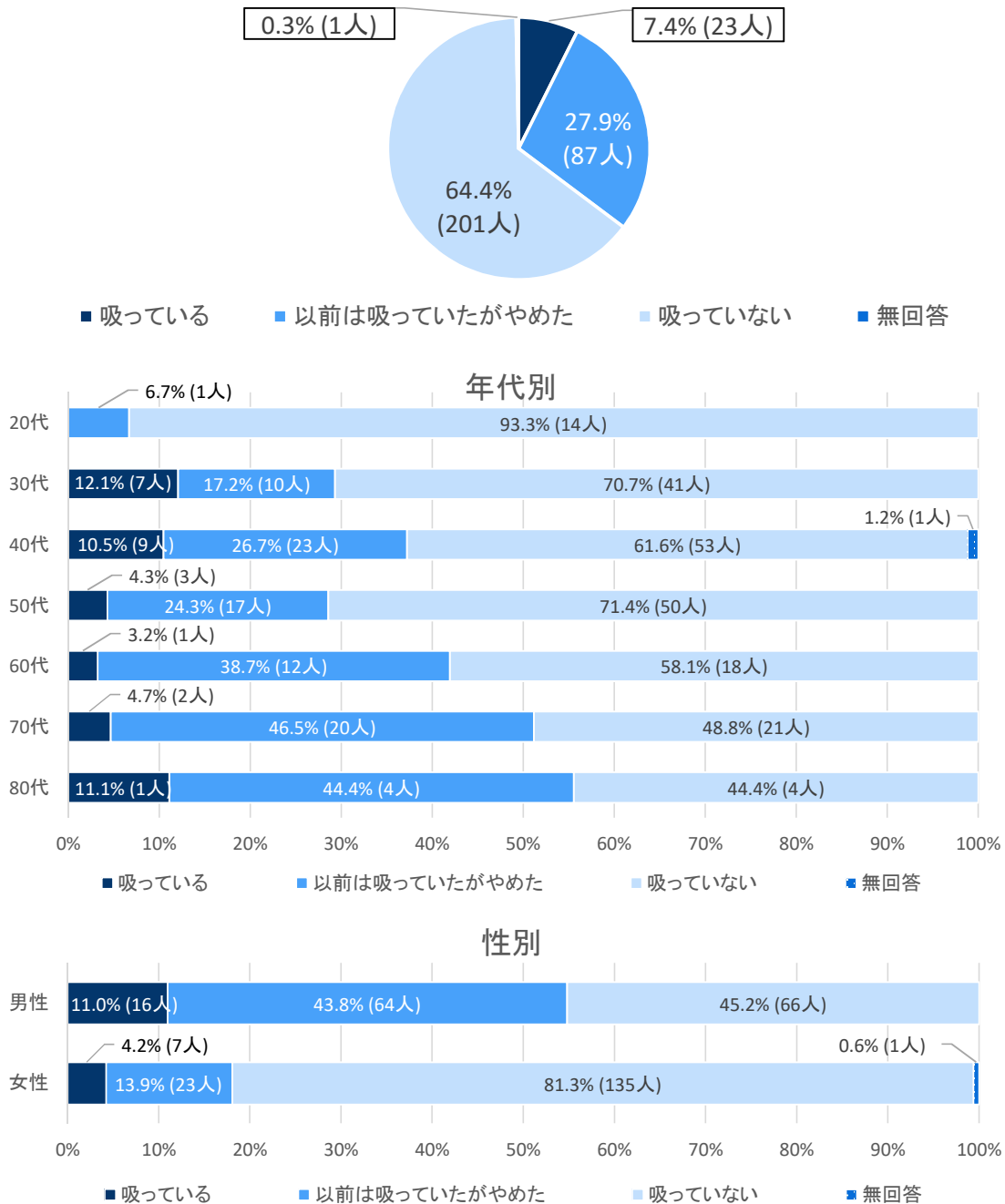
お薬手帳を持ち歩かない理由として、「必要性を感じない」が51.5%で最も高く、次に「病院にかかっていない」が27.3%と回答。

お薬手帳を持っていない方の約半数は「必要性を感じない」と回答していることから、今後、必要性について広く周知していく必要がある。

第3章 生活習慣病等について

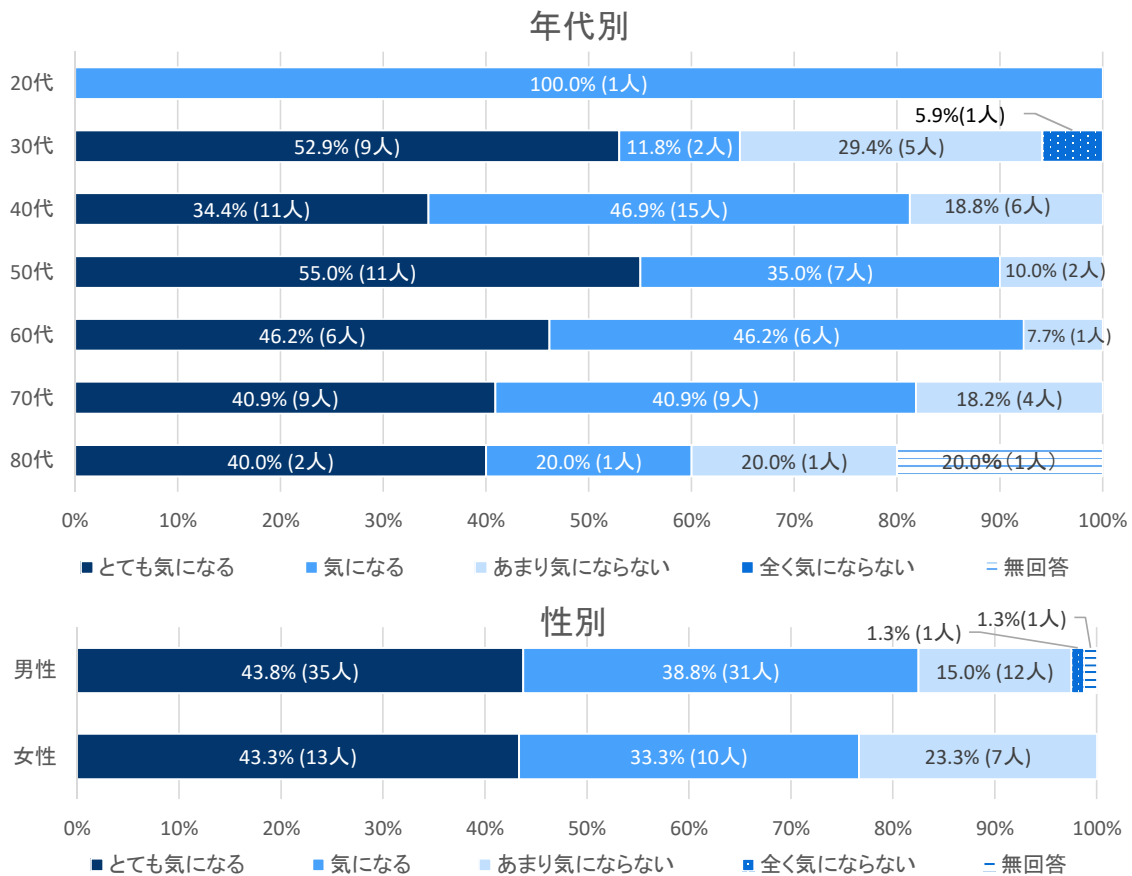
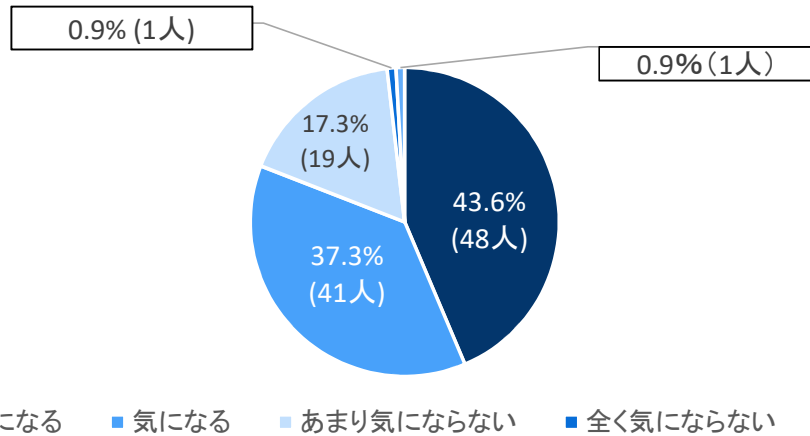
問12 20歳以上の方にお伺いします。たばこを吸っていますか？（1つ選択）

（回答者：312人）



たばこについて、全体の64.4%が「吸っていない」と回答。次に「以前は吸っていたがやめた」と回答した方は27.9%であり、両方で全体の9割を超えている。
 年代別では、20代の方から60代までの5割以上は「吸っていない」と回答。
 性別では、女性が男性より「吸っていない」と回答した割合は、36.1ポイント高い。
 成人の約6割以上の方は喫煙歴がないことが読み取れる。

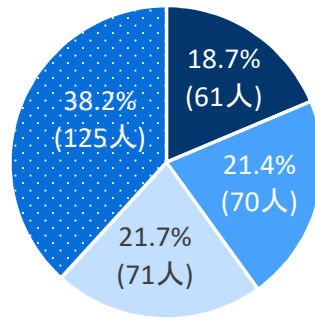
問 13 問12で「吸っている」、「以前は吸っていたがやめた」を選択した方にお伺いします。たばこが健康に与える影響について、どう思いますか？（1つ選択）
 (回答者：110人)



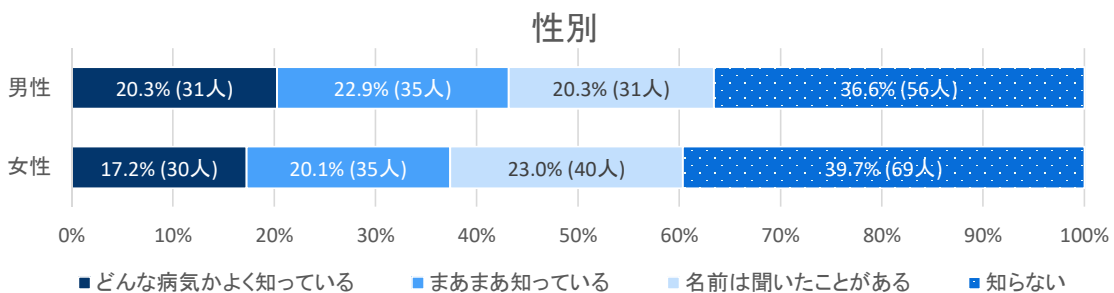
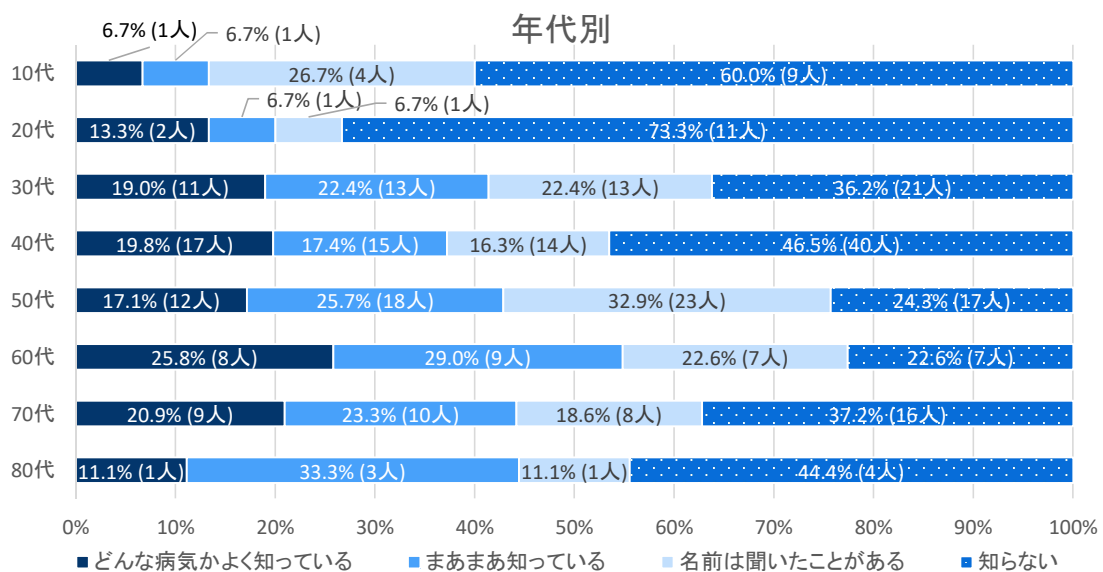
たばこが健康に与える影響について、「とても気になる」が43.6%、「気になる」が37.3%をあわせて全体の8割を超えており、たばこが健康に与える影響について関心が高いことがわかる。
 性別では、「あまり気にならない」では女性が男性より8.3ポイント高い。

問 14 COPD（慢性閉塞性肺疾患）（※）をご存じですか？。（1つ選択）

（回答者：327人）



■ どんな病気かよく知っている ■ まあまあ知っている ■ 名前は聞いたことがある ■ 知らない

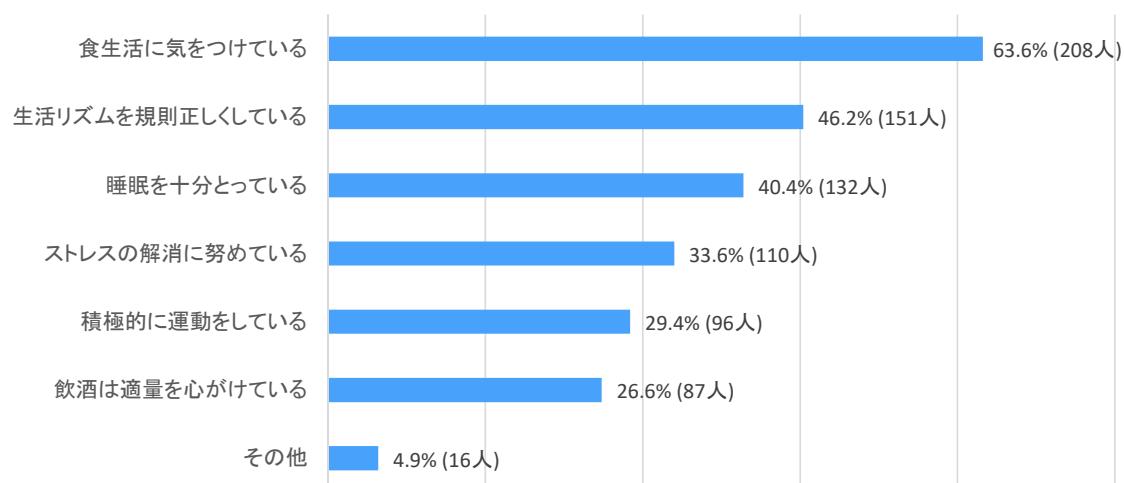


COPD（慢性閉塞性肺疾患）について、「知らない」と回答した方は38.2%。
 年代別では、10代の60%、20代の73.3%が「知らない」と回答。
 性別では、男女で大きな差は見られない。
 約4割の方が「知らない」と回答していることから、今後は認知度の向上および早期発見による重症化予防を図る必要がある。

※ たばこの煙を主とする有害物質が長期に気道に触れることによって起きる炎症性の疾患で、主な症状として咳・痰・息切れがあり、徐々に呼吸障害が進行する疾患のことです。

問 15 普段から健康管理に気をつけていることはありますか？（複数選択）

（回答者：327人）



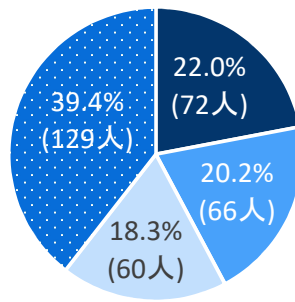
◆ 「その他」を選択した方の主な意見

- ・ 「軽い運動になるほうを選ぶようにしている」
- ・ 「適度に出かけて日光を浴びたり外の空気を吸う」
- ・ 「毎朝のウォーキング」
- ・ 「生きていられることを感謝する生活態度」

健康管理については、「食生活に気をつけている」が63.6%で最も多く、次に46.2%の方が「生活リズムを規則正しくしている」と回答。

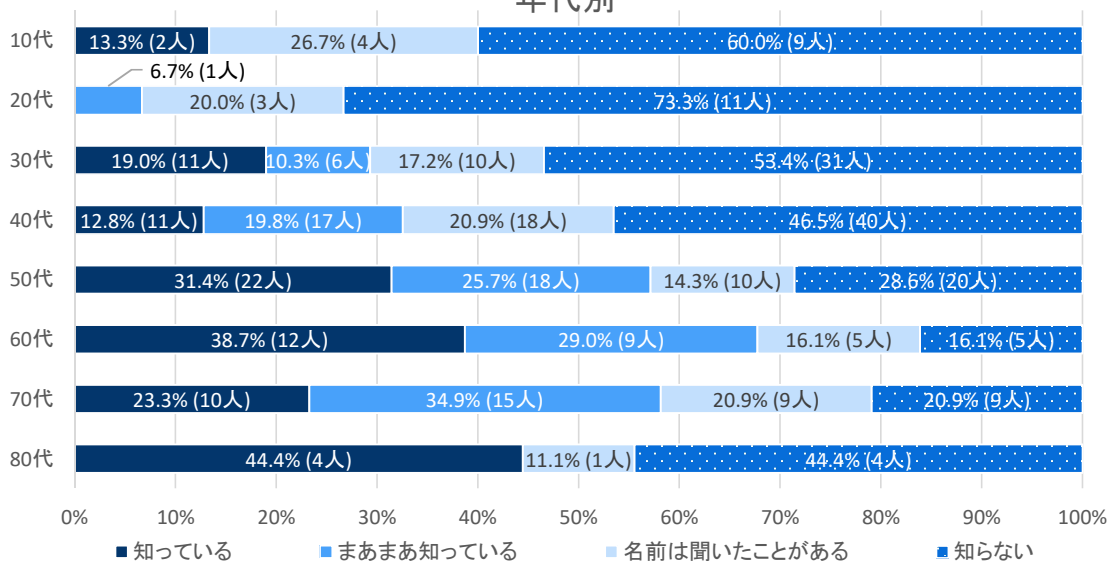
問 16 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）（※）をご存じですか？（1つ選択）

（回答者：327人）

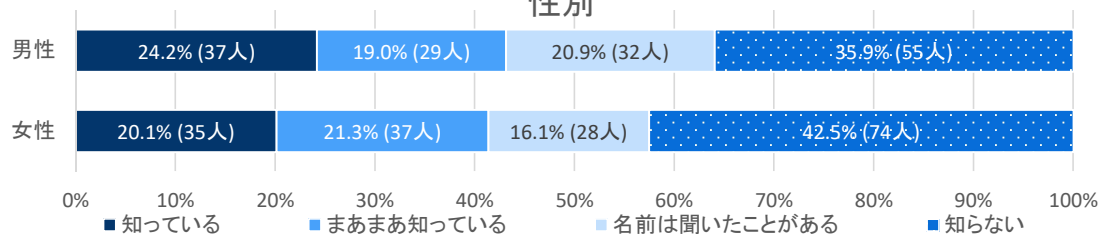


■ 知っている ■ まあまあ知っている ■ 名前は聞いたことがある ■ 知らない

年代別



性別



ロコモティブシンドローム（運動器症候群）について、「知らない」と回答した方は39.4%。

年代別では、10代の60%、20代の73.3%が「知らない」と回答。

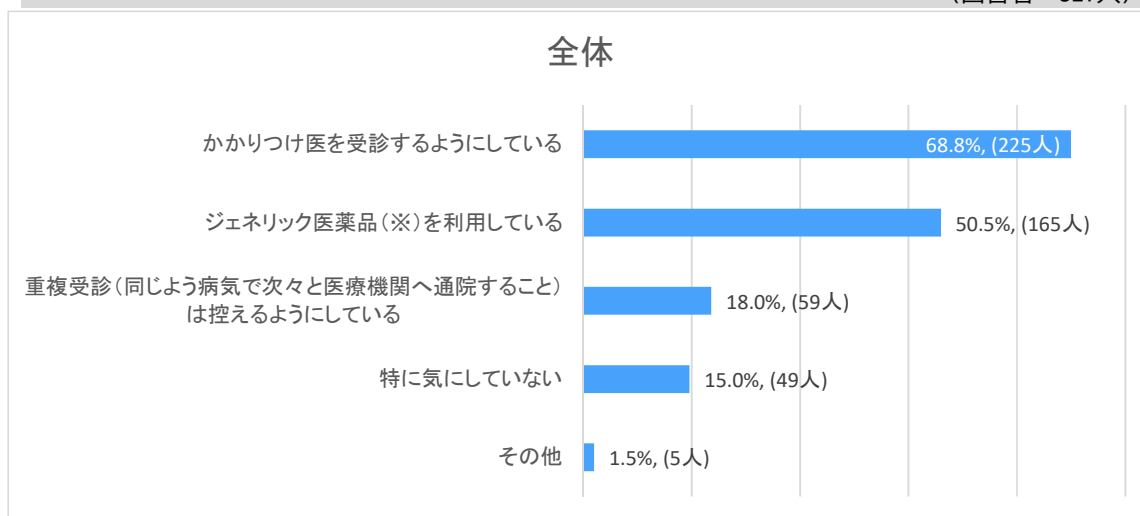
性別では、女性が男性より「知らない」と回答した割合は、6.6ポイント高い。

※ 筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器のいずれか、あるいは複数に障害が起こり、「立つ」、「歩く」といった機能が低下し、介護が必要になる可能性の高い状態のことです。

第4章 その他

問 17 医療機関を受診する際にどのようなことを心がけていますか？（複数選択可）

（回答者：327人）



◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・「知識の広い医師、他職種の意見に耳を傾けられる医師にかかるようにしている」
- ・「評判、きちんと診断してくれること」
- ・「医療機関の評判などを調べる」

医療機関を受診する際に心がけていることについては、「かかりつけ医を受診するようにしている」が68.8%で最も高く、次に50.5%の方が「ジェネリック医薬品を利用している」と回答。

※ 新薬の製造・販売の特許満了後に、同じ有効成分で作られ、同等の効用であることを国が承認した医薬品です。新薬に比べ低価格のため、薬代を節約することができます。保険証やお薬手帳に貼ることができるジェネリック医薬品希望シールを、ご希望の方に配布しています。

問 18 その他、ご意見がございましたら、ご記入ください。(自由記述)

(回答者：42人)

健康増進について

・福島県全体に言えることですが、太り過ぎや虫歯、成人病が多いと思います。普段から身体に気をつけるような周知や、受診しやすい環境が必要だと思います。また、検診では女性医が選べないことに不信感があります。専業主婦はただでさえ受診する機会が限られているので、育児の合間に受診、相談しやすい場所がほしいですね。(30代・女性)

・自分の健康は自分で守るようにしている。友人に医者嫌いがいるが、自慢にはならない。病気は早期発見、早期治療が大切と思うので検診はとっても大事。(70代・男性)

・医療機関や薬局で、健康に関する無料の冊子や掲示物があると待ち時間に見ることができ、健康への意識が高まると思うので、そのような冊子や掲示物が増えると良いと思います。(40代・女性)

・かかりつけ医に月1にて診療してもらっているので何でも相談できている。急な病の時も対応してくれる。レントゲン、心電図、エコー検査や胃の透視等、年に1度受けているため、健康診断は受けていない。(70代・男性)

・どんどん高齢化になっていくと思うので、医療費の負担軽減や介護関係の施設や労働者の人数や環境が充実するといいですね。(50代・女性)

・町内会役員時代、行政センターでロコモ運動の講座を4回開催。町内会の皆さまに健康体操の必要性をPR。自治体(町内会)で、朝・昼のラジオ体操の実施、ロコモ体操、輪投げ・ピンポンなど軽運動の普及で郡山市健康日本一めざしましょう！(30代・男性)

・自分のことを理解する意味で検診は定期的に受診した方がいいが、まだその重要性を分かっていない人が多いのではないかと思う。もう少しそういう病気があることを周知する場を設けた方がいいと思う。(30代・女性)

・健康づくり今後ますます大切、重要です。検診がさらに受けやすい状況、環境が大事だ。(50代・女性)

・健診で病院へ行くのは怖いような敷居が高いような気がします。健診センターのような機関が複数あると行きやすいのかなと思います。(50代・女性)

・健康に関する自己管理についてもっとPRを強化すべきだと思います。(80代・男性)

・主婦が健診を受けやすい環境になると助かります。(40代・女性)

・予約受診してもどうしても待ち時間が多く発生するため、受診に消極的になります。この辺を解消してほしいと思います。(40代・男性)

・50代になり老眼が進行している。病気ではないが、目の健康や、老化への対応への支援施策があると良い。(50代・男性)

医療費適正化について

・医療費の高騰は大きな問題だと思います。俗にいうコンビニ受診をさせないことや、予防医療を充実させ医者にかからないでも済むようにさせることなど、医療費を抑えることに取り組んでほしいです。（40代・男性）

・医療費の低減には健康診断は不可欠です。受診をしやすい環境を整えることが大事です。高度な医療が必要になる前に早期で発見する事で医療費を減らし、医療資源の有効活用を図ることができます。財政面では医学的に必要性の低い検査の中止等も検討する必要があります。費用対効果や財政負担を考慮していくのも大事かと思います。（50代・男性）

お薬手帳について

・自分の健康管理は、自己責任ですので、食生活などに気をつけなければならないと思う。また、お薬手帳は、災害時など、処方箋がなくとも、薬が受け取り可能なので、持つ必要があると思います。（50代・男性）

・お薬手帳をアプリで管理できるならやりたいので、紹介してほしい。（20代・男性）

・スマホのお薬手帳アプリはとても便利ですが、薬局の薬剤師さんが使い方を知らないことがあるので、周知し活用した方が良くと思う。アプリによっては連携していないアプリもあるので、統一されたらなお良いと思う。（40代・女性）

その他

・あまり病院に行くことがないので、かかりつけ医がないに等しいので、少し不安です。そもそもかかりつけ医をどうやって選んだら良いか分かりません。（60代・女性）